PARTsolutions インストールガイド V11

PARTsolutions インストールガイド V11

キャデナス・ウェブ・ツー・キャド株式会社／CADENAS GmbH

Edition V11.00 SP11, 03/2021

Copylight ©1992-2021

本ドキュメント中の本文、及び、図表は細心の注意を以って作成されていますが、キャデナス・ウェブ・ツー・キャド株式会社(以下「キャデナス」)は本ドキュメント中の誤った記述、及び、それに起因する結果に対する民事上、刑事上の法的責任、または、あらゆる責務を負わないものとします。

本ドキュメントの内容に関しては、改善・性能向上等のため予告無く変更することがあります。

本ドキュメントについて、万一不審な点や誤り、記載漏れ等お気づきの点がございましたらキャデナスまでお知らせ下さい。

本ドキュメントの内容に関して、全部または一部をキャデナスの許可無しに、電子的、機械的、録音、その他あらゆる手段によっても、複写、複製することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

本ドキュメントに記載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標及び商標登録です。

制作： キャデナス・ウェブ・ツー・キャド株式会社

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 1-46-13 TEL03-5961-5031

Germany	
CADENAS GmbH Augsburg	Berliner Allee 28 b+c 86153 Augsburg Phone: +49 / (0) 821 / 2 58 58 0-0 Fax: +49 / (0) 821 / 2 58 58 0-999 Hotline: +49 / (0) 821 / 2 58 58 20 License request (Fax): +49 / (0) 821 / 2 58 58 2-999 **E-mail**: <info@cadenas.de> Internet: **www.cadenas.de**
Italy	
CADENAS Italiana s.r.l.	Via Bassa Dei Sassi 1 I-40138 Bologna (BO) Tel.: +39 - 051 - 0870755 Fax: +39 - 051 - 0419105 **E-mail**: <info@cadenas.it>
France	
CADENAS France SARL	14 rue Philibert Collet F-01400 Châtillon sur Charlaronne Tel.: +33 (0)4 81 30 00 04 Fax: +33 (0) 4 74 55 26 96 Hotline: +49/ (0) 821 / 258 58 22 77 **E-mail** -support: <support@cadenas.fr> **E-mail**: <info@cadenas.fr>
Spain	
CADENAS Ibérica	C / Berruguete 90, bajos E - 08035 Barcelona Phone: +34 / 932 749 540 **E-mail**: <info@cadenas-es.com>
USA	
PARTsolutions LLC. USA	200 Techne Center Dr., Suite 118 Milford, OH 45150 USA Phone: +1 / (513) 453 - 04 53 Fax: +1 / (513) 453 - 04 60 **E-mail**: <info@part-solutions.com> **E-mail**-support: <support@part-solutions.com> Internet: **www.part-solutions.com**
Korea	
CADENAS Korea	Donga Venture Tower, 907 305-301 Bongmyung-dong, Yusong-gu, Deajeon, Korea-Süd Phone: +82 / 505 / 936 - 93 60 **E-mail**: <info@cadenas.co.kr>
Japan	
CADENAS web2cad INC. Japan	8-4-1, Toshima, Kita-ku Tokyo 114-0024, Japan Phone: +81-3-59 61 - 50 31 Fax: +81-3-59 61 - 50 32 **E-mail**: <info@cadenas.co.jp>
China	
CADENAS GmbH Shanghai	CADENAS GmbH Shanghai Rep. Office Nr. 885 the People Road Huaihai Zhonghua Building, 603 Room 200010 Shanghai People's Republic of China Phone: +86 / (0) 21 / 63551318 Fax: +86 / (0) 21 / 63551319 **E-mail**: <Marketing@cadenas.cn>

PARTsolutions インストールガイド V11

目次

はじめに.....9

はじめに.....9

注意事項.....9

PARTsolutions 対応バージョン.....9

1. バージョンアップ前の準備.....10

1.1. CADENAS 変数の確認.....10

1.2. CADENAS_SETUP のバックアップ.....10

1.3. CADENAS_SITESETUP のバックアップ（V10、V11 のみ）.....11

1.4. CADENAS_DATA のバックアップ.....11

1.5. V9、V10 または V11 の旧 SP のアンインストールを実行.....12

2. V11 のインストール.....20

2.1. インストール.....20

2.1.1. cdstart.exe の実行.....20
2.1.2. インストールタイプの選択.....20
2.1.3. ソフトウェアのインストール先「%CADENAS%」フォルダの指定.....22
2.1.4. データの保存先「%CADENAS_DATA%」の指定.....24
2.1.5. PARTsolutions プログラムの指定.....25
2.1.6. CAD インテグレーションの指定.....26
2.1.7. オプション製品の選択.....27
2.1.8. プロキシ設定.....28
2.1.9. ハードウェアロックの使用.....29
2.1.10. PARTupdate の使用.....29
2.1.11. クラシフィケーションの選択.....30

2.1.11.1. クラシフィケーションとは？ 30
2.1.12. 最終確認 32
2.1.13. ソフトウェアコピーの完了後の操作 34
2.1.14. インストールの終了 35
2.1.15. CAD インテグレーションの追加／削除 36
2.2. インストール後の操作 39
2.2.1. PARTadmin の開始 39
2.2.2. CADENAS_SITESETUP の移行 40
2.2.3. ライセンスの適用 41
2.2.3.1. ノードロックライセンスファイルの適用 41
2.2.3.2. フローティングライセンスまたは Named ライセンスの場合 44
2.2.4. CAD インテグレーションの設定の移行 46
2.2.5. カタログのインストール 49
2.2.5.1. カタログインストール：オフライン形式 49
2.2.5.2. カタログインストール：オンライン形式 51
2.2.6. CAD インテグレーションのアクティベイト 53
2.2.6.1. CAD 別の設定 55
2.2.7. その他の設定 66
2.2.7.1. フォントの設定 66
2.3. システム要件 69
2.3.1. ソフトウェアコンポーネント 69
2.3.2. システム要件 70
2.3.3. ハードウェア要件 71
2.3.4. ネットワーク要件 72
2.3.5. LinkDB 72
2.3.6. 備考 73
2.3.7. 環境変数、レジストリエントリについて 73
2.3.7.1. $CADENAS_SITESETUP 74
2.3.7.2. 備考 76
2.3.7.3. start.env による環境変数のセット 76
2.3.8. 地域と言語のオプションの変更 – オペレーティングシステム調整 77
3. FLM サーバのインストール 78
3.1. FLM インストレーションとは？ 78
3.2. 要件 79
3.3. 旧バージョンの FLM サーバプログラムをアンインストール 79

3.4. FLM サーバーのインストール(マスター) 79

3.5. FLM サーバのインストール(バックアップ) 83

3.6. PARTadmin を開始 84

3.7. ライセンスファイルの申請および適用 85

4. PARTapplicationServer のインストール 94

4.1. 基礎情報 94

4.2. サービスとして PAPPSERVER をインストール 94

4.3. マルチサイトインストール概要 95

5. クライアント-サーバーインストレーション 98

5.1. サーバーインストレーション 98

5.1.1. 言語選択 101
5.1.2. 設定用のオープニングダイアログ 101
5.1.3. ライセンス契約 102
5.1.4. マルチ・ワークステーション・インストールの選択 102
5.1.5. サーバーインストレーション 103
5.1.6. リリースディレクトリの選択 / 新規共有の設定 104
5.1.7. プログラムパッケージ選択 108
5.1.8. PARTapplicationServer のサービスとしての設定 110
5.1.9. クラシフィケーションの選択 111
5.1.10. ファイルのコピー開始（実際のインストール作業） 113
5.1.11. インストール終了時 114
5.1.12. 終了 116

5.2. クライアントインストレーション 116

5.2.1. psol_workstation.exe の実行 116
5.2.2. 言語選択 117
5.2.3. 設定用のウェルカムダイアログ 117
5.2.4. ライセンス契約 118
5.2.5. マルチワークステーションインストール 118
5.2.6. クライアントインストレーション／ソフトウェアパスの設定 119
5.2.7. ローカルディレクトリの定義 121

5.2.8. パッケージ選択 121
5.2.8.1. プロキシ設定 123
5.2.9. その他の設定 123
5.2.10. コピー開始 124
5.2.11. インストール終了 124
5.2.12. プログラム開始 125

改定履歴

日時	Rev	記事
2021/03	1	V1100SP11 版　初版
2021/08	2	サーバークライアントインストール追加

はじめに

はじめに

本書は、従来の PARTsolutions コンテントユーザー様向けの、PARTsolutionsV11 の新規インストール、及び、PARTsolutionsV9、V10 から V11 へバージョンアップ操作を記した資料です。

> NOTE :
> 本書は以前のパッケージソフトウェアとして販売していたお客様が対象です。CADENAS コンサルティングによりシステム導入されたお客様は本書では対応できませんのでご注意ください。

注意事項

- 本書は、各オペレーティングシステム (OS)の有識者を対象に記載されております。操作等の OS に関するご質問はハードウェア保守契約元へお問い合わせください。
- OS の設定や本書の操作で PARTsolutions の設定ファイル等を修正・変更する際は、必ず事前にバックアップをお取りください。
- 本書の操作は Administrator 権限を持つ Windows ユーザーで実行してください。
- 本書内容は、以前から PARTsolutions contents をご利用中のお客様が、ご自身でバージョンアップ操作を行うための内容です。コンサルティング案件のお客様の場合は別途ご相談ください。

PARTsolutions 対応バージョン

本書は次の PARTsolutions のバージョンに対応しております。

- PARTsolutions:Version V11.00 (SP11)

V11 に関するインフォメーション

V11 では、以下の CAD インターフェースが提供されます。

- AutoCAD 2014 - 2021
- Creo Direct Modelling 18-20.x
- Creo Parametric 1-7, ElementsPro 5.0
- Inventor 2014-2021
- NX 8 – 12, NX1847, NX1872, NX1899, NX1926 シリーズ

  > NOTE :
  > NX12 について特記事項があります。
  > NX12.0.0 については、PARTsolutions V11.00SP3 までの対応となります。PARTsolutions V11.00Sp4 からは NX12.0.1 のみ対応します。
  > これは NX12 特有の注意です。NX の以前のメジャーリリースについては影響なく、NX8 まで対応します。

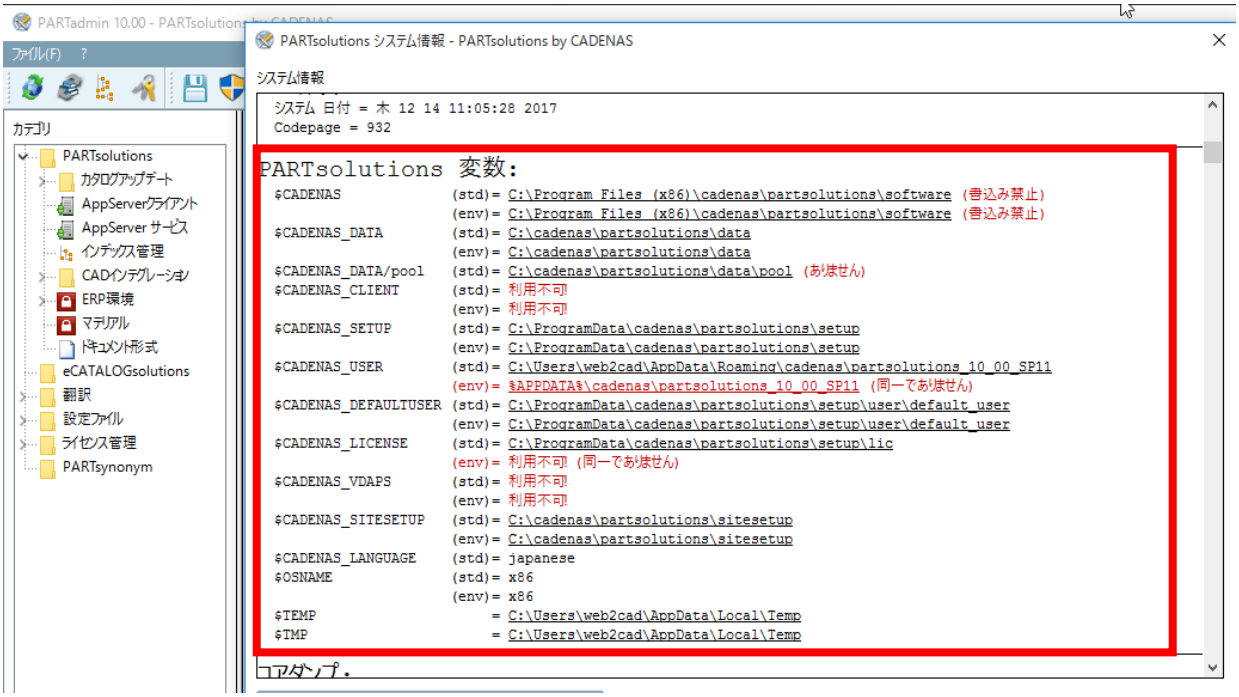
- Solid Edge ST6-ST10, 2019-2020
- SolidWorks 2014-2020

1. バージョンアップ前の準備

V9 または V10 からバージョンアップする場合、または V11 を新しい SP にバージョンアップする場合、まず本章の操作を実行してください。V11 を完全新規インストールする場合は「2 V11 のインストール」へ進んでください。

1.1. CADENAS 変数の確認

PARTadmin を起動して「F7」キーを押してください。「PARTsolutions システム情報」が表示されるので、その中の「PARTsolutions 変数」一覧の「CADENAS~」という環境変数を記録してください。この情報をテキストに保存することもできるのでそれでも可能です。



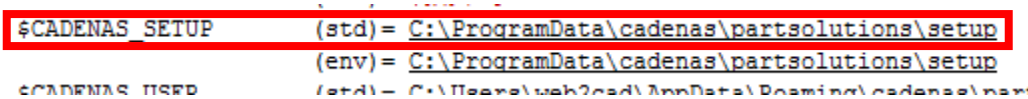
以降の説明は、上記のディレクトリをサンプルとして使用します。

> NOTE：
> 上記変数の値は各環境により異なります。
> V9 では「CADENAS_SIESETUP」環境変数はありません。

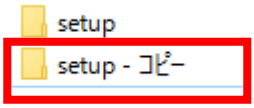
1.2. CADENAS_SETUP のバックアップ

次に現在の CADENAS_SETUP のバックアップを取得します。

PARTadmin を起動し、「F7」キーをクリックして「PARTsolutions システム情報」を表示して、「PARTsolutions 変数」一覧から「$CADENAS_SETUP」の(std)とある行のリンクをクリックします。



このとき、「%cadenas_setup%」ディレクトリが開くので一つ上の階層に移動し「setup」フォルダをコピーします。

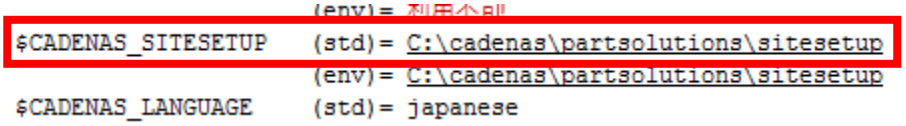


NOTE：
CADENAS_SITESETUP を使用している場合必要ありません。

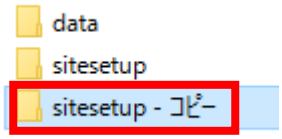
1.3. CADENAS_SITESETUP のバックアップ（V10、V11 のみ）

NOTE：
V9 からのバージョンアップの場合、または V10 で CADENAS_SITESETUP を使用していない場合は、次の「1.4 CADENAS_DATA のバックアップ」に進んでください。

PARTadmin を起動し、「F7」キーをクリックして「PARTsolutions システム情報」を表示して、「PARTsolutions 変数」一覧から「$CADENAS_SITESETUP」の(std)とある行のリンクをクリックします。



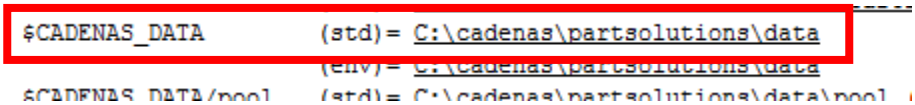
このとき、「%cadenas_sitesetup%」ディレクトリが開くので一つ上の階層に移動しそのフォルダをコピーします。



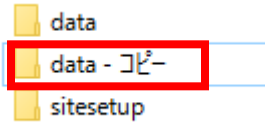
このフォルダの内容物は「2.2.2 CADENAS_SITESETUP の移行」で使用します。

1.4. CADENAS_DATA のバックアップ

PARTadmin を起動し、「F7」キーをクリックして「PARTsolutions システム情報」を表示して、「PARTsolutions 変数」一覧から「$CADENAS_DATA」の(std)とある行のリンクをクリックします。



このとき、「%cadenas_data%」ディレクトリが開くので一つ上の階層に移動しそのフォルダをコピーします。



NOTE：
複数のカタログをインストールしており%CADENAS_DATA%が巨大で簡単にコピーできないなど、バックアップが困難な場合は必須ではありません。

1.5. V9、V10 または V11 の旧 SP のアンインストールを実行

V9、V10 または V11 の旧 SP をアンインストールします。

NOTE：
以下、V10 のアンインストールを例に解説しています。その他でも手順は同じです。
「サーバークライアントインストール」の場合はサーバーで操作を行います。

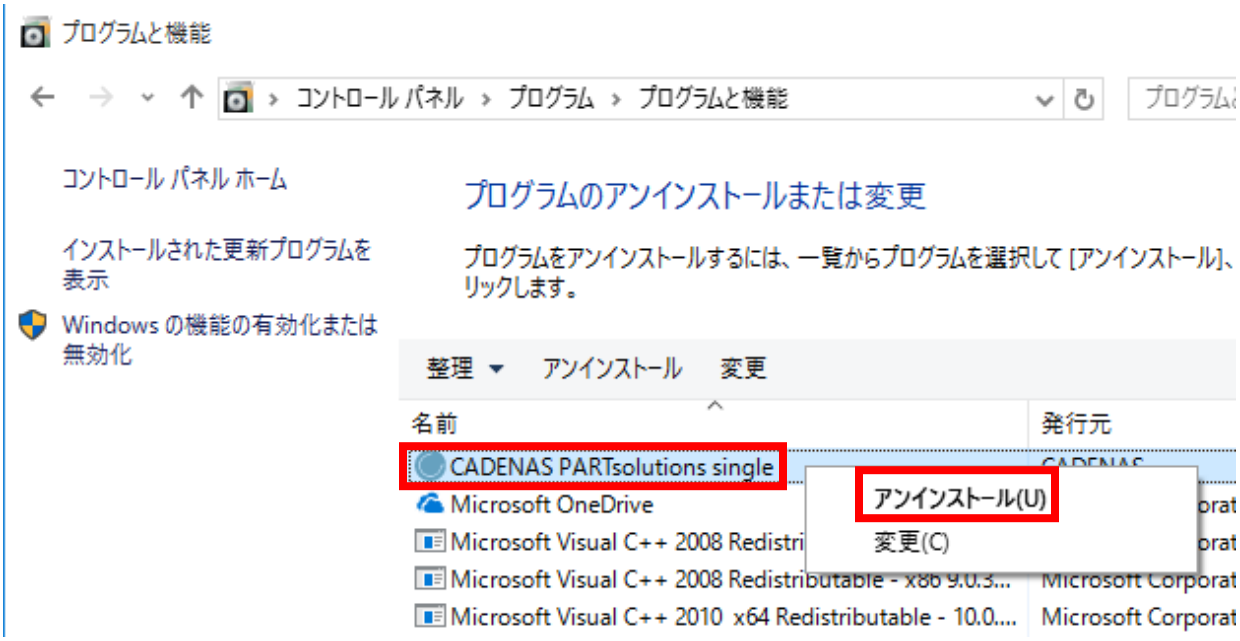
「コントロールパネル」から「プログラムのアンインストール」を選択します。

以下インストレーションにより異なります。

シングルワークステーションの場合

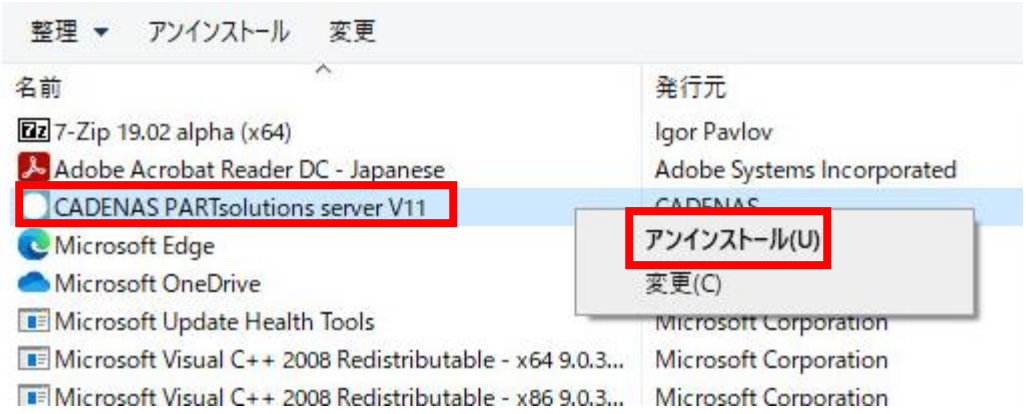
表示されたプログラムのリストから「CADENAS PARTsolutions single」を選択し、右クリックでコンテキストメ

ニューを表示、「アンインストール」コマンドを実行します。

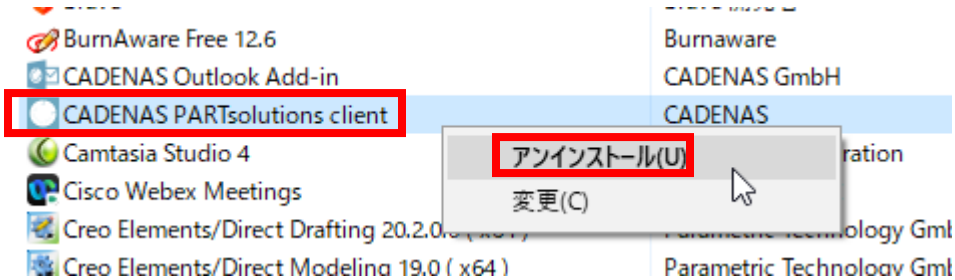


サーバークライアントインストールの場合

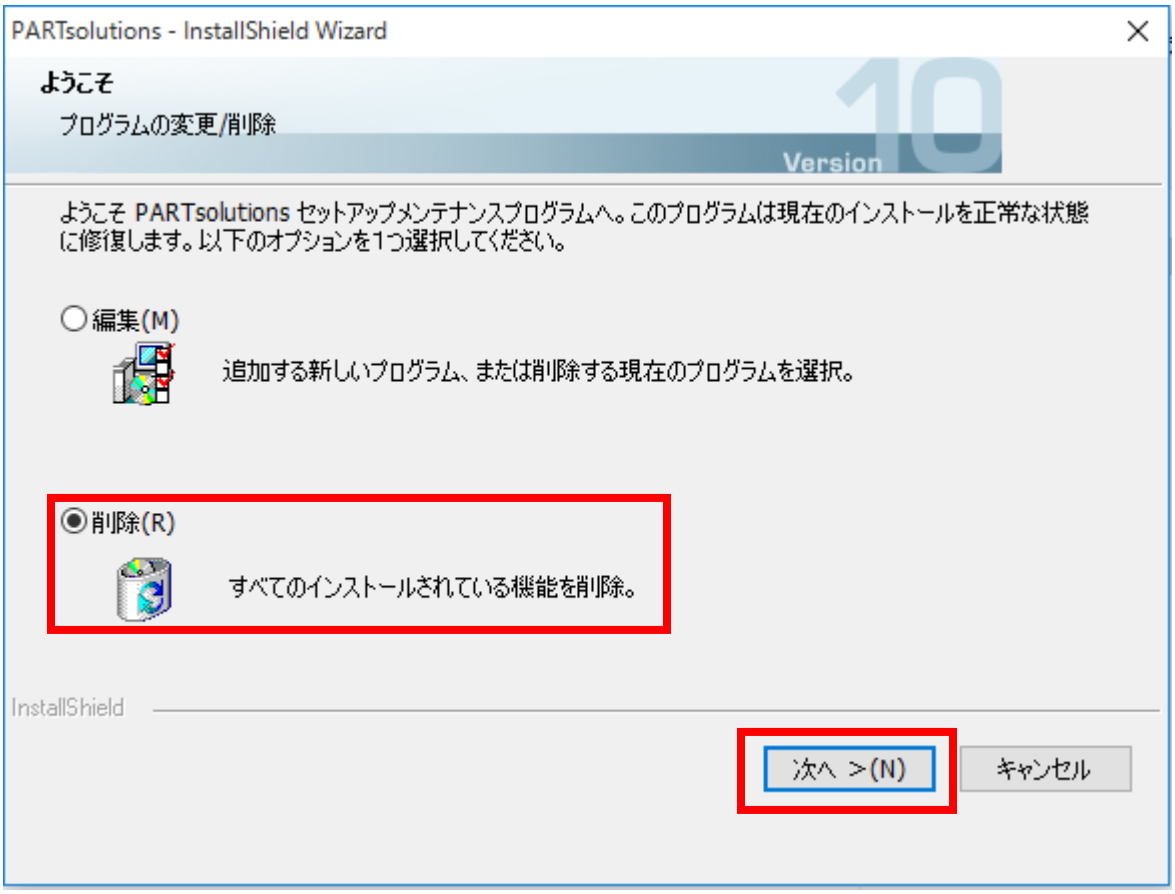
サーバー側は「CADENAS PARTsolutions server～」です。



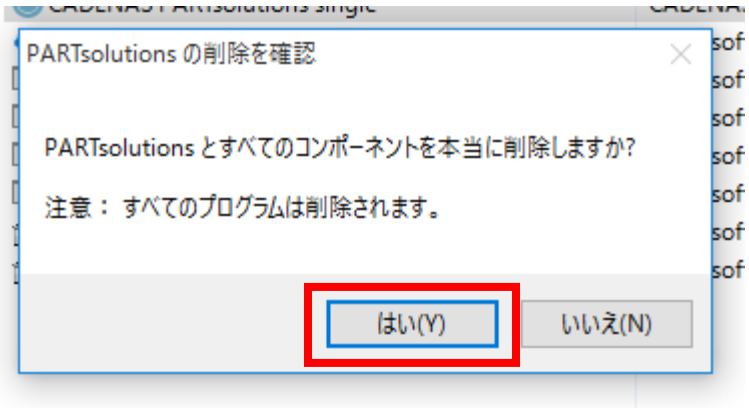
クライアントは「CADENAS PARTsolutions client」です。



以下のダイアログが表示されるので「削除」を選択し「次へ」をクリックします。

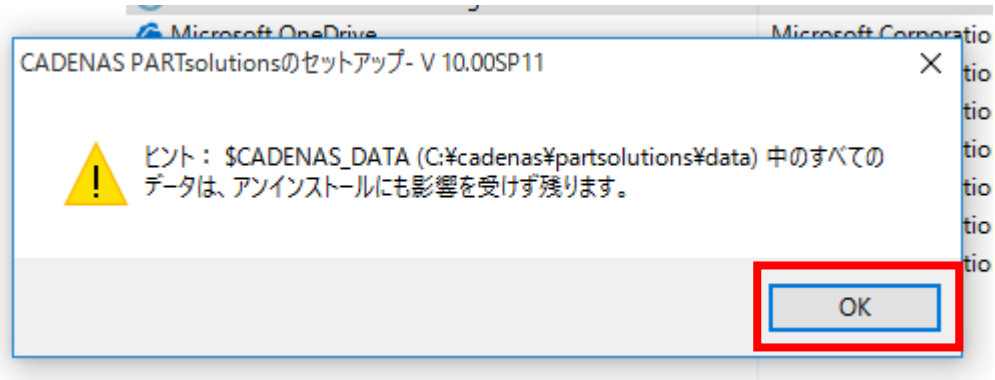


次のダイアログで「はい」をクリックします。直後にアンインストールが開始されます。

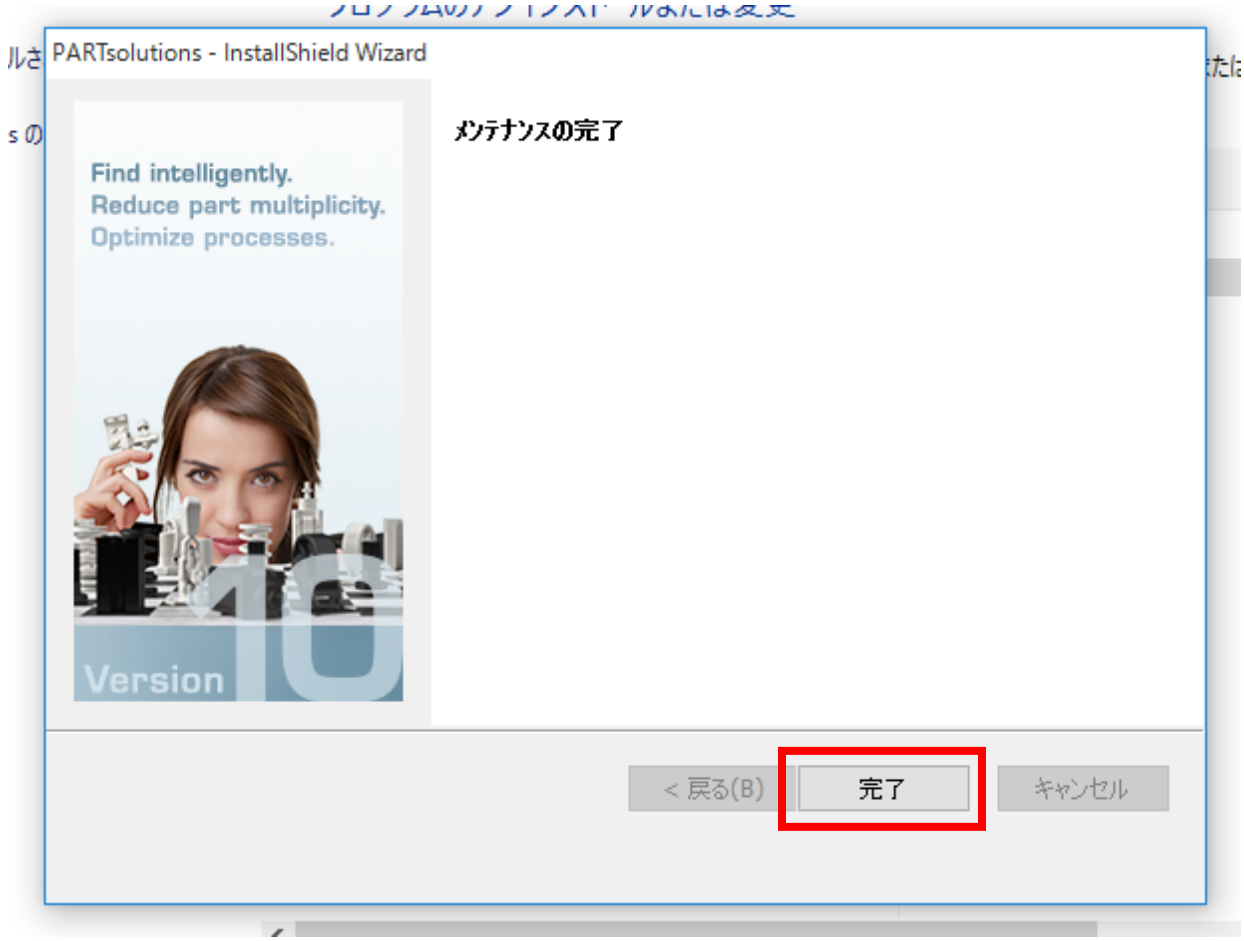


アンインストール中は以下のウィンドウが表示されます。

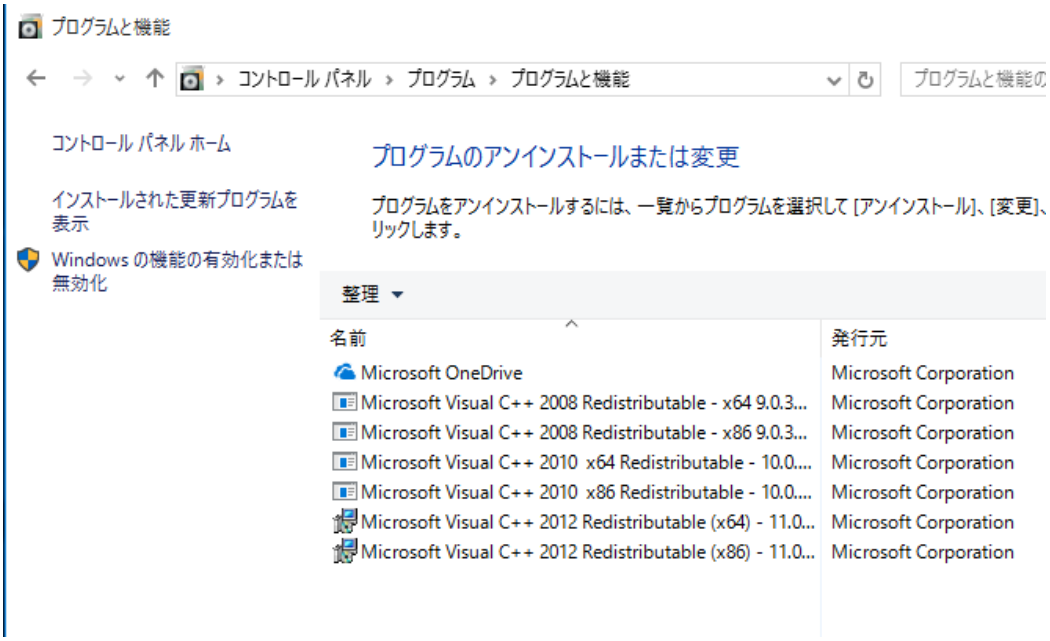
終了すると以下のメッセージが表示されます。これはカタログデータやエクスポート済みに CAD データを格納する「%cadenas_data%」フォルダは削除されておらず、以前の状態が保持されたままであることを意味します。確認したら「OK」をクリックします。



以下のダイアログが表示されるので「完了」をクリックし、処理を終了します。



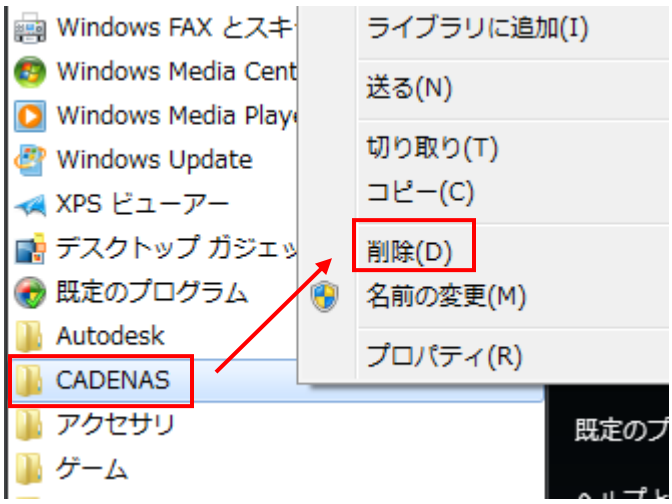
クリック後、以下の図のようにリストから「CADENAS PARTsolutions～」が削除されます。



NOTE :
削除されない場合は、コンテキストメニューの「最新の情報に更新」を選択すると削除されます。

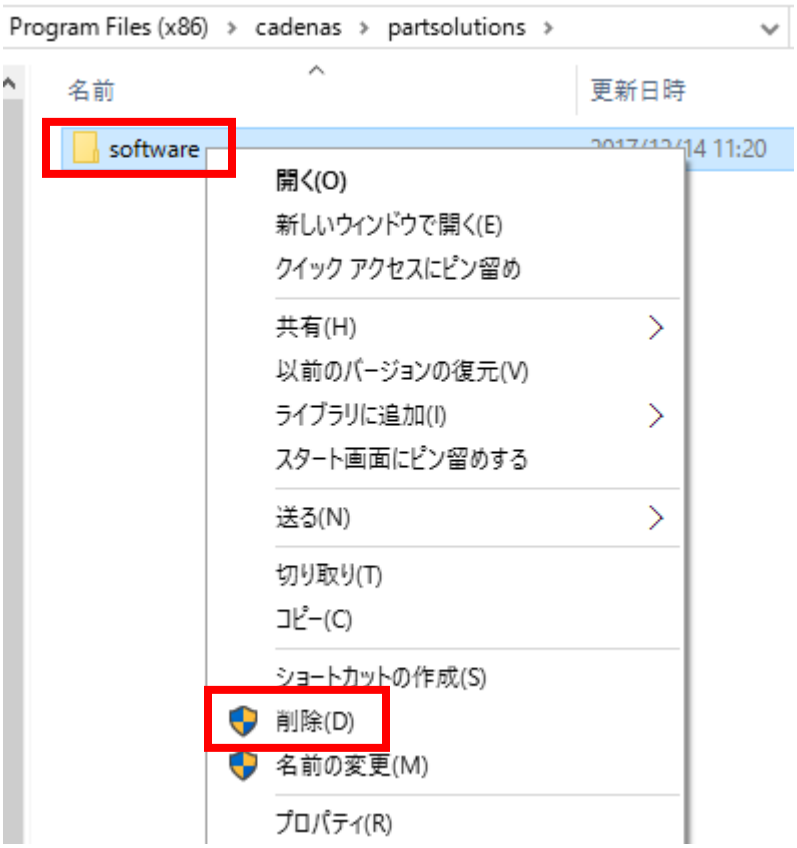
最後に残ったフォルダを削除します。

- スタートメニューの「CADENAS」フォルダ

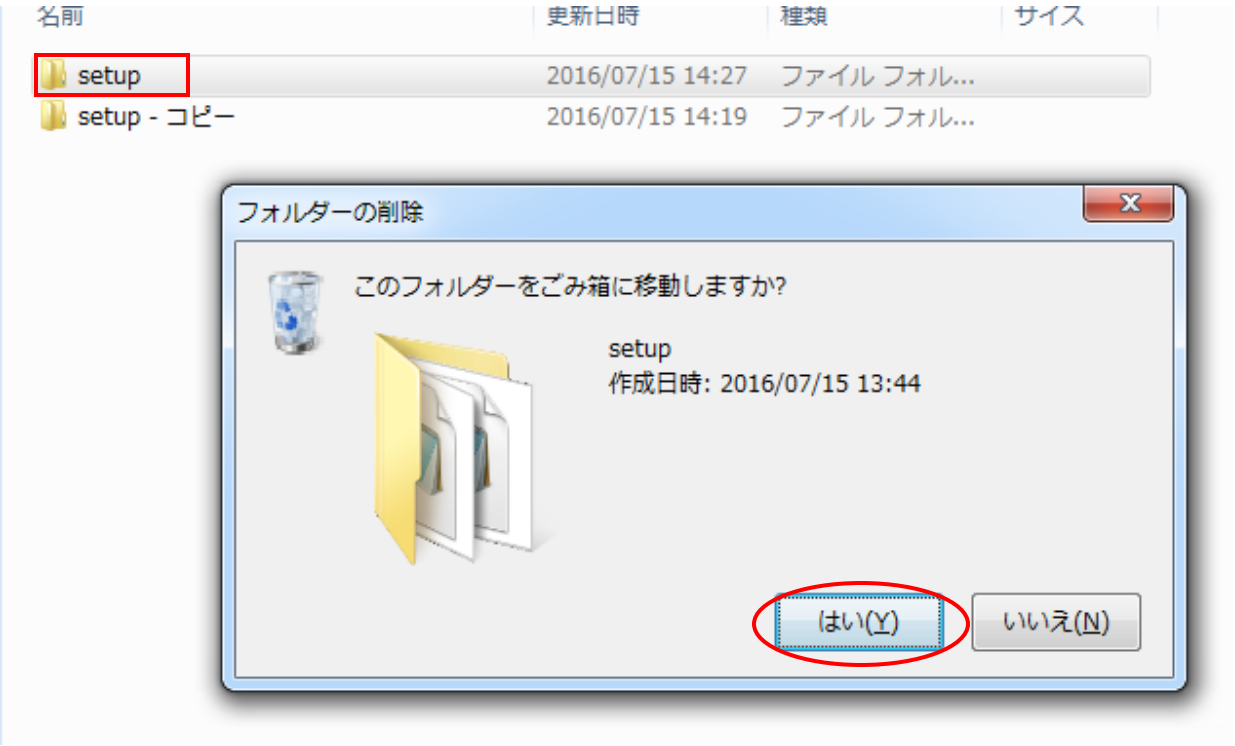


NOTE :
削除されている場合もあります。

- 「%CADENAS%」フォルダの残り

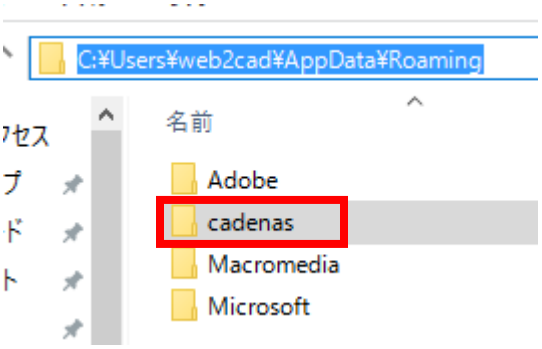


➢ 「%CADENAS_SETUP%」フォルダの残り



NOTE :
削除されている場合もあります。

- 「%CADENAS_USER%」フォルダ



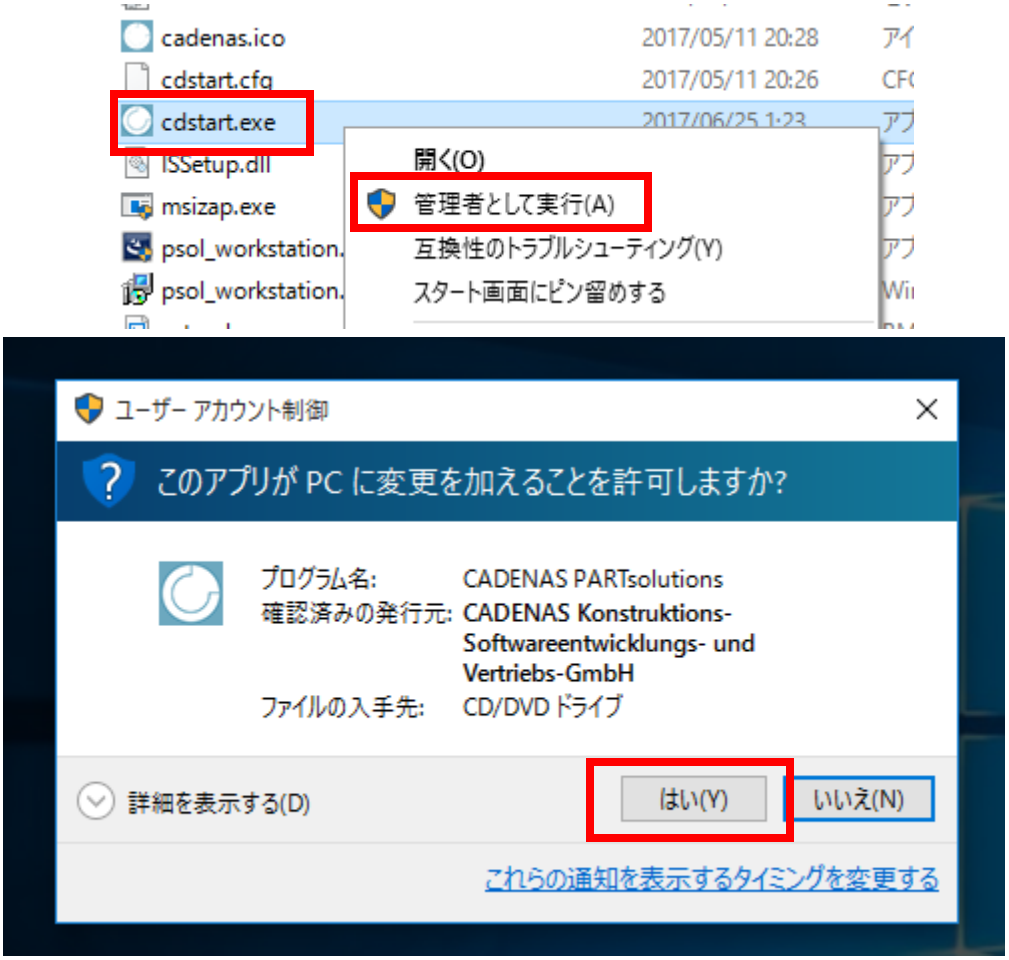
これでアンインストールは終了です。次の V11 のインストールを開始します。

2. V11 のインストール

2.1. インストール

2.1.1. cdstart.exe の実行

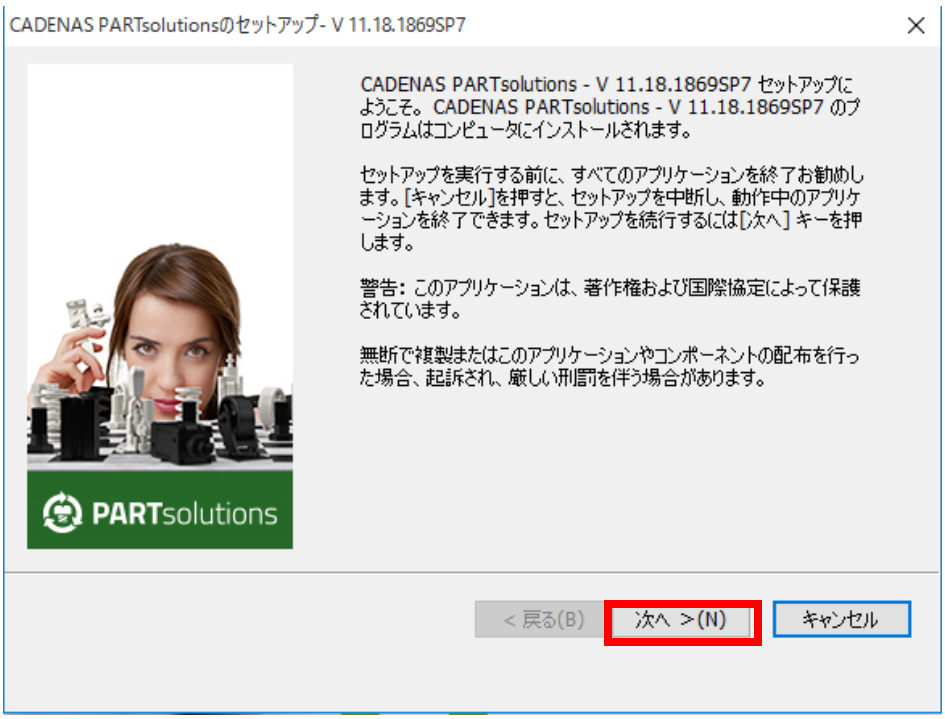
V11 メディアは DVD、ISO ファイル、または zip のいずれかで弊社より送付されます。メディア内の「cdstart.exe」を管理者として実行します。



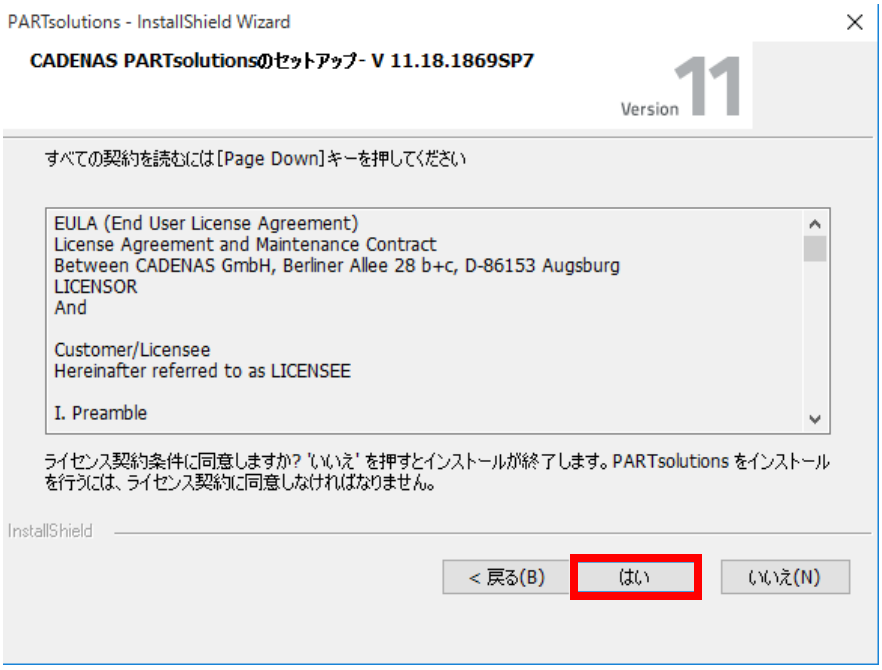
2.1.2. インストールタイプの選択

以下のダイアログが起動するので「インストール（シングルユーザークライアント）」を選択します。

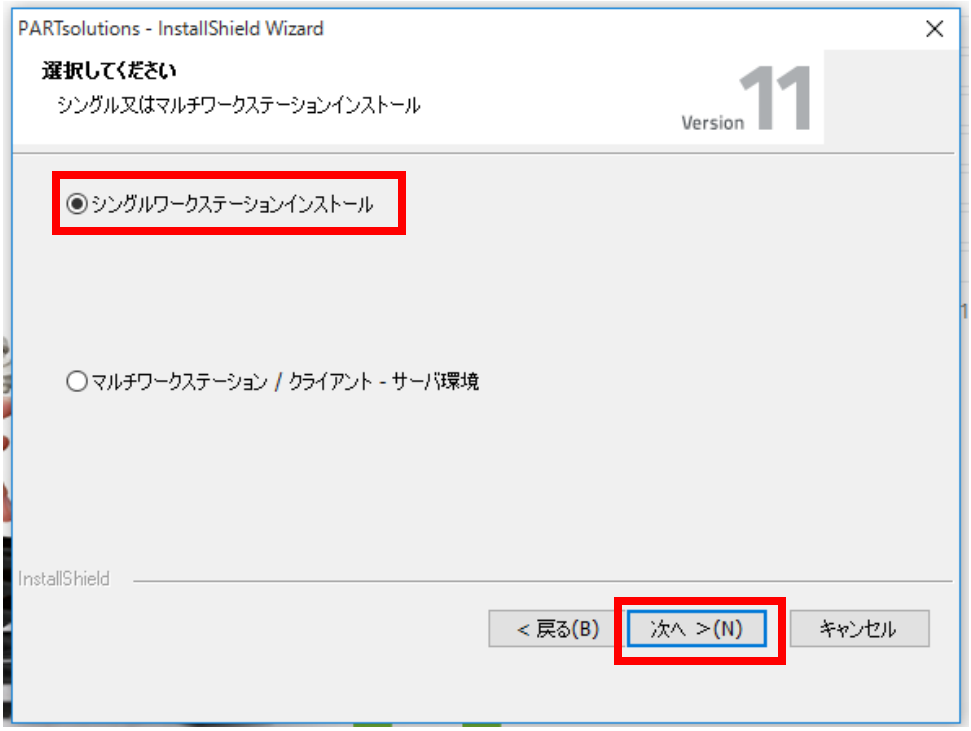
次に以下のダイアログが表示されるので「次へ」をクリックし先に進みます。



次の画面では「はい」をクリックします。

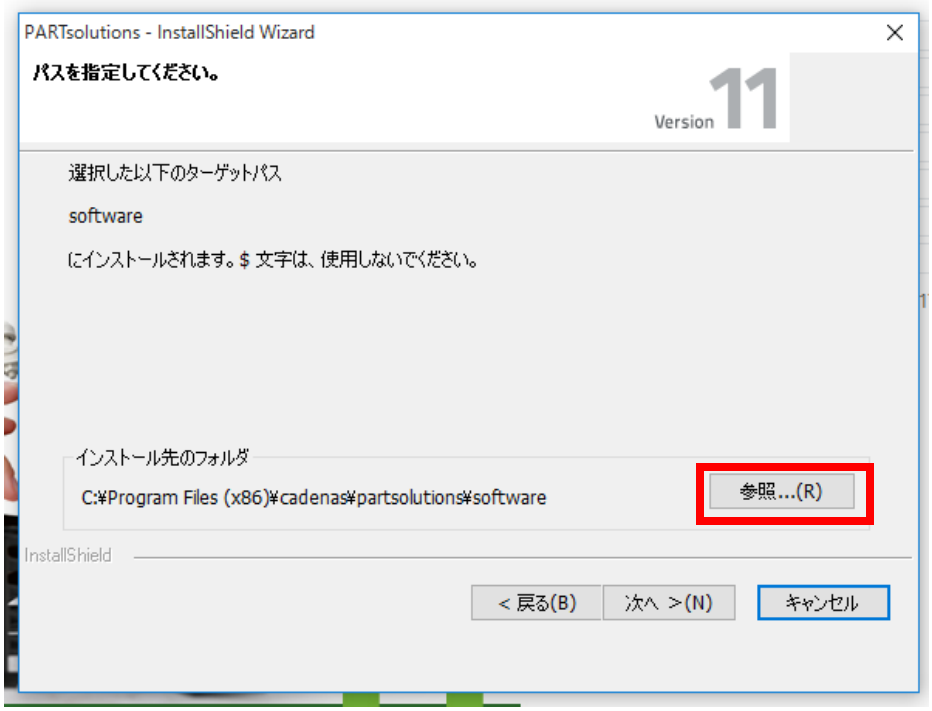


次の画面では「シングルワークステーション」を選択して「次へ」をクリックします。

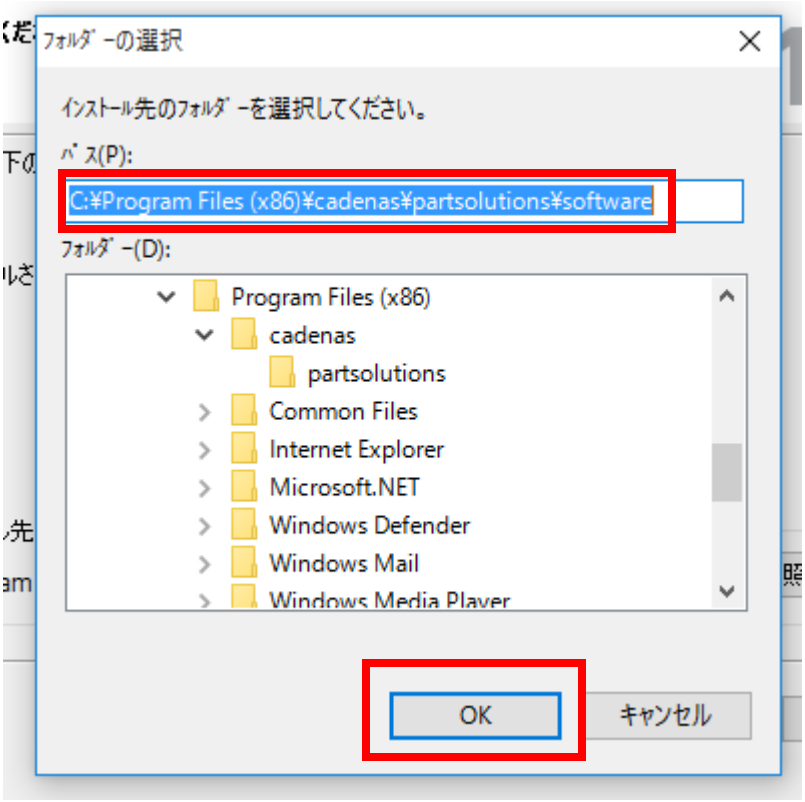


2.1.3. ソフトウェアのインストール先「%CADENAS%」フォルダの指定

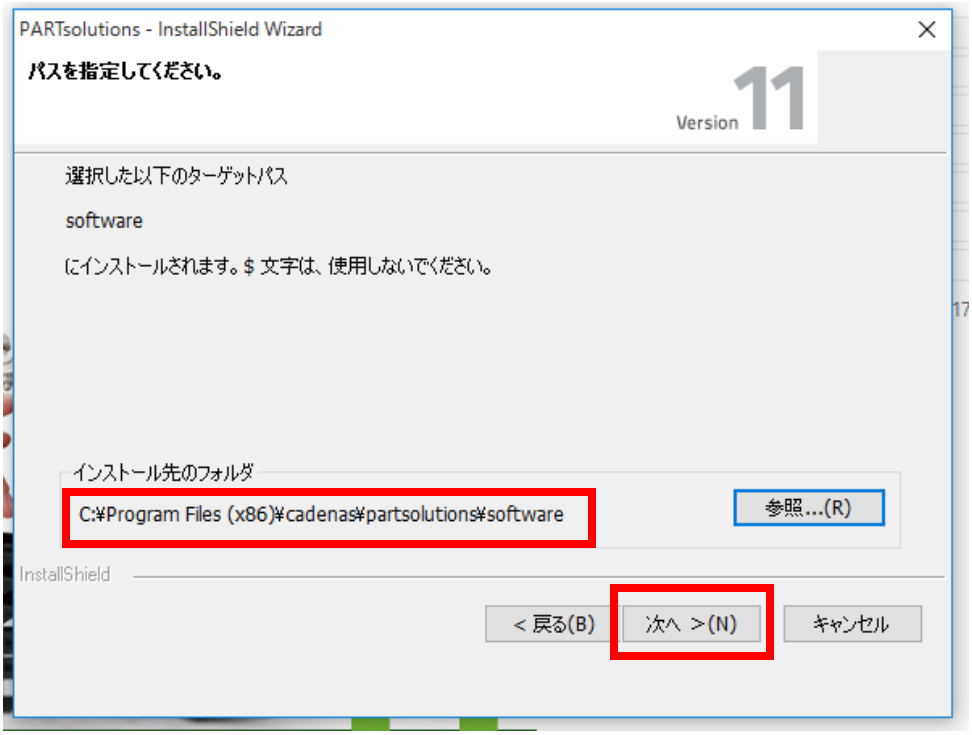
次の画面では、ソフトウェアのインストール先となる「%CADENAS%」フォルダを指定します。変更する場合は「参照」ボタンをクリックします。



このとき「フォルダの選択」ダイアログが開くので任意のフォルダをしています。本書では以前の「%CADENAS%」と同じフォルダを指定しています。指定したら「OK」をクリックします。

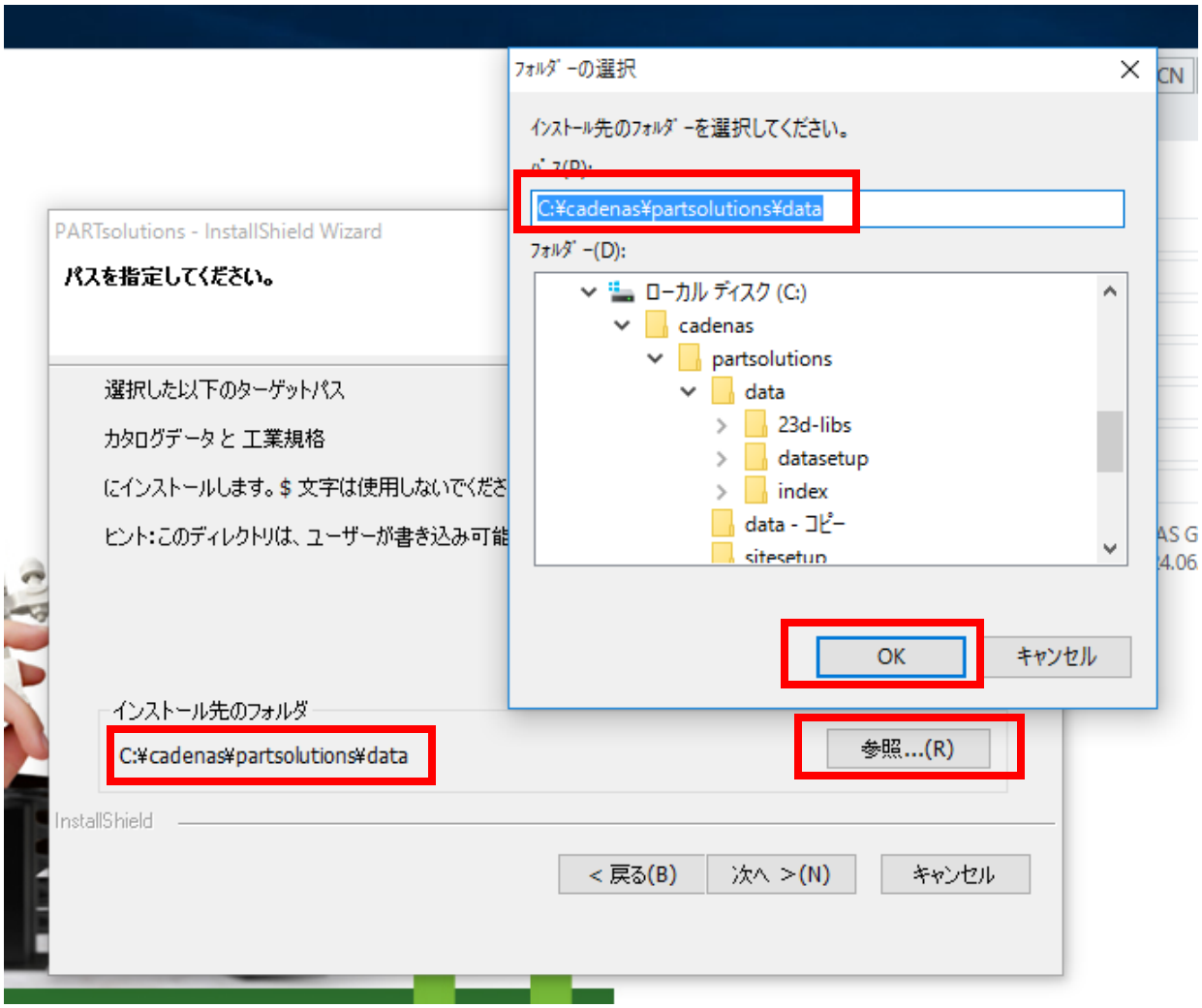


このとき「インストール先のフォルダ」に指定したフォルダのパスが表示されますので、正しいか確認します。確認したら「次へ」をクリックします。



2.1.4. データの保存先「%CADENAS_DATA%」の指定

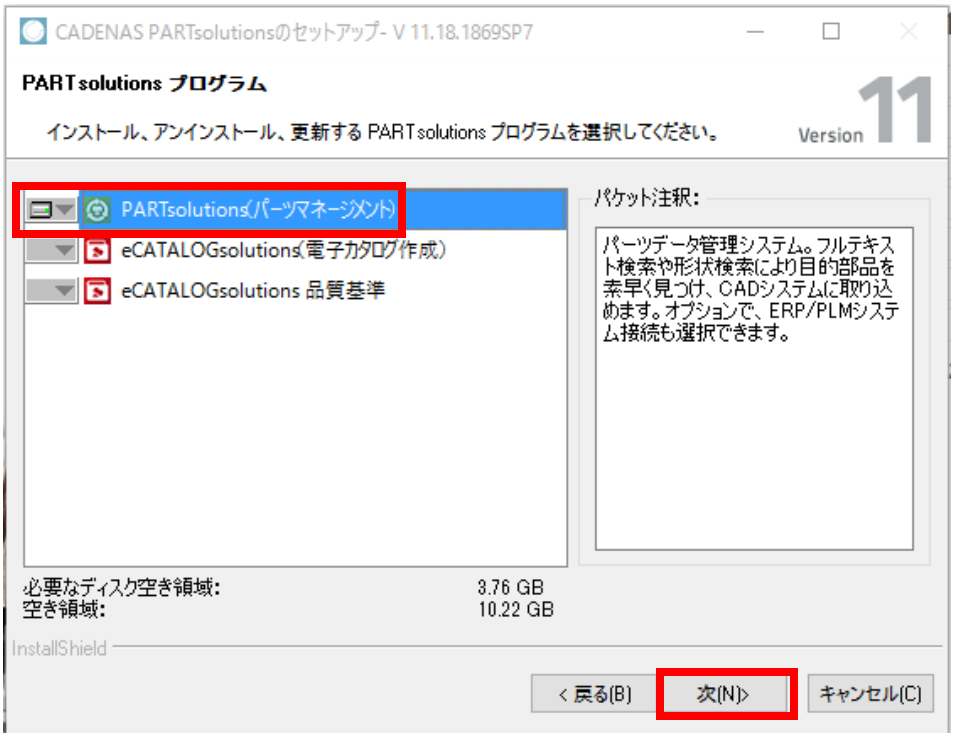
次は「%CADENAS_DATA%」フォルダの指定です。以前の「%CADENAS_DATA%」を使う場合「参照」ボタンをクリックし、残しておいた「%CADENAS_DATA%」フォルダを指定します。正しく指定されたことを確認したら「次へ」をクリックします。



新たに指定する場合は、空のフォルダを作成して指定してください。

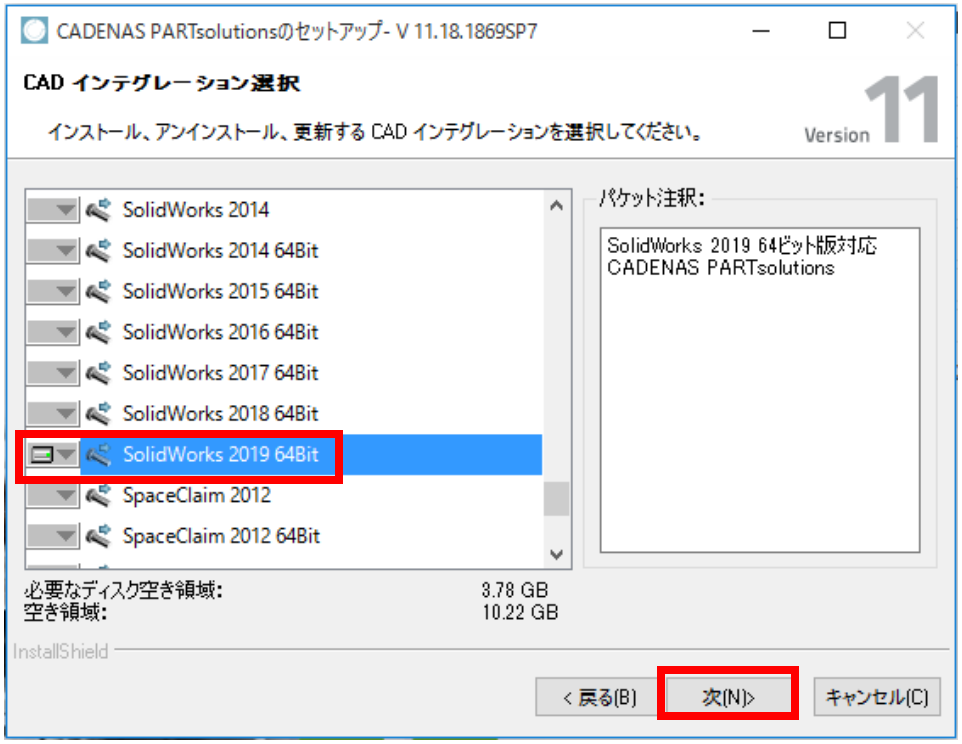
2.1.5. PARTsolutions プログラムの指定

「PARTsolutions（パーツマネージメント）」だけを選択して「次へ」をクリックします。



2.1.6. CAD インテグレーションの指定

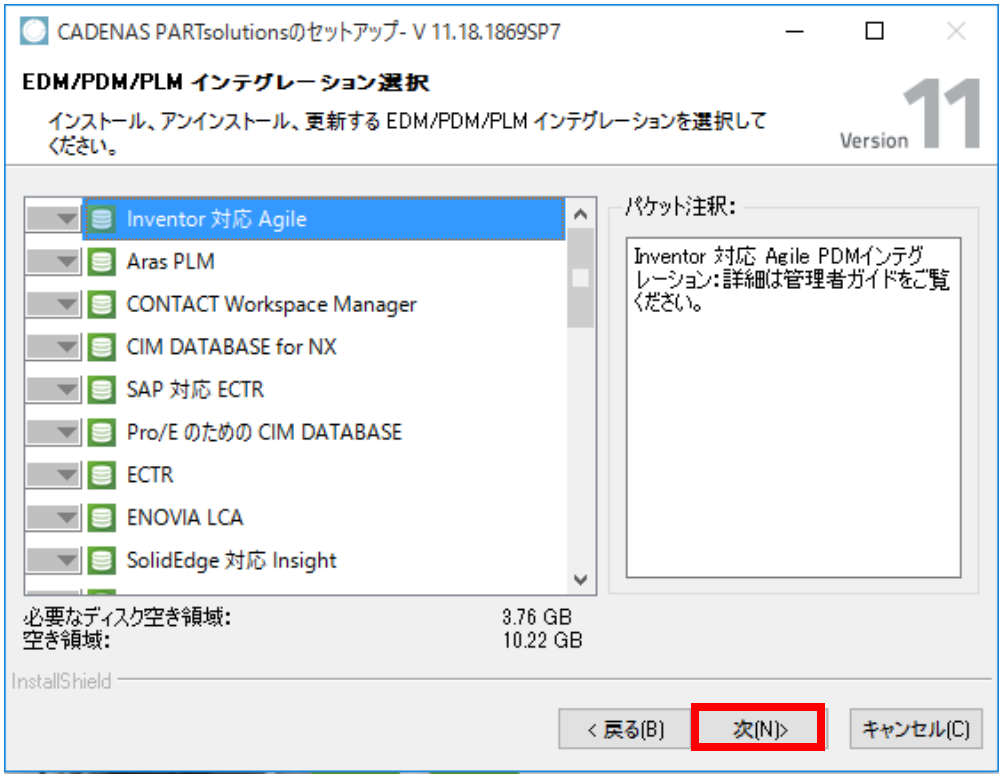
PARTsolutions と連携して使用する CAD を選択します。図の例は「SolidWorks 2019 64 bit 版」と連携して使用するためのモジュールを選択した例です。

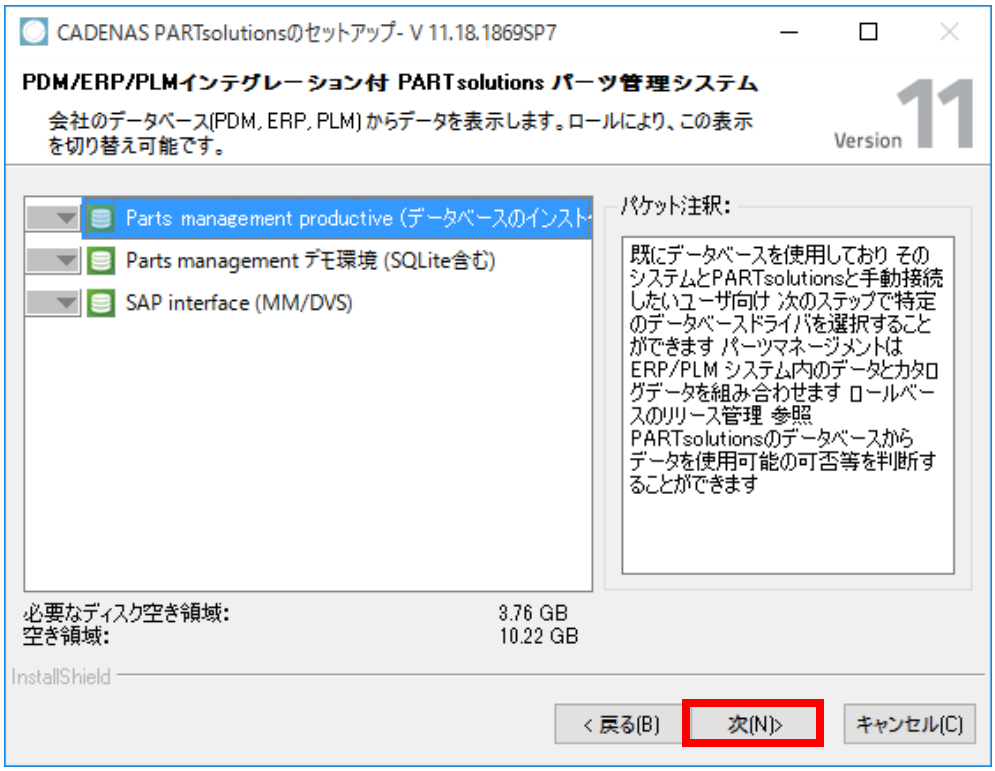


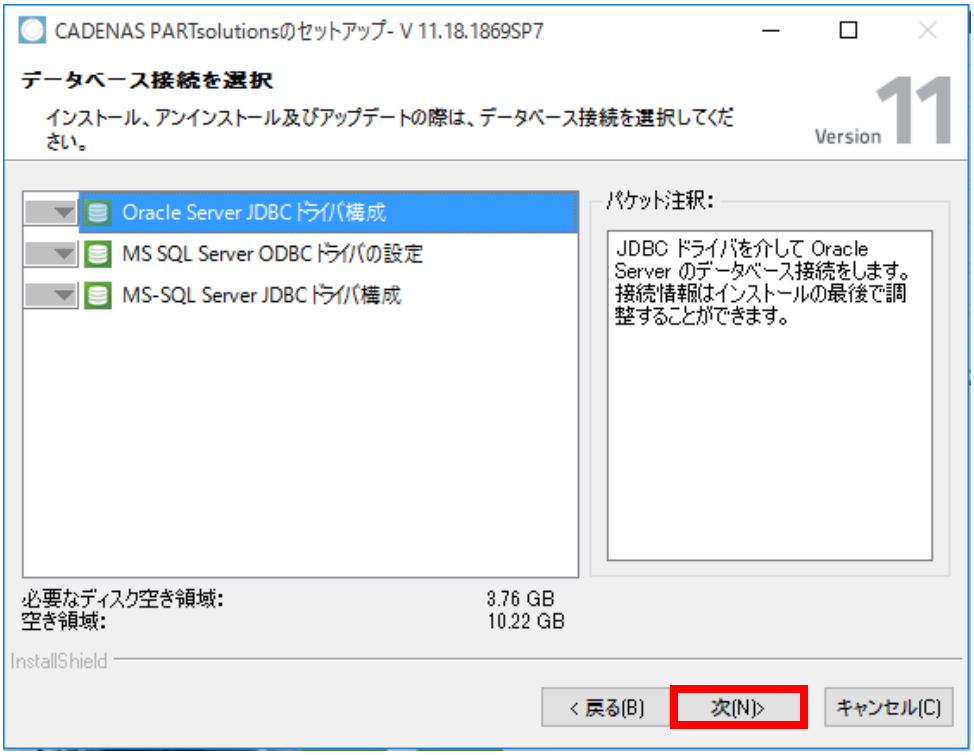
基本的に CAD 名と同じですので、自身の使用する CAD を選択して「次へ」をクリックします。

2.1.7. オプション製品の選択

以下のステップでは何も選択せずに、順次「次へ」をクリックします。

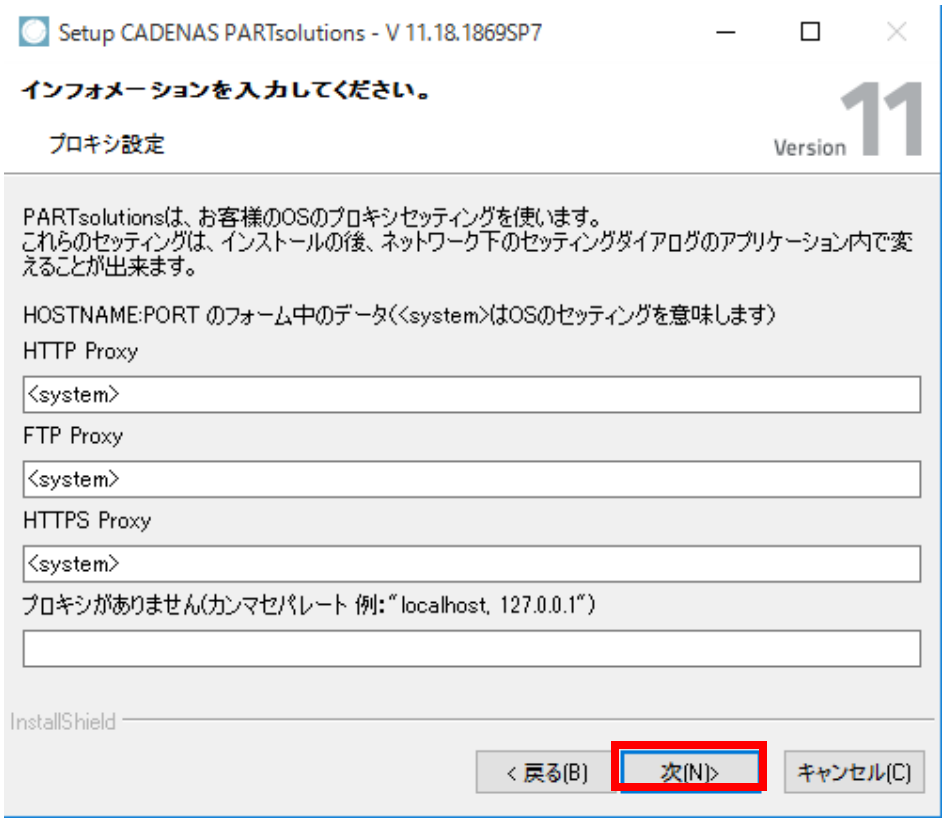






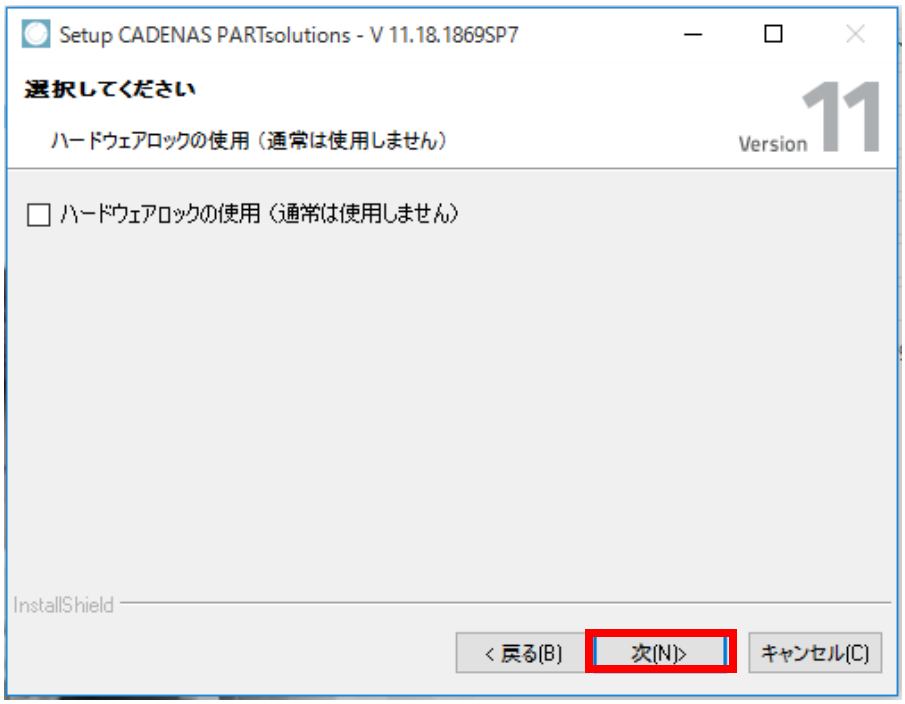
2.1.8. プロキシ設定

OS の設定が引き継がれます。何も変更せず「次へ」をクリックします。



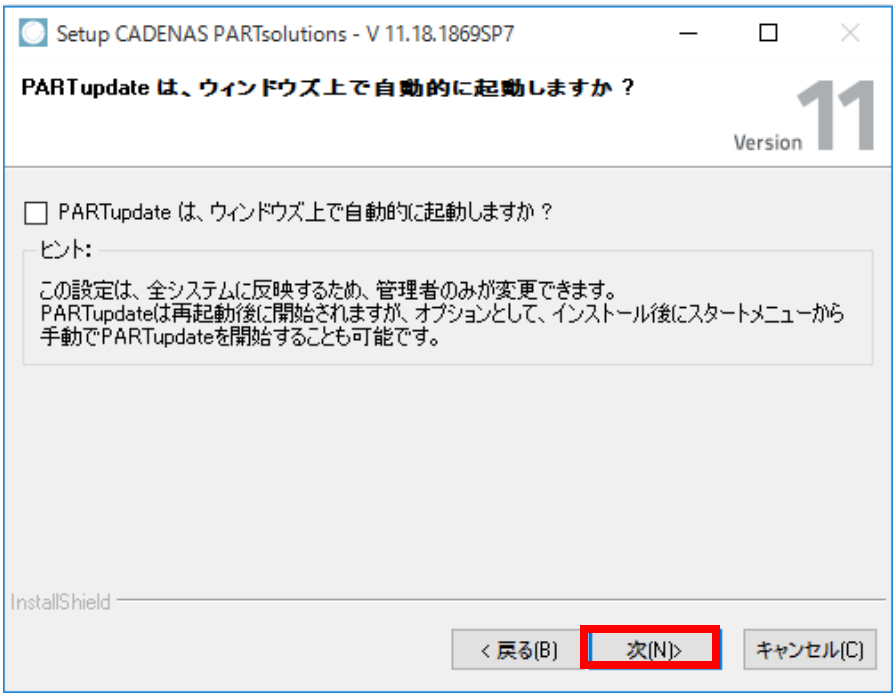
2.1.9. ハードウェアロックの使用

チェックが外れた状態を確認した上で「次へ」をクリックします。



2.1.10. PARTupdate の使用

チェックが外れた状態を確認した上で「次へ」をクリックします。

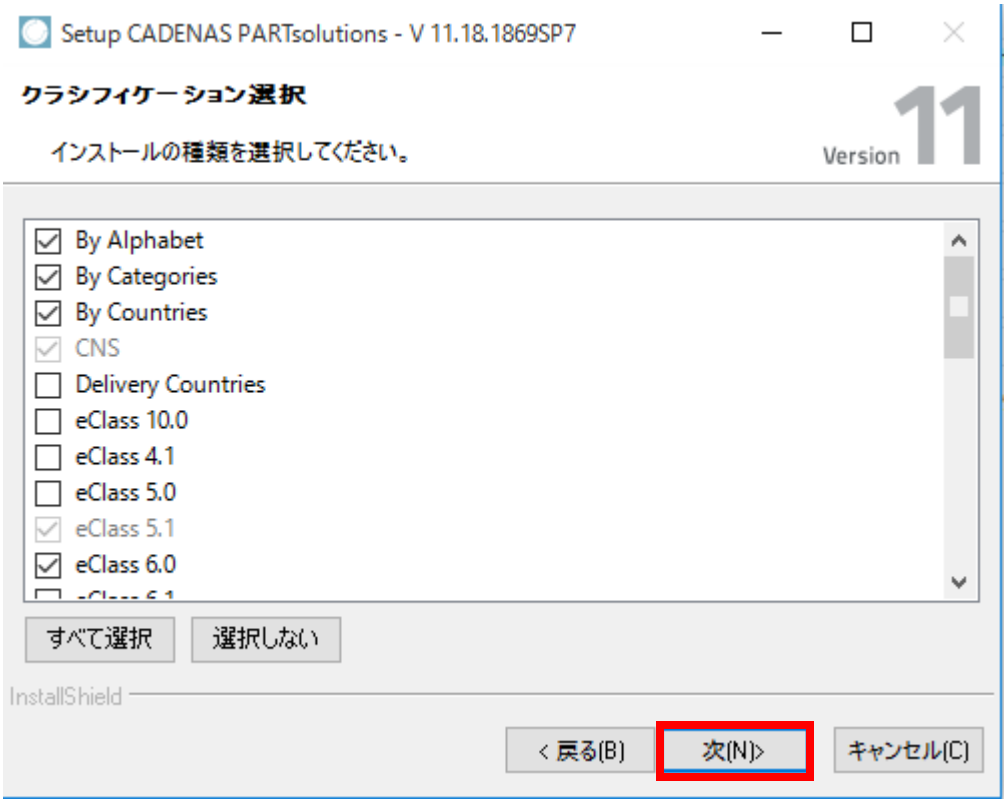


NOTE :

使用したい場合は弊社までご相談ください

2.1.11. クラシフィケーションの選択

適宜選択し（「選択しない」でも問題ありません）「次へ」をクリックします。

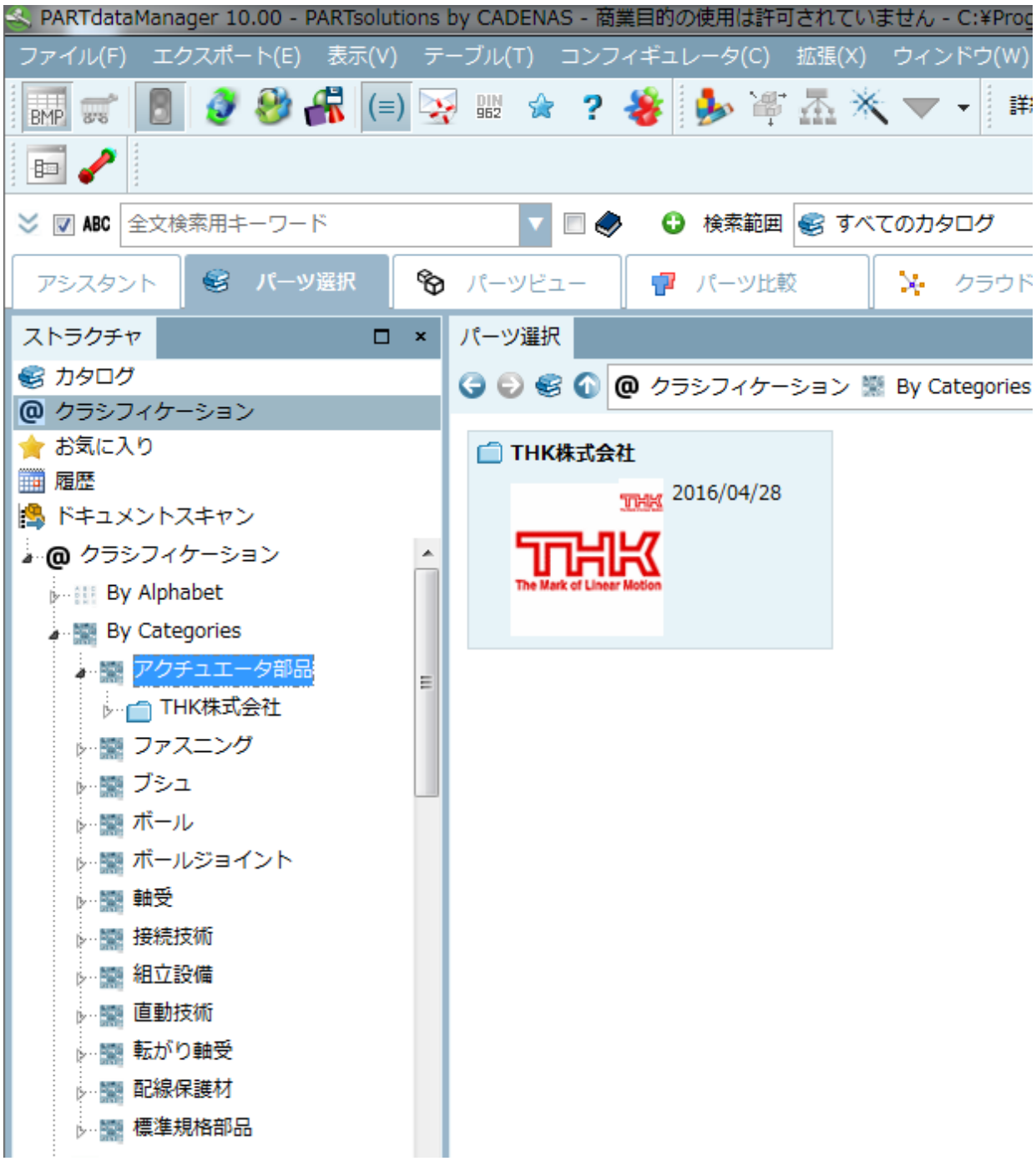


2.1.11.1. クラシフィケーションとは？

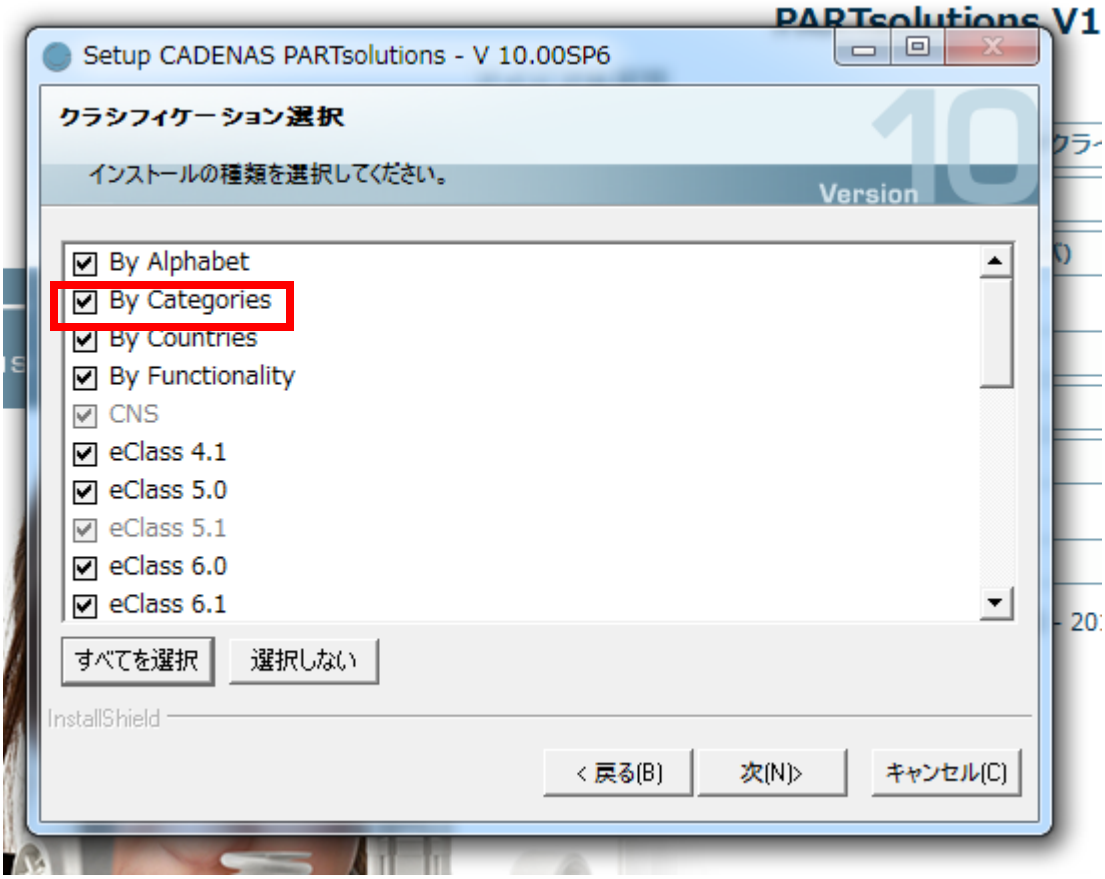
任意で外しても問題ありませんが、すべてインストールしても約 200MB 程度ですので、特段の事情がない限りすべて選択されることをおすすめします。

クラシフィケーションは、通常メーカーごとに並んでいるカタログを、例えば国別や部品カテゴリ別など様々な分類方法で参照するためのデータです。

例えば以下は、「部品カテゴリ別」というクラシフィケーションでカタログを参照した例です。「アクチュエータ部品」の下には、インストールされているカタログの中にある、アクチュエータ部品を扱うメーカーが表示されます。



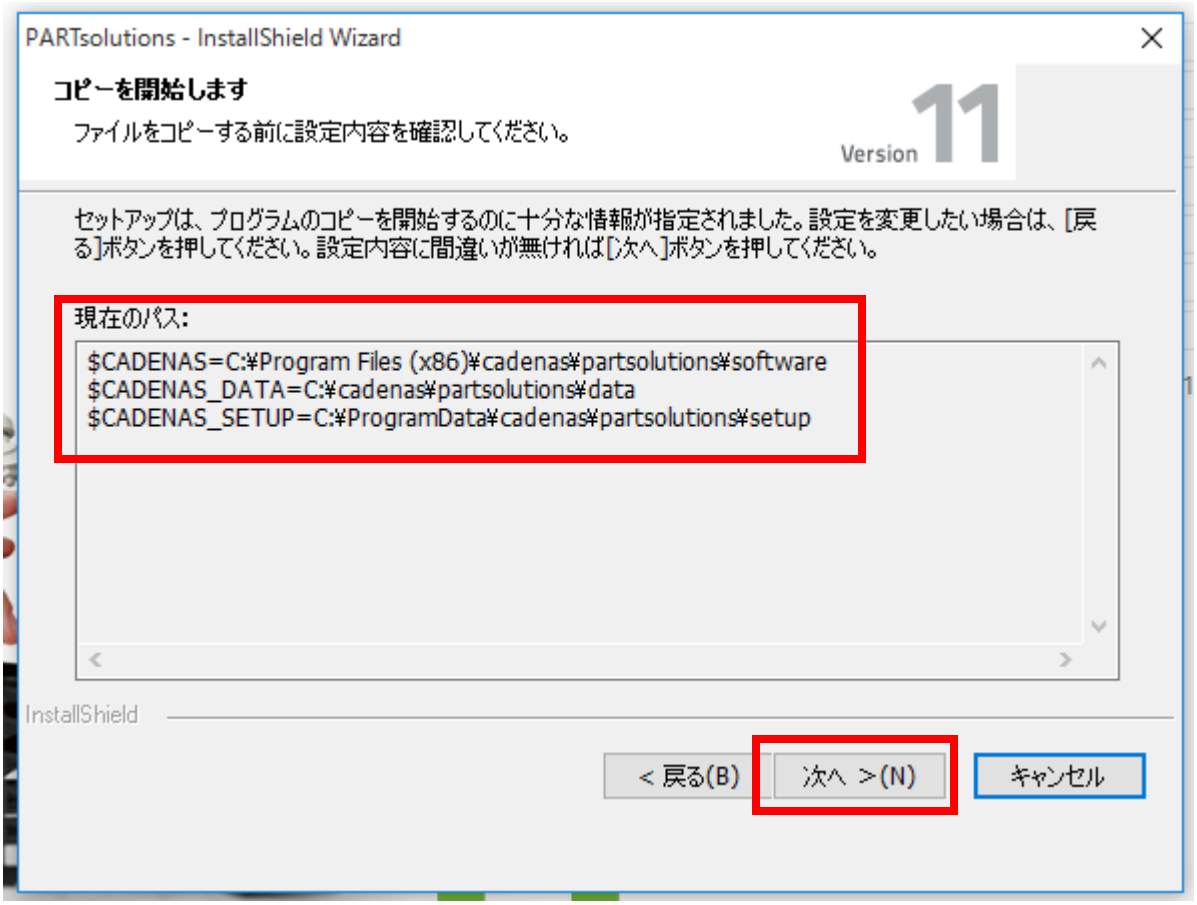
これを表示するためには、クラシフィケーションで「By Categories」を選択・インストールする必要があります。



インストーラーのリリース以後に追加または更新されたクラシフィケーションのインストールは、オンラインインストールを使って追加します（詳細は「2.2.5.2 カタログインストール：オンライン形式」参照）。

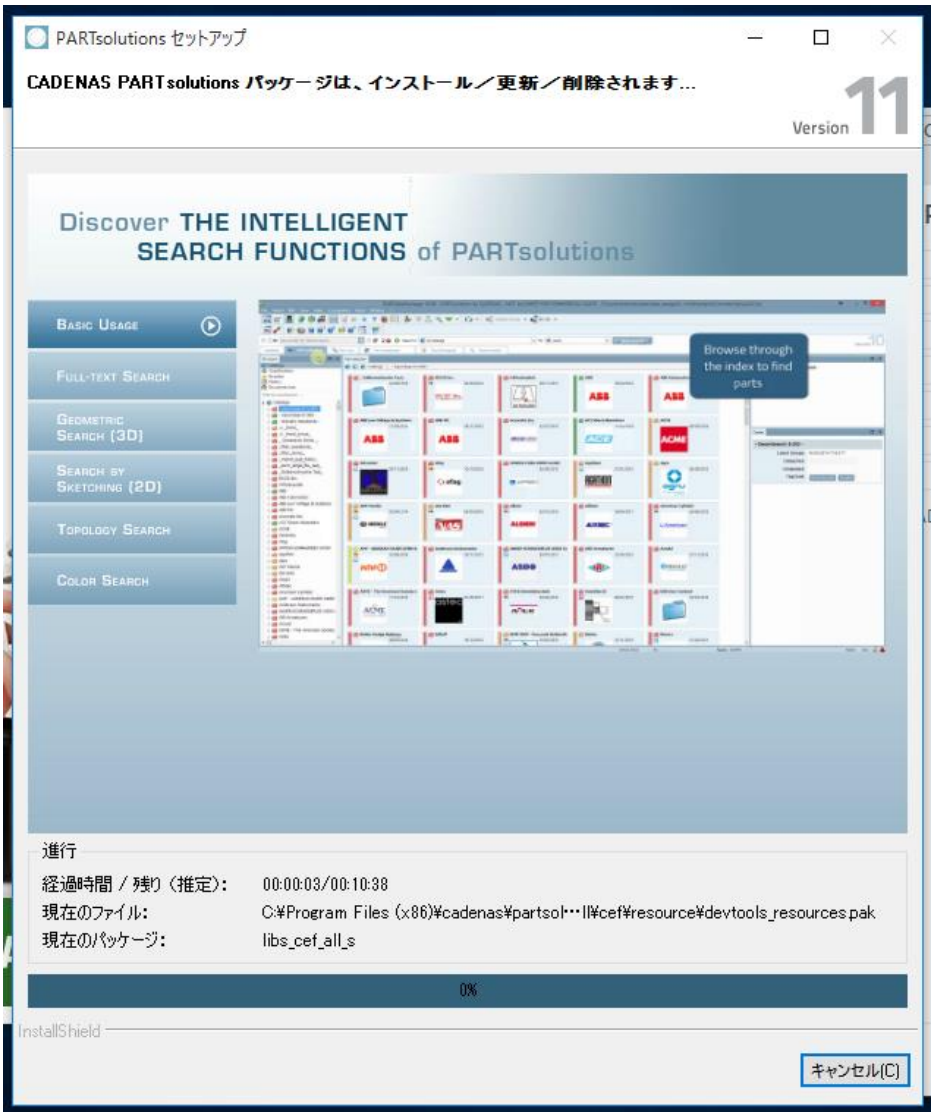
2.1.12. 最終確認

選択はここまでで完了です。以下のダイアログで「次へ」をクリックすると、インストール処理が開始されます。「%CADENAS%」「%CADENAS_DATA%」のパスを確認し、問題なければ「次へ」をクリックしインストール処理を開始します。



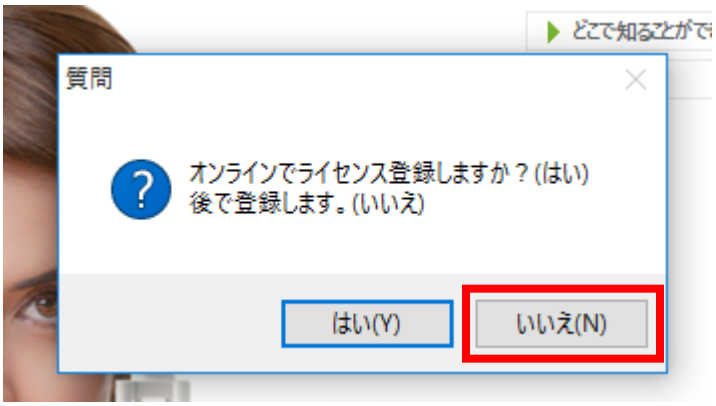
NOTE：
「%CADENAS_SETUP%」のパスは本インストールステップ中では変更することができません。後で変更したい場合は弊社までご相談ください。

以下インストール中の画面です。

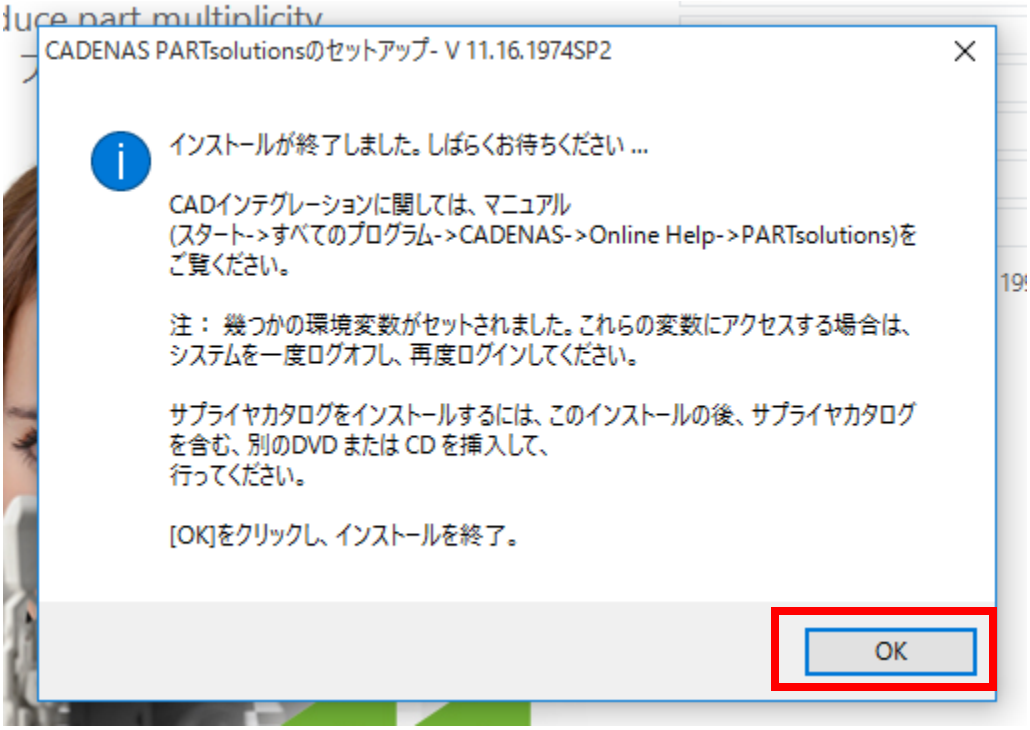


2.1.13. ソフトウェアコピーの完了後の操作

ソフトウェアのコピーが完了すると、以下のライセンス登録ダイアログが表示されますが、バージョンアップの場合はお手元のライセンスはそのまま使用できます、また新規の場合は別途ライセンスファイルを発行しますので登録は不要です。したがってここでは「いいえ」をクリックします。

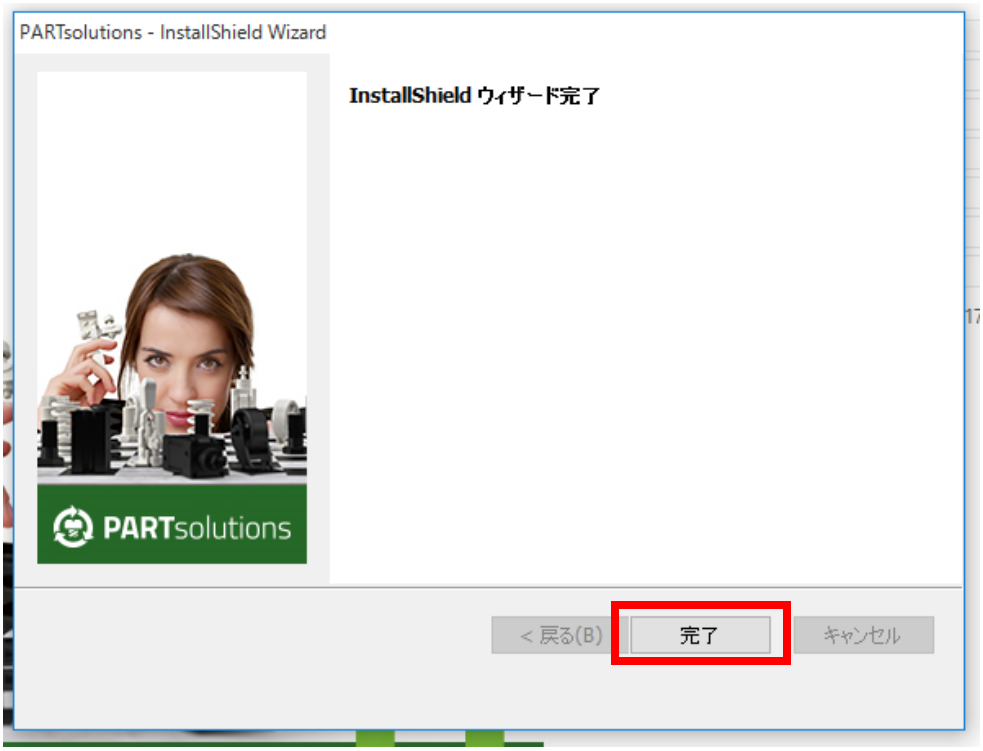


次に以下のダイアログが表示されます。「OK」をクリックし先に進めます。なお再起動は特に必要ありません。



2.1.14. インストールの終了

これで処理は完了です。「完了」をクリックしダイアログを閉じます。



続いて以下の画面も閉じます。「閉じる」ボタンをクリックします。

これでインストール処理は終了です。

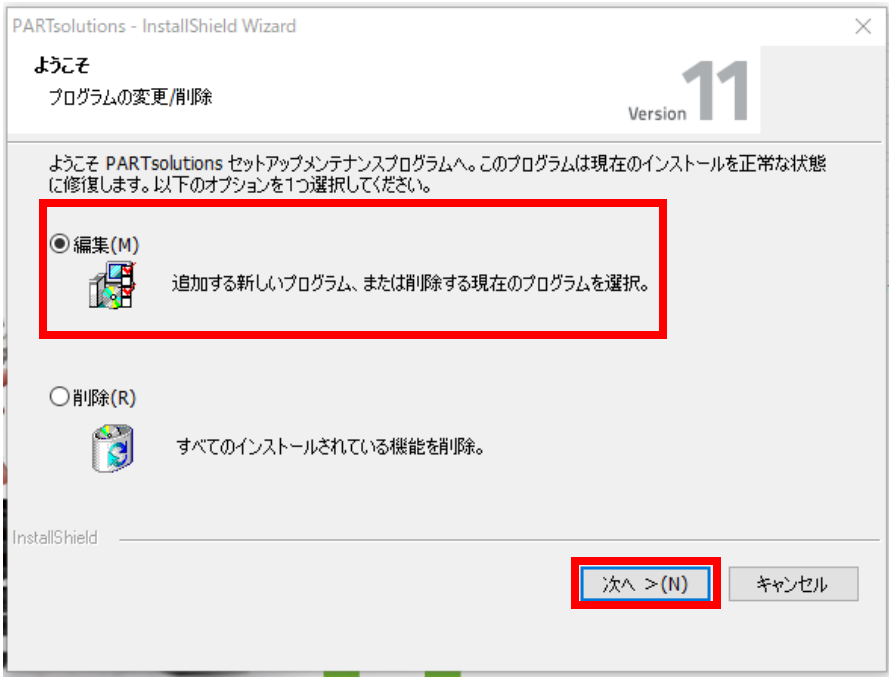
2.1.15. CAD インテグレーションの追加／削除

CAD がバージョンアップされた（e.g. Inventor2016＞2019）、または CAD が変更された（e.g. Inventor＞Solidworks）等で、最初とは異なる CAD インテグレーションが必要な場合の操作です。

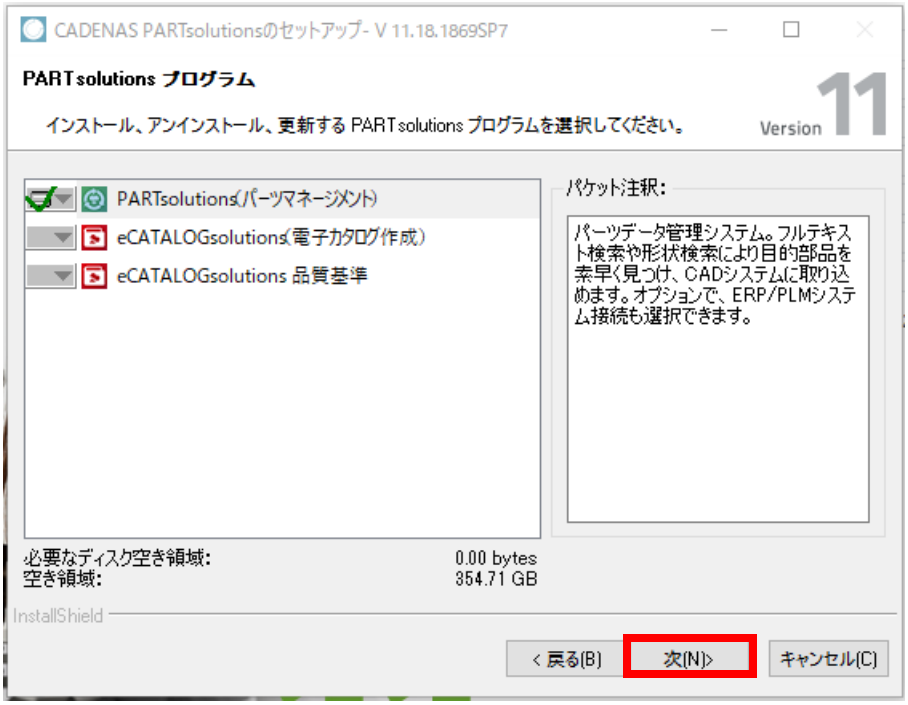
1．インストーラーを起動し「2.1.6CAD インテグレーションの指定」まで進める

「2.1.1cdstart.exe の実行」の操作でインストーラーを起動し、「2.1.6CAD インテグレーションの指定」まで進めます。以下注意点を記載します。

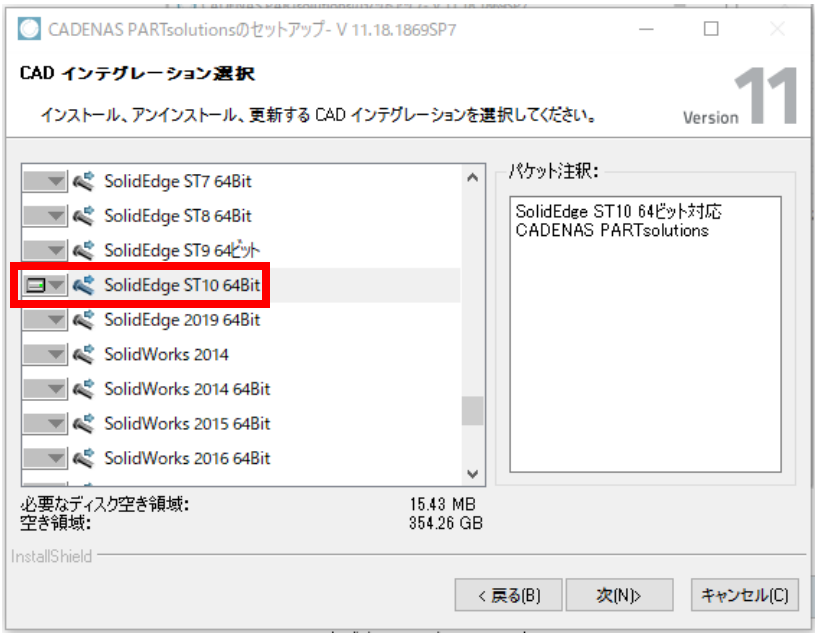
- 「編集」を選択します。



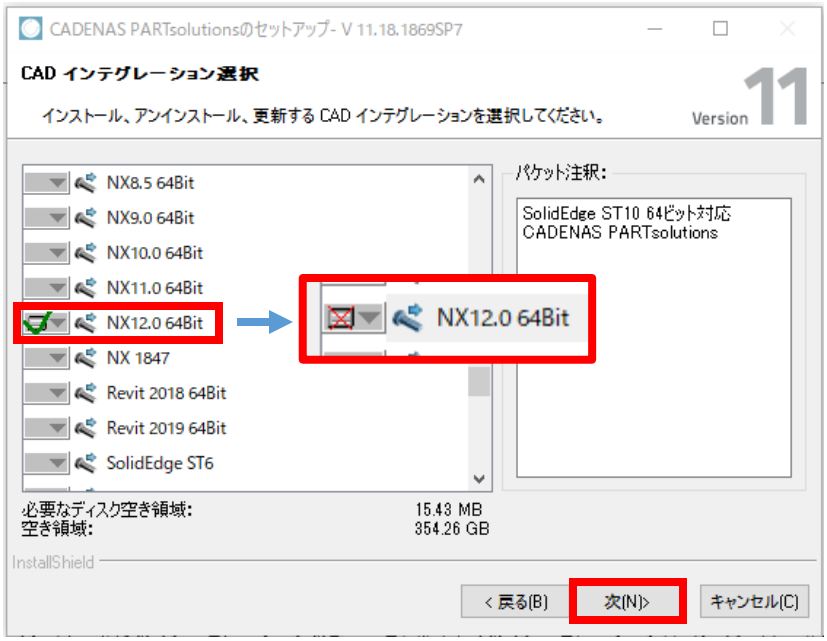
- 以下何も変更せず「次へ」を押下します。



2．「CAD インテグレーション選択」まで進め、追加する CAD インテグレーションに新たにチェックを入れます。
以下は「SolidEdge ST10」インテグレーションを新たに追加した例です。



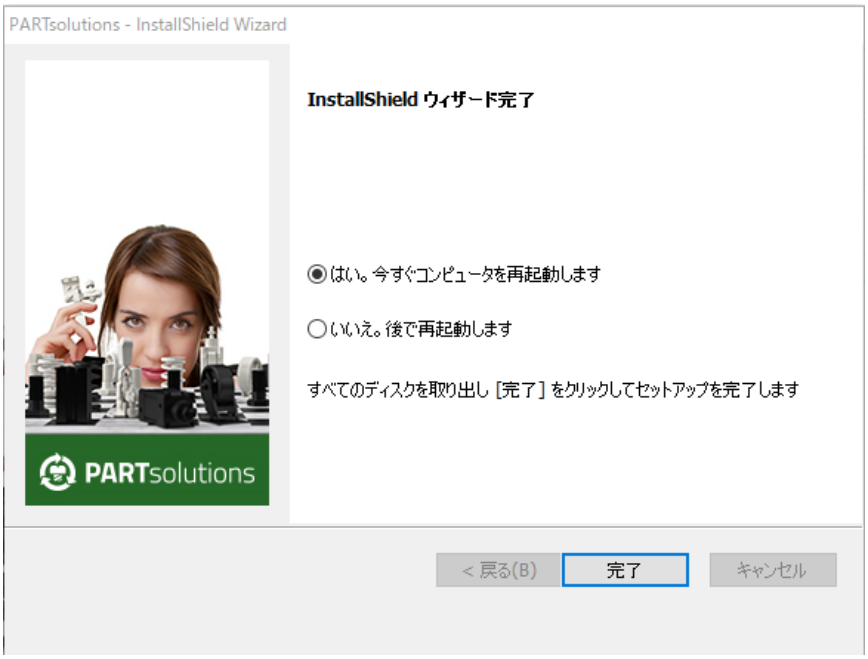
インストール済のインテグレーションのチェックを外すとそのインテグレーションは削除されます。以下は「NX12」インテグレーションを削除する場合です。



追加／削除を決定し、「次へ」をクリックします。

3．以降は「2.1.7 オプション製品の選択」の操作を進めると、「2.1.8 プロキシ設定」に進まず CAD インテグレーションの追加／削除処理が開始されます。

再起動を促すダイアログが表示される場合があります。その場案適宜選択してください。



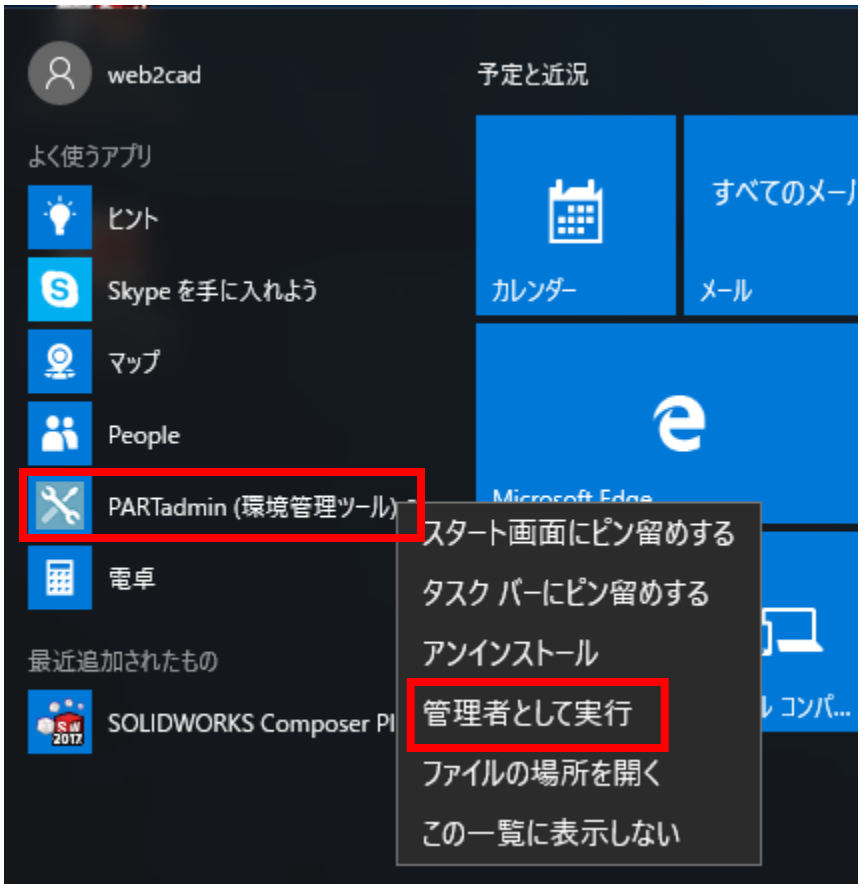
2.2. インストール後の操作

ここでは前述までのインストール操作が終了した後で行う操作を解説します。原則順序どおり行って下さい。各項目冒頭に操作を行う対象が注記されている場合は、それに従ってください。

2.2.1. PARTadmin の開始

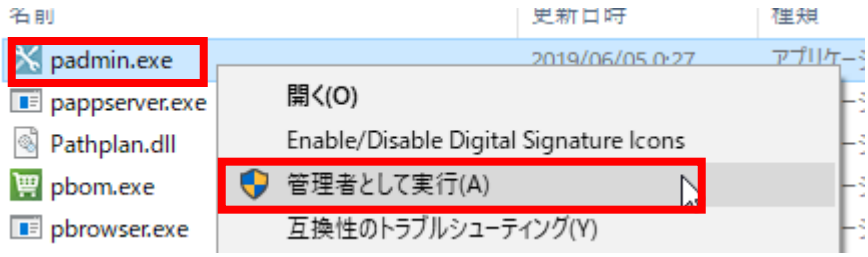
以降の操作でよく使う PARTsolutions の管理用アプリケーション「PARTadmin」の起動方法です。

スタートメニューから「PARTadmin（環境管理ツール）」を管理者として実行します。



NOTE :
スタートメニューは OS により異なるので適宜読み替えてください。

もしスタートメニューに存在しない場合は、Windows エクスプローラーのアドレスバーに「%cadenas%¥bin¥x86¥64」と入力しフォルダに移動、その直下にある「padmin.exe」を「管理者として実行」します。

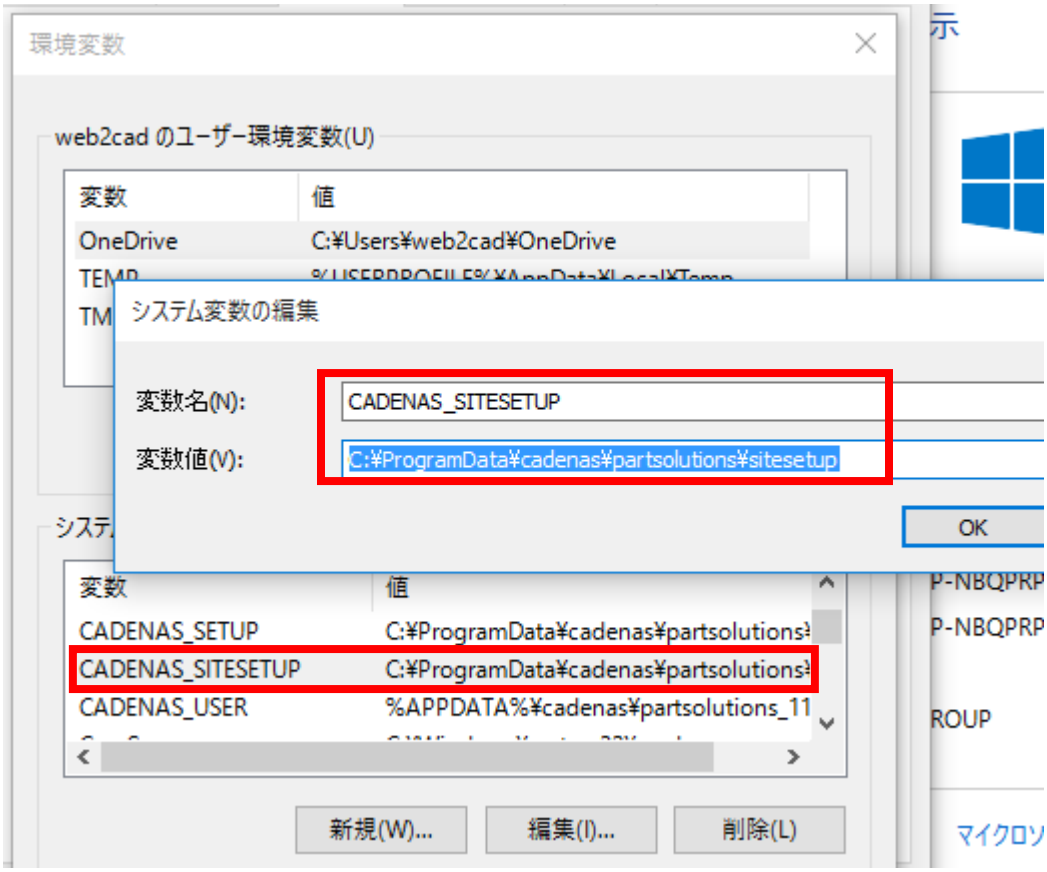


2.2.2. CADENAS_SITESETUP の移行

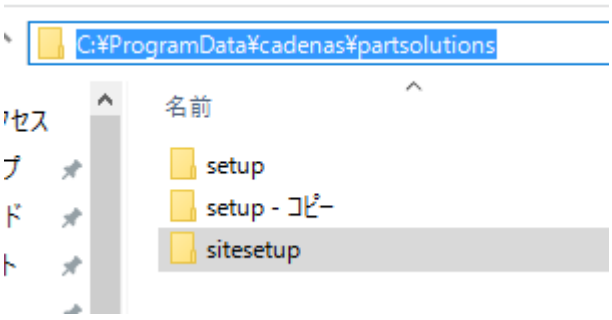
NOTE :
本操作は「1.3 CADENAS_SITESETUP のバックアップ（V10、V11 のみ）」を実行した場合のみ行います。該当しない場合は次の「2.2.6 CAD インテグレーションのアクティベイト」に進んでください。

V11 では標準で CADENAS_SITESETUP が作成されます。初期値は「C:¥ProgramData¥cadenas¥partsolutions¥sitesetup」です。

- 環境変数：インストール時に設定されます。



- フォルダ：インストール時に作成されます。



操作

「1.3 CADENAS_SITESETUP のバックアップ（V10、V11 のみ）」でバックアップしたフォルダの内容物を、CADENAS_SITESETUP 環境変数で定義されているフォルダ（デフォルトは「C:¥ProgramData¥cadenas¥partsolutions¥sitesetup」）にコピーします。

2.2.3. ライセンスの適用

2.2.3.1.ノードロックライセンスファイルの適用

NOTE :

フローティングライセンス、または、Named ライセンスのお客様の場合、本操作は不要です。

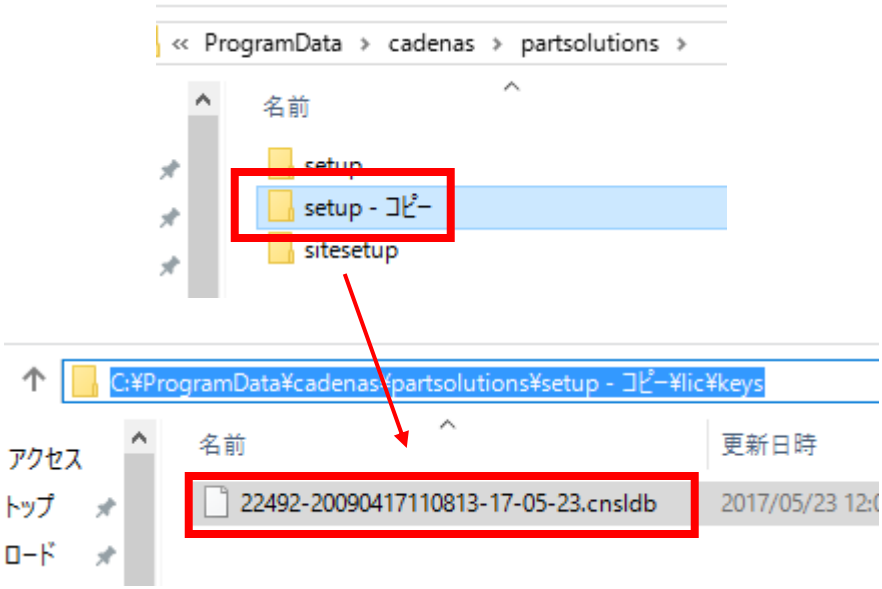
インストール直後はライセンスが適用されていませんので、まずこの操作を行います。

V9、V10、V11 旧 SP からのバージョンアップの場合

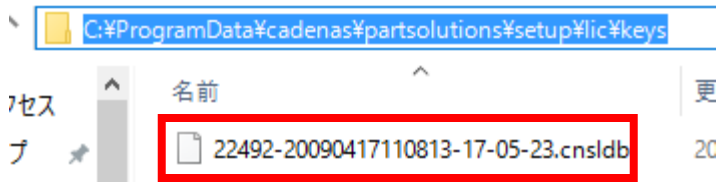
ライセンスファイルは以前使用していたものをそのまま使うことができます。

バージョンアップの場合は「1.2 CADENAS_SETUP のバックアップ」操作で取得したバックアップフォルダ内にある「lic¥keys¥xxx.cnsldb」ファイルをコピーします。

NOTE：
ライセンスファイル名はお客様ごとに異なるので、ここでは「xxx.cnsldb」としています。



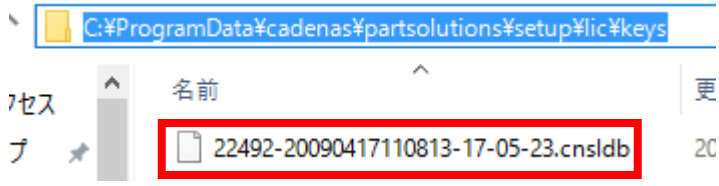
次に「%CADENAS_SETUP%¥lic¥keys」フォルダにペーストします。



V11 からの新規インストールの場合

新規インストールの場合は、弊社から入手したライセンスファイル（「xxx.cnsldb」ファイル）を使用します。

続いてライセンスファイルを「%CADENAS_SETUP%¥lic¥keys」フォルダ内にコピーします。



現在の「%CADENAS_SETUP%¥lic¥keys」フォルダ内、ライセンスファイル「xxx.cnsldb」が実在することを核

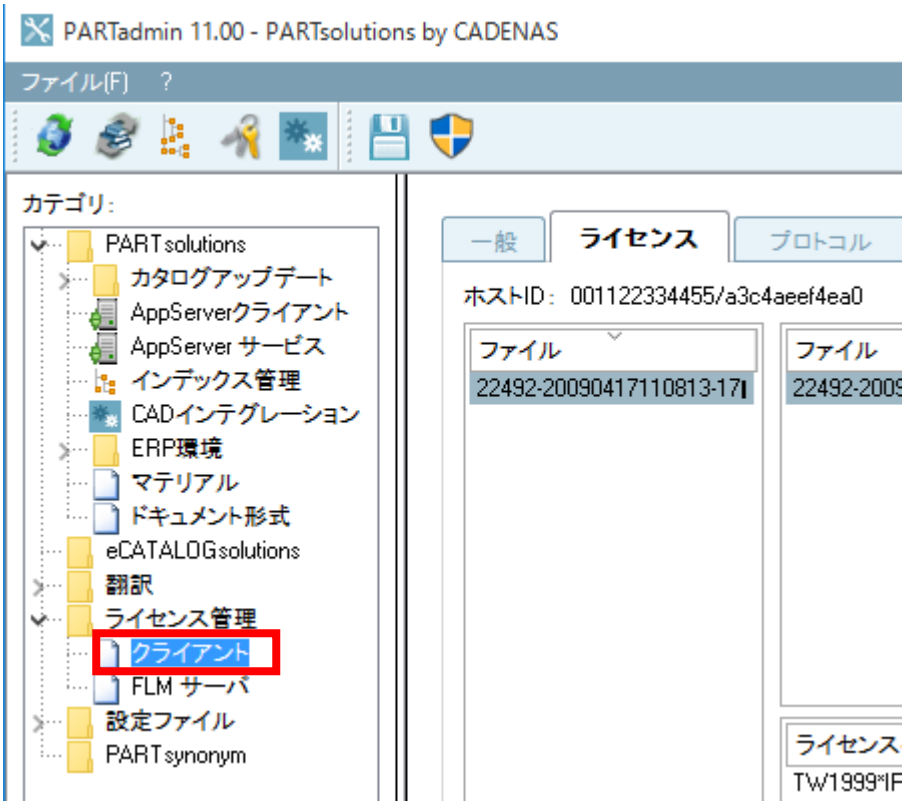
にできたら、これでライセンスファイルの適用作業は終了です。

ライセンス認証の確認

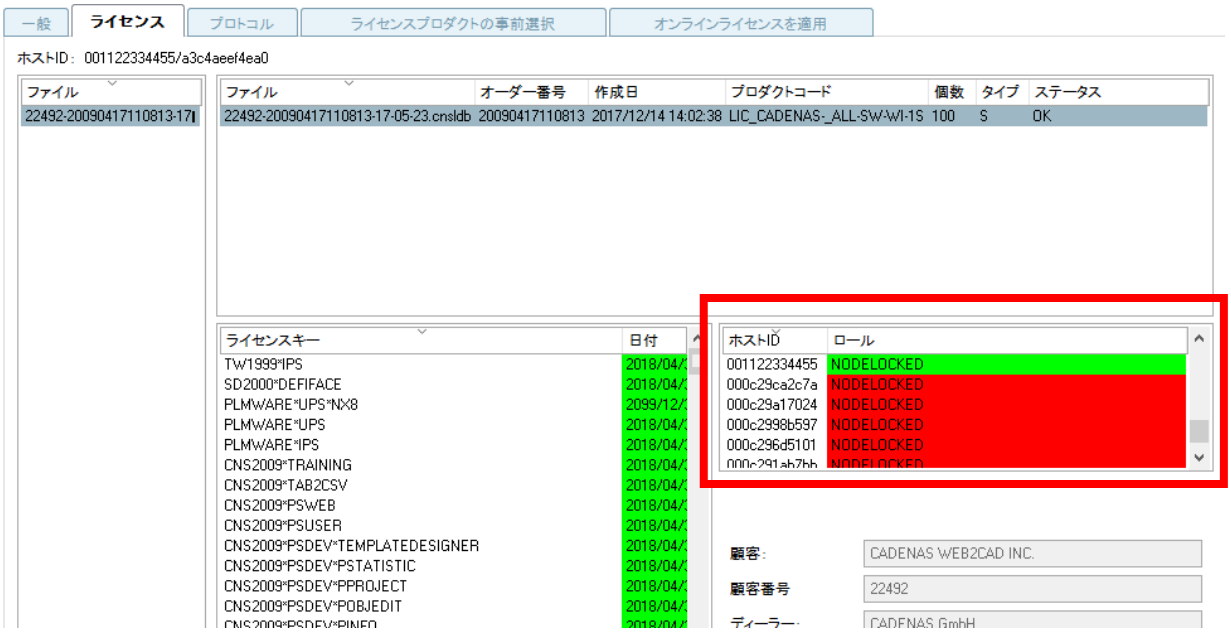
ライセンスが正しく認識されているか確認します。

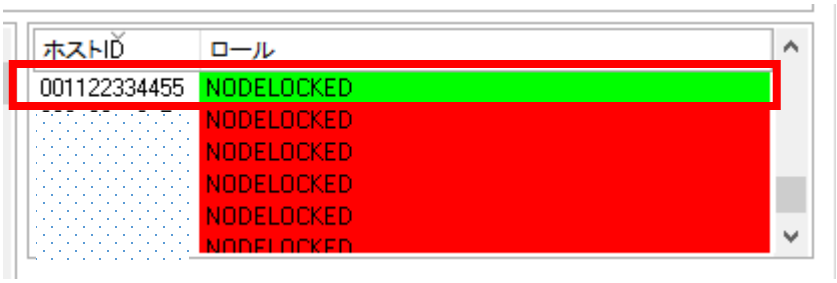
1．PARTadmin を起動します（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

2．左側で「ライセンス管理」＞「クライアント」を選択します。



3．画面右側で「ライセンス」タブを選択して、右下にある「ホスト ID｜ロール」エリアで「ロール」が緑になっていることを確認します。緑の行が確認できればライセンスは認識されています。





NOTE：
図では複数行表示されていますが、通常は予め指示いただいたマシン数だけ表示されます。複数行表示されている場合は 1 行が緑になっていれば有効です

2.2.3.2.フローティングライセンスまたは Named ライセンスの場合

NOTE：
ノードロックライセンスのお客様の場合、本操作は不要です。

2.2.3.2.1. FLM サーバのインストレーションおよびライセンス適用

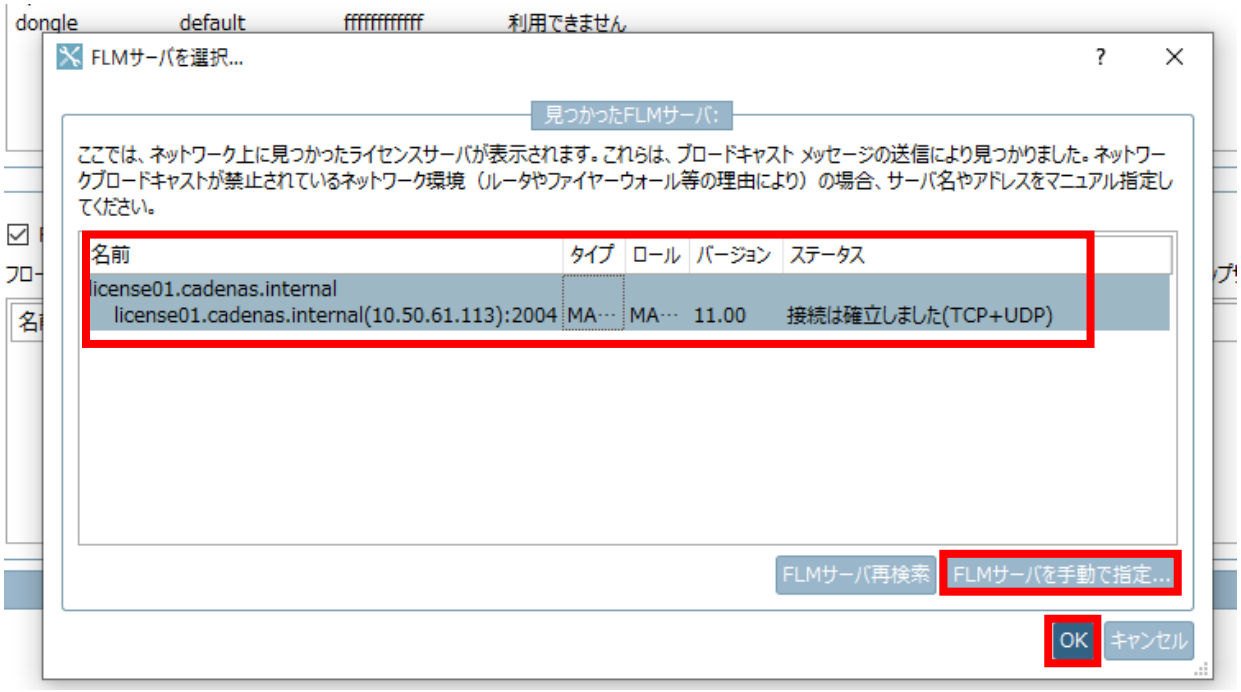
管理者により、「3FLM サーバのインストール」以下の操作を終了します。

2.2.3.2.2. クライアントに FLM サーバを接続する

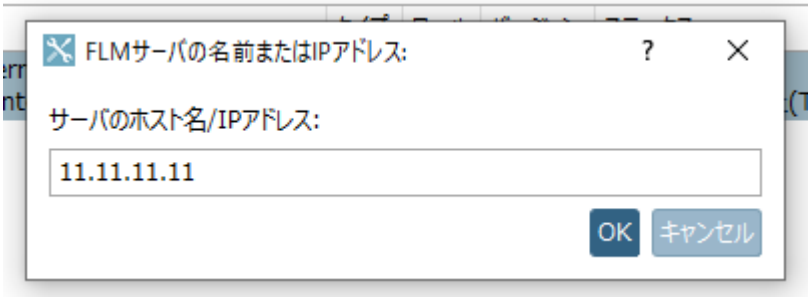
1．クライアントで PARTadmin を起動します（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

2．カテゴリから「ライセンス管理」＞「一般」タブを選択して、「FLM サーバを使用」にチェックをいれます。

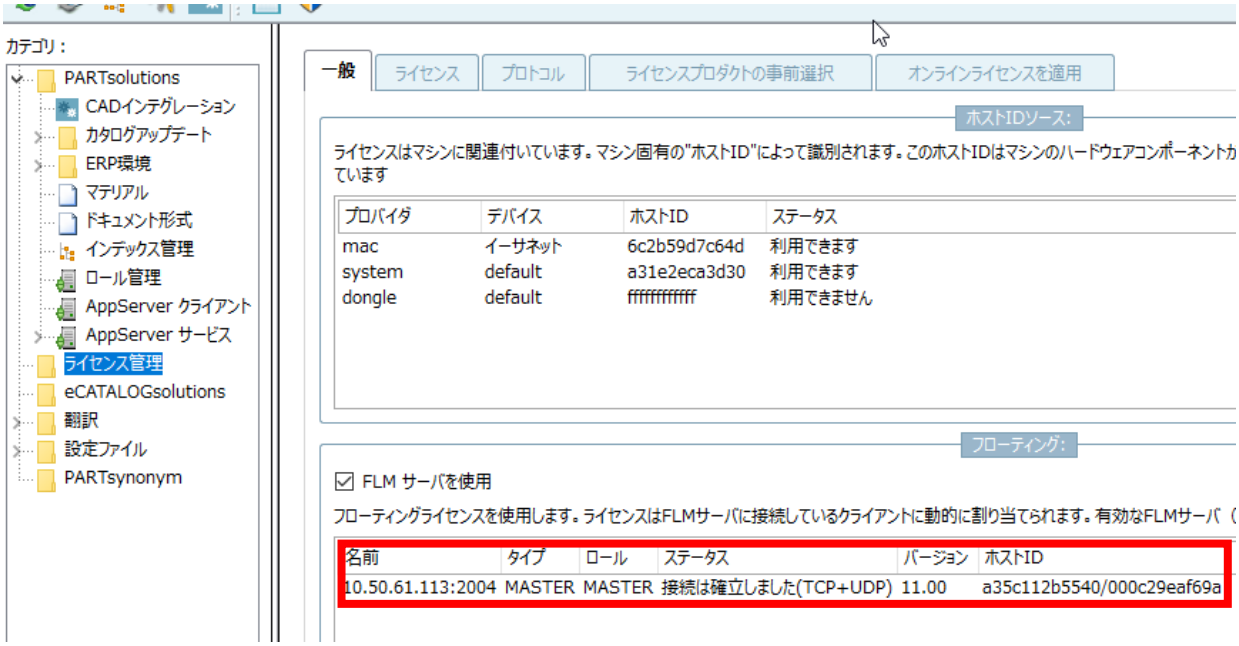
3．「FLM サーバを選択」ダイアログが起動し、LAN 内で稼働している FLM サーバがリストされます。
リスト内のサーバを選択し「OK」をクリックします。



もし表示されない場合は「FLM サーバを手動で設定」をクリックし、手動で FLM サーバの IP アドレスかホスト名を入力します。



4．1～3後、リスト内にクライアントが使用する FLM サーバが表示されます。



この接続情報は「%CADENAS_SITESETUP%」内に記録されるので、1 つの「%CADENAS_SITESETUP%」を複数クライアントで共有している場合、他のクライアントでこの操作をする必要はありません。

以上で操作終了です。

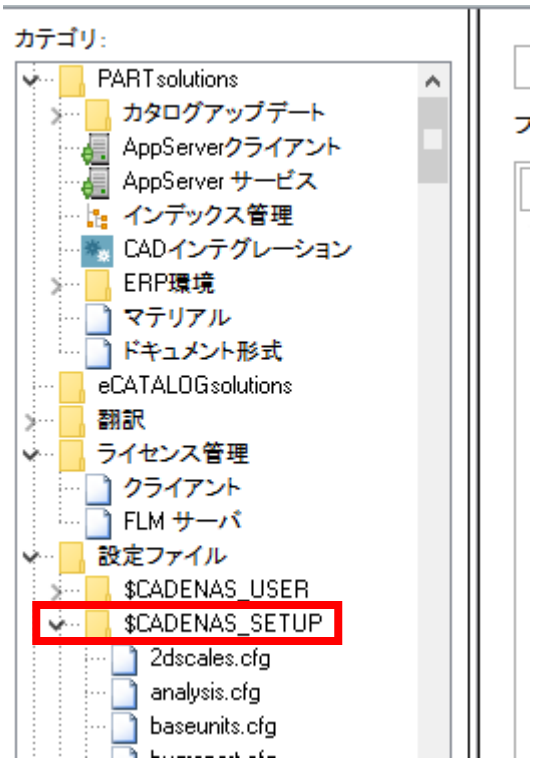
2.2.4. CAD インテグレーションの設定の移行

V9、V10 使用時に、CAD データのファイル名や pool パス等を変更している場合、その設定を V11 でも同じにしておく必要があります。

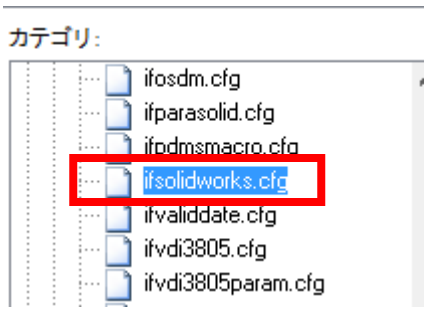
> NOTE：
> 以下の条件の場合、本操作は必要ありません。
> ・V11 からの新規インストールの場合
> ・V10、V11 旧 SP で CADENAS_SITESETUP を使用して運用していた場合、この場合は「2.2.2 CADENAS_SITESETUP の移行」を実行してください。

1．PARTadmin を管理者として実行します（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

2．画面右の「カテゴリ」から「設定ファイル」＞「$CADENAS_SETUP」と展開します。

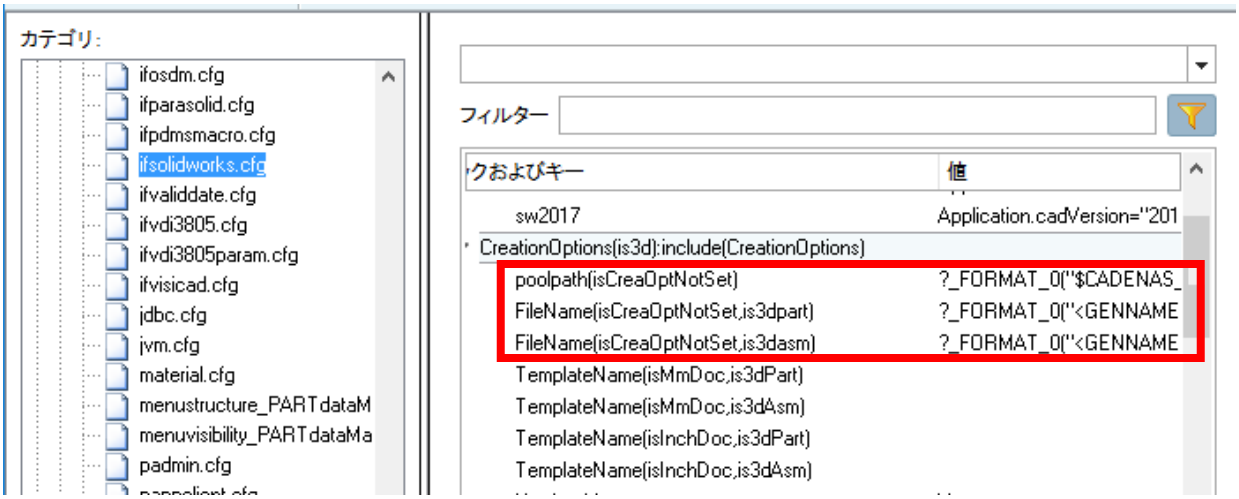


3．展開した中から「if<cad 名>.cfg」を選択します。本書の場合 SolidWorks ですのでこの場合「ifsolidworks.cfg」となります。



NOTE：
不明な場合、弊社までお問い合わせください。

4．以下赤枠で囲った 3 箇所がそれになります



- Poolpath(isCreaOptNotSet)：生成された CAD ファイルを格納するフォルダパス
- Filename(IsCreaOptNotSet,is3dpart)：単体パーツ用 CAD ファイル名
- FIlename(IsCreaOptNotSet,is3dasm)：アセンブリ用 CAD ファイル名

次に「1.2 CADENAS_SETUP のバックアップ」操作で取得したバックアップフォルダ内にある「if<cad 名>.cfg」ファイル（本書では「ifsolidworks.cfg」）をメモ帳等のエディタで開きます。そして上記の PARTadmin で参照している箇所と同じ箇所を確認します。Ifadeskinv.cfg の場合、以下の赤枠で囲った箇所となります。

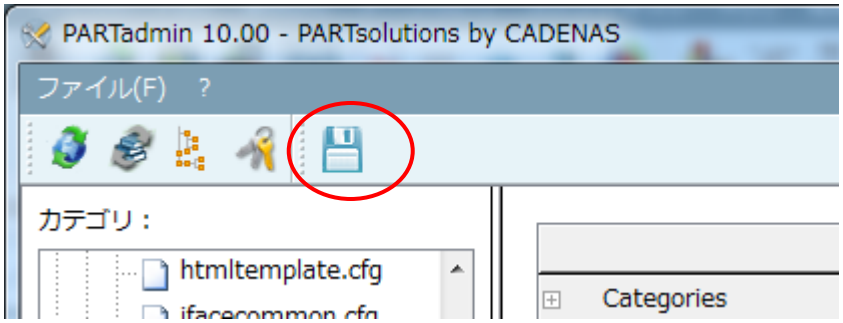
```
#:VISFGUI;1
[CreationOptions(is3d):include(CreationOptions)]
#:SIMPLE;1
#:NAME;Data storage (Poolpath)
#:DESC;Format,Storage area for all parts created by PARTsolutions. Default activated is Data storage by direc
poolpath(isCreaOptNotSet)=?_FORMAT_0("$CADENAS_DATA/pool/inventor/<PREFIXLIST(/)>").value()
;poolpath(isCreaOptNotSet)=?GetObject("iface.contextservice").GetVariable("UserApp").GetActiveProjectPath("PAI

#:NAME;document's name
#:DESC;Naming rules for part and assembly documents that created by PARTsolutions
FileName(isCreaOptNotSet,is3dpart)=?_FORMAT_0("<GENNAME><MATERIAL(_)>").toFileName("_").add(".ipt").value()
FileName(isCreaOptNotSet,is3dasm)=?_FORMAT_0("<GENNAME><MATERIAL(_)>").toFileName("_").add(".iam").value()
```

このとき、もし差分がなければ何もせずに終了します。本書の例もこれに該当し両者全く同一の値なので、特に移行の作業は不要でこのまま終了します。

一方、エディタで開いたファイル内の値と現在 PARTadmin 上で確認できる値が異なる場合、PARTadmin 上を変更してエディタの値に合わせます。

変更後、画面左上の保存ボタンをクリックし設定を保存します。



このとき「%CADENAS_SITESETUP%」を設定している場合、この設定内容だけが自動的に「%CADENAS_SITESETUP%」内に保存されます。

2.2.5. カタログのインストール

標準規格以外の部品サプライヤカタログデータの入手とインストール方法です。

入手方法は、弊社サポートページからカタログデータをダウンロードして実行する「オフライン形式」と、PARTadmin の機能で CADENAS 本社サーバに接続しダウンロードからインストールまで行う「オンライン形式」と、2 種類の方法があります。

2.2.5.1.カタログインストール：オフライン形式

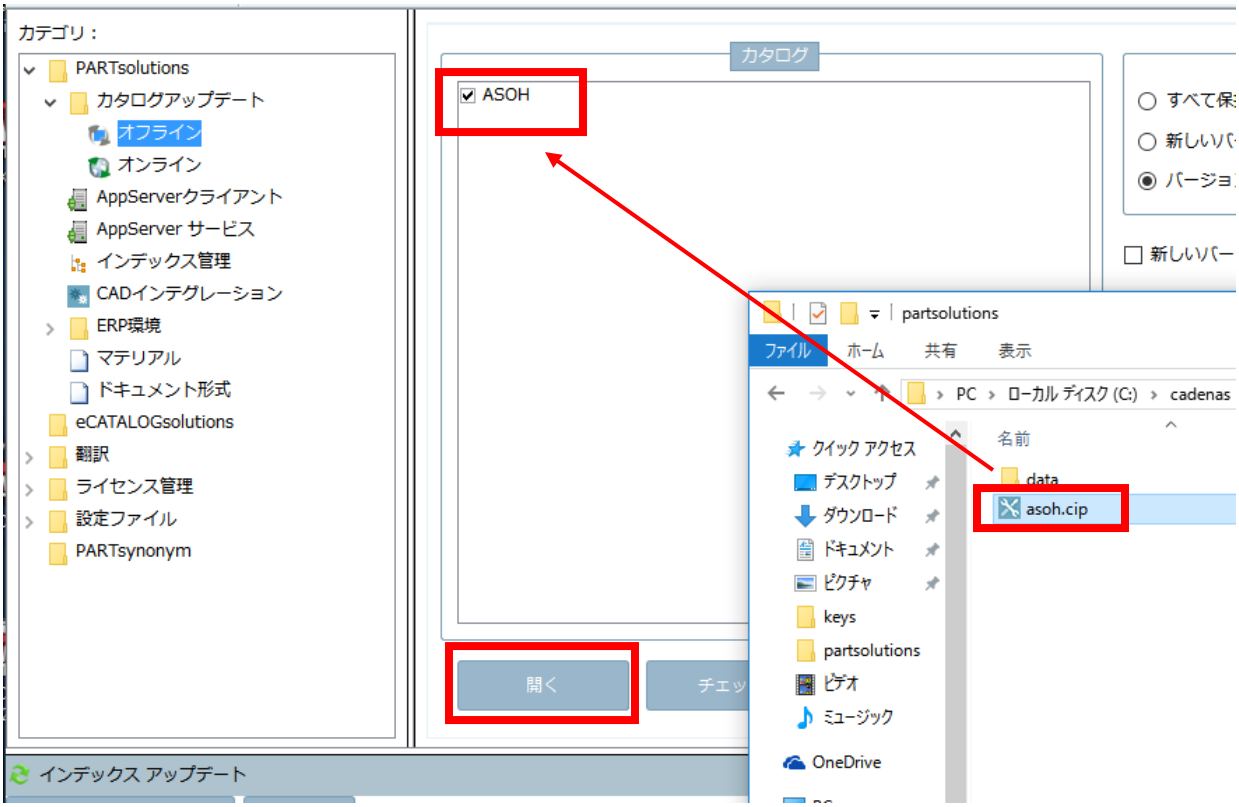
1．弊社 PARTsolutions サポートページへアクセス、ログインし使用したいメーカーのカタログファイルをダウンロードします（カタログファイルは拡張子「cip」のファイルです、以下「cip ファイル」とします）

PARTsolutions サポートページ URL https://service.web2cad.co.jp/cadenas/support/

2．PARTadmin を「管理者として実行」で開きます（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

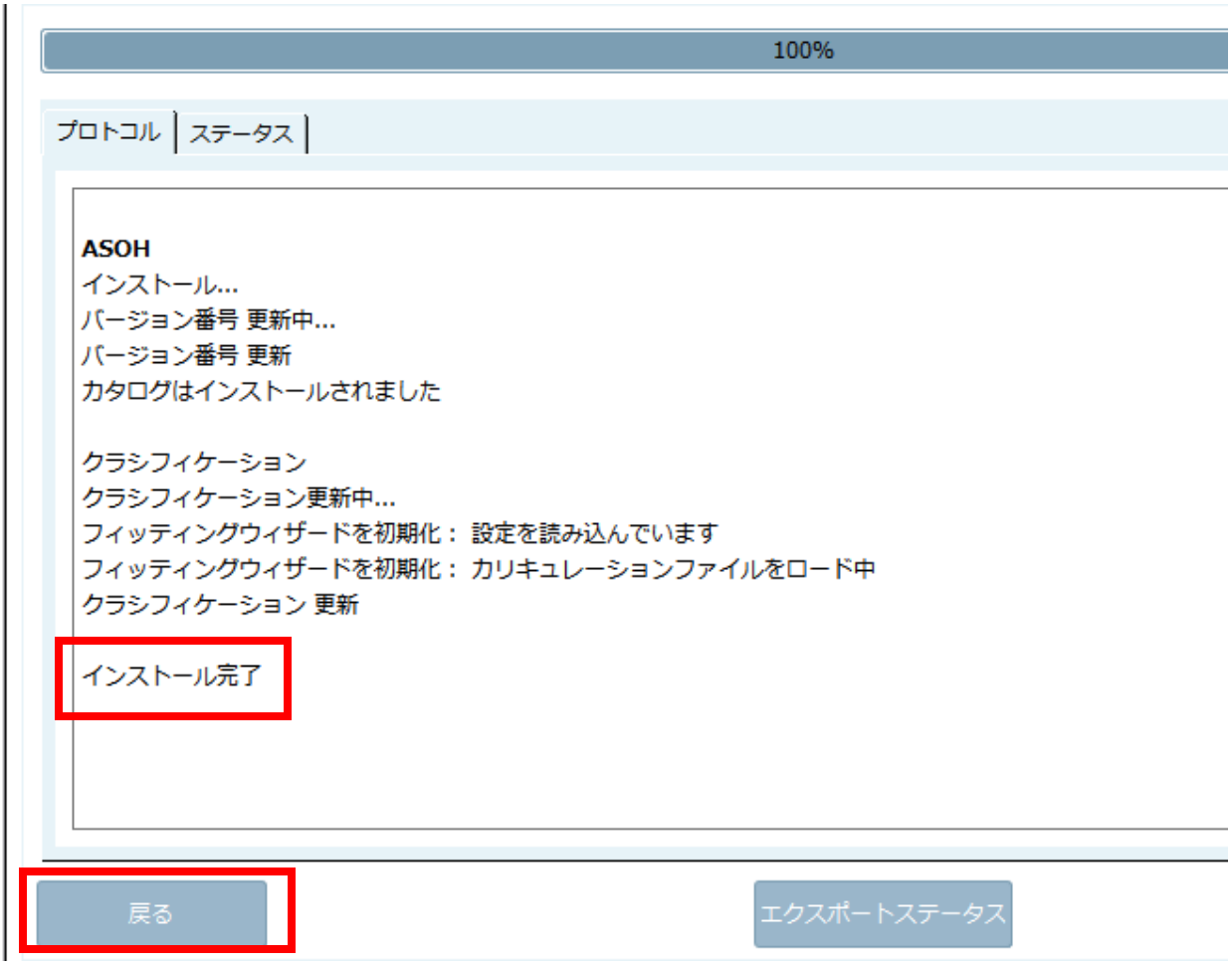
3．「カテゴリ」＞「PARTsolutions」＞「カタログアップデート」＞「オフライン」を選択します。

4．「開く」ボタンをクリックし、Windows エクスプローラーから cip ファイルを選択するか、Windows エクスプローラーから「カタログ」エリアに、cip ファイルを直接ドラッグ＆ドロップします、複数選択も可能です。



5．「インストール」ボタンをクリックし、インストールを開始します。

6．「インストール完了」と表示されたらインストール終了です。「戻る」をクリックで元の画面に戻ります。

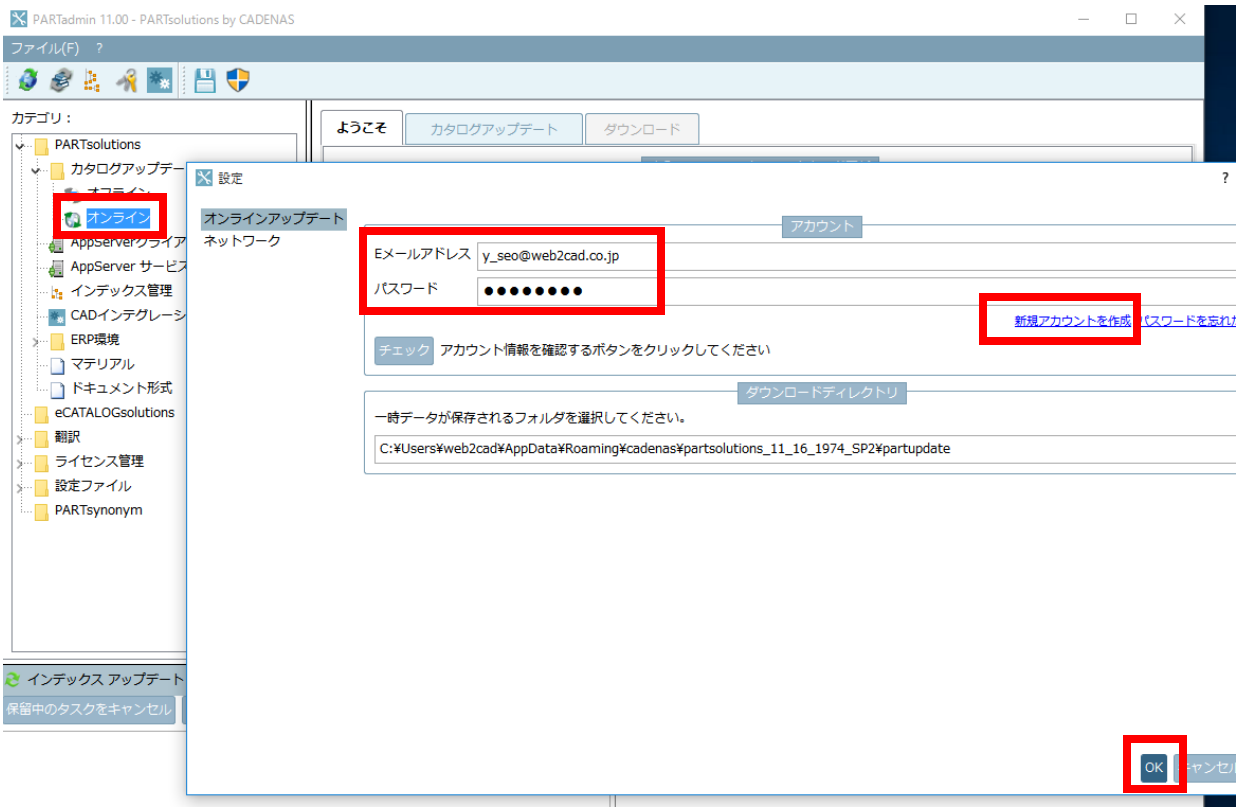


2.2.5.2.カタログインストール：オンライン形式

1．PARTadmin を管理者として開きます（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）、

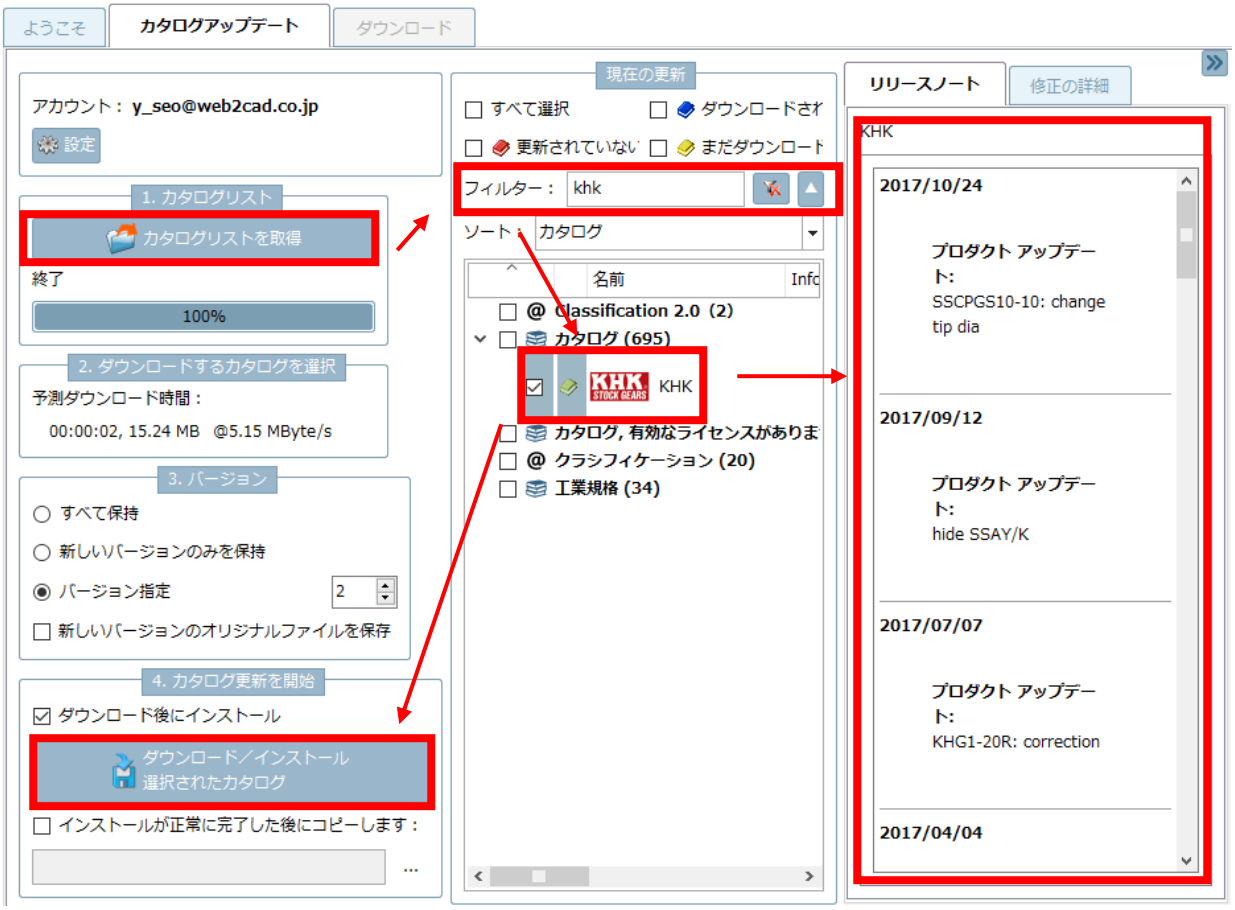
2．「PARTsolutions」＞「カタログアップデート」＞「オンライン」を選択します。 その後「カタログアップデート」タブを選択します。 このときアカウントが設定されていない場合は「設定」ダイアログが表示されますので、アカウントを設定してください。アカウントがない場合は「新規アカウントを作成」リンクをクリックしてアカウントを作成してください。

アカウントが設定できたら「OK」をクリックします。



3．続いて、「カタログリストを取得」ボタンをクリックし、画面側で新たにインストール、更新したいカタログを選択して、「ダウンロード／インストール 選択されたカタログ」ボタンをクリックし、実行します。

「フィルタ」を使うと目的のカタログを絞り込むことができます。



2.2.6. CAD インテグレーションのアクティベイト

最後に CAD 上に PARTsolutions メニューを表示させ、CAD 上から PARTsolutions コマンドを可能とするための操作です。

> NOTE：
> 本操作は「2.1 インストール」の操作でインストールした場合に有効です。弊社コンサルティング等で特別なセットアップを行った場合は別の操作となりますのでお問い合わせください。

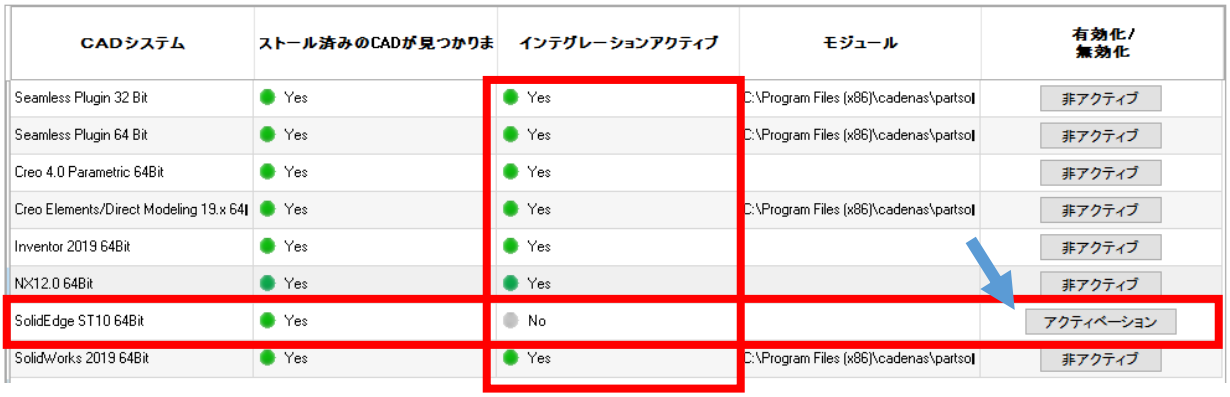
操作

1．PARTadmin を管理者として実行します（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

2． 「カテゴリ」＞「PARTsolutions」＞「CAD インテグレーション」を選択してください。

3．このとき右側に有効になっている CAD インターフェース一覧が表示されます。冒頭 2 行の「Seamless Plugin 32 Bit」「Seamless Plugin 64 Bit」はそのままにしておいてください。

3 行目以降が選択された CAD インターフェースになります。本書では複数の CAD インテグレーションを選択したのでそれが表示されています、



CADシステム	ストール済みのCADが見つかりま	インテグレーションアクティブ	モジュール	有効化/無効化
Seamless Plugin 32 Bit	Yes	Yes	C:\Program Files (x86)\cadenas\partsol	非アクティブ
Seamless Plugin 64 Bit	Yes	Yes	C:\Program Files (x86)\cadenas\partsol	非アクティブ
Creo 4.0 Parametric 64Bit	Yes	Yes		非アクティブ
Creo Elements/Direct Modeling 19.x 64I	Yes	Yes	C:\Program Files (x86)\cadenas\partsol	非アクティブ
Inventor 2019 64Bit	Yes	Yes		非アクティブ
NX12.0 64Bit	Yes	Yes		非アクティブ
SolidEdge ST10 64Bit	Yes	No		アクティベーション
SolidWorks 2019 64Bit	Yes	Yes	C:\Program Files (x86)\cadenas\partsol	非アクティブ

図を見ると、ほとんどの CAD では

- インテグレーションアクティブ＝Yes
- 有効化/無効化=非アクティブ

になっています。この場合は有効です。

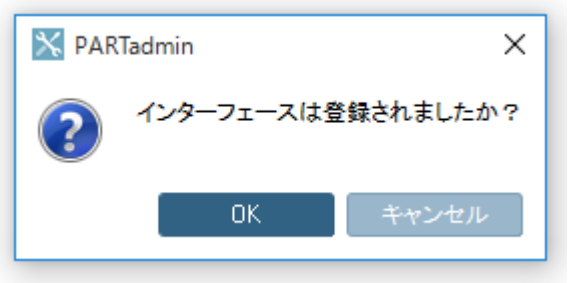
一方「SolidEdge ST10 64bit」のみ

- インテグレーションアクティブ＝No
- 有効化/無効化=アクティベーション

になっています。これは現在 SolidEdge ST10 インテグレーションが無効であることを示します。

「アクティベーション」ボタンをクリックすることでこの CAD インテグレーションを有効にできます。

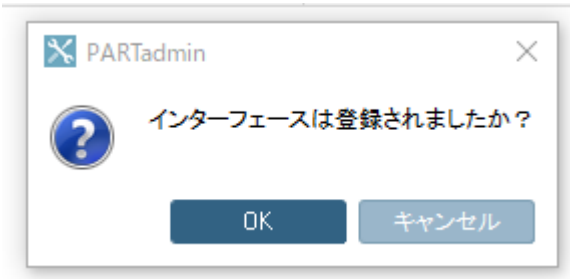
クリックすると以下のウィンドウが表示されるので「OK」ボタンをクリックします。



以下の図のように「インテグレーションアクティブ＝Yes」「有効化/無効化=非アクティブ」となります。これが有効な状態です。

SolidEdge ST10 64Bit	Yes	Yes	C:\Program Files (x86)\cadenas\partsol	非アクティブ

無効にしたい場合は、「非アクティブ」のボタンをクリックします。このとき以下のウィンドウが表示されるので「OK」をクリックします。



このとき以下の図のように「インテグレーションアクティブ＝No」「有効化/無効化=アクティベーション」となります。これが無効な状態です。以下は Inventor 2019 インテグレーションを無効にした例です。

4．PARTadmin を終了します。

5．CAD インターフェースが有効かどうか確認してみます。CAD を起動してください。正常に有効になっていれば以下の図のように CAD の GUI 上に「PARTsolutions」メニューが表示されます（図は Inventor2019 の例）。

メニューが表示されていない場合、後述の「2.2.6.1CAD 別の設定」を参照してください。

2.2.6.1.CAD 別の設定

2.2.6.1.1. NX

PARTsolutions メニュー

インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション有効です。

この場合、「%UGII_ROOT_DIR%¥menus¥custom_dirs.dat」に以下の記載は追記されています。

```
##### cadenas setup BEGIN (DON'T MODIFY!!!) #####
C:/Program                                                    Files
   (x86)/cadenas/partsolutions/software/iface/unigraphics/nx120_64_win
```

```
$temp/

##### cadenas setup END #####
```

黄色の網掛け部分は PARTsolutions のインストールディレクトリになるので、環境によっては上記値と一致しない場合があります。

「nx120_64_win」の部分はバージョンにより異なります。本書では NX12 ですので「nx120_64_win」となっています。

2.2.6.1.1.1. 手動セットアップ

custom_dirs.dat を別の場所に指定している等の場合自動的に記載されない場合があるので、そのときは手動で記載してください。手動記載する際は環境変数が使用できるので以下のように記載することも可能です。

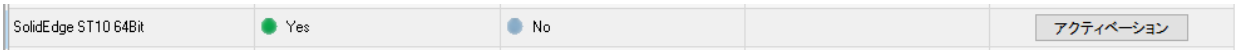
```
${CADENAS}/iface/unigraphics/nx120_64_win

${TEMP}
```

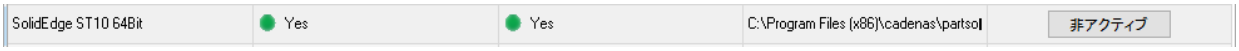
2.2.6.1.2. Solid Edge

PARTsolutions メニュー

インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション無効です。

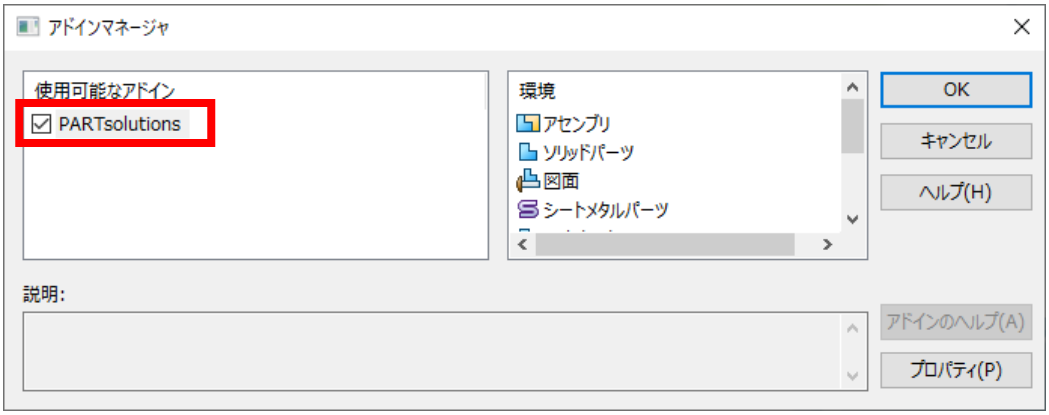


「2.2.6CAD インテグレーションのアクティベイト」の操作で有効にしてください。



Solid Edge 起動後「PARTsolutions」メニューが表示されない場合、アドインを有効にする必要があります。以下の操作でアドインを表示させます。

「アドインマネージャ」で「PARTsolutions」にチェックを入れます。



2.2.6.1.2.1. 手動セットアップ

アドインが表示されない場合、手動でセットアップをします。

「%CADENAS%¥iface¥solidedge¥<Solidedge version>¥Register.bat」

「%CADENAS%¥iface¥solidedge¥<Solidedge version>¥RegisterLoader.bat」

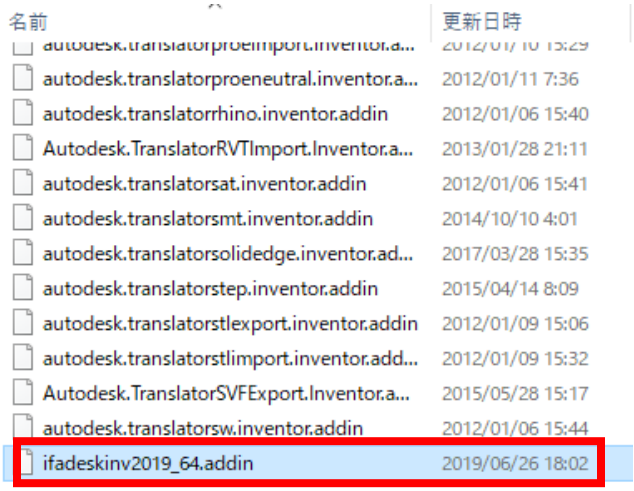
をそれぞれ「管理者として実行」します。

2.2.6.1.3. Inventor

PARTsolutions メニュー

インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション有効です。

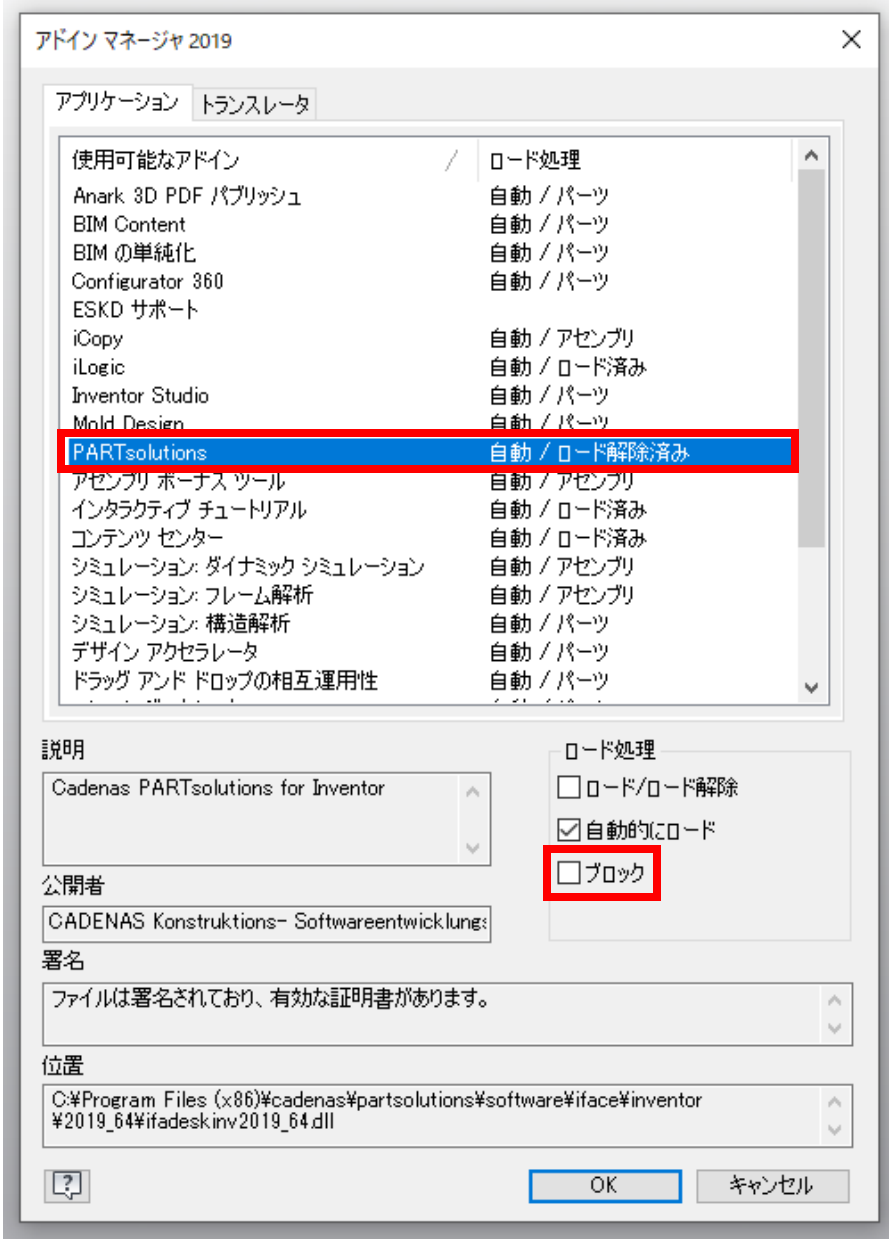
このとき「C:¥ProgramData¥Autodesk¥<Inventor version>¥Addins」フォルダ内に「ifadeskinv<Inventor version>.addin」ファイルが存在します。<Inventor version>の部分は使用している Inventor のバージョンにより異なります。本書では Inventor 2019 ですので、「C:¥ProgramData¥Autodesk¥Inventor 2019¥Addins¥ifadeskinv2019_64.addin」が存在します。



起動すると PARTsolutions メニューが追加されています。

ただし環境やバージョンによっては以下のようにアドインがブロックされる場合があります。この場合ブロック解除の操作が必要になります。

ブロック解除は、Inventor のアドインマネージャを開き「PARTsolutions」のブロックを解除（ロード処理の「ブロック」をオフにする）してください。操作詳細は Inventor のヘルプを参照してください。



2.2.6.1.3.1. 手動セットアップ

何らかの原因で .addin ファイルが作成されない場合、「C:¥ProgramData¥Autodesk¥<Inventor version>¥Addins」フォルダ内に新規テキストファイル（UTF BOM）を作成し、以下の記述行います。

ただし、黄色網掛けの部分は PARTsolutions のインストールディレクトリになりますので適宜変更してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<Addin Type="Standard">
  <!--Created for Autodesk Inventor-->
  <ClassId>{357305CF-EEF0-43AA-8383-B71AE33F4280}</ClassId>
  <ClientId>{357305CF-EEF0-43AA-8383-B71AE33F4280}</ClientId>
  <DisplayName>PARTsolutions</DisplayName>
  <Description>Cadenas PARTsolutions for Inventor</Description>
```

```
   <Assembly>C:¥Program Files
   (x86)¥cadenas¥partsolutions¥software¥iface¥inventor¥2019_64¥ifadeskinv2019
   _64.dll</Assembly>
  <LoadOnStartUp>1</LoadOnStartUp>
  <UserUnloadable>1</UserUnloadable>
  <Hidden>0</Hidden>

   <SupportedSoftwareVersionGreaterThan>19..</SupportedSoftwareVersionGreater
   Than>
  <DataVersion>1</DataVersion>
  <UserInterfaceVersion>1</UserInterfaceVersion>
</Addin>
```

記述後保存し、拡張子を「.addin」に変更します。

2.2.6.1.4. SolidWorks

PARTsolutions メニュー

インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション有効です。

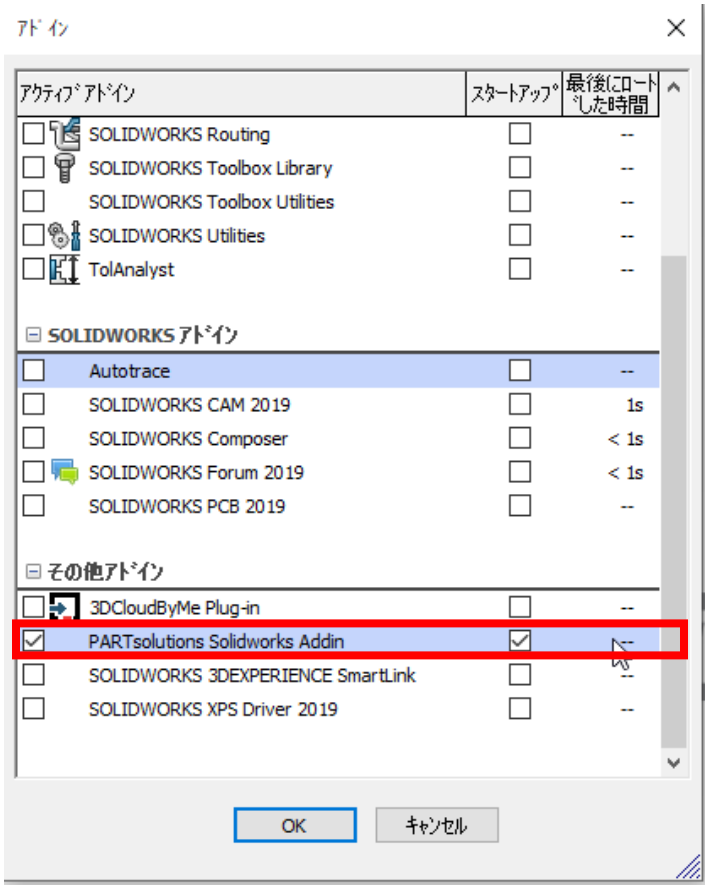
Solidworks 起動後「PARTsolutions」メニューが表示されない場合、アドインを有効にする必要があります。以下の操作でアドインを表示させます。

1．メニューの「ツール」＞「アドイン」を選択

「アドイン」ダイアログが起動します。

2．「その他アドイン」エリアの「PARTsolutions Solidworks Addin」にチェックを有効にします。

次回以降 Solidworks 起動時に自動的に PARTsolutions アドインを有効にしたい場合は「スタートアップ」にもチェックを入れます。それぞれチェックを入れたら「OK」をクリックします。



「アドイン」ダイアログが閉じると、PARTsolutions 用ツールバーが表示され、また「ツール」メニュー以下に

「PARTsolutions」が追加されます。

2.2.6.1.4.1. 手動セットアップ

アドインが表示されない場合、手動でセットアップを行います。

「%CADENAS%¥iface¥solidworks¥<Solidworks version>¥Register.bat」を「管理者として実行」します。

2.2.6.1.5. Creo Parametric

PARTsolutions メニュー

インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション有効です。

このとき「<Creo Parametric インストールディレクトリ>¥Common Files¥text¥config.pro」(本書では Creo 4.0 M070 ですので「C:¥Program Files¥PTC¥Creo 4.0¥M070¥Common Files¥text¥config.pro」) に以下の記述が追記されています。黄色網掛けの部分は PARTsolutions のインストールディレクトリになりますので実際の環境とは異なる場合があります。

```
! ##### cadenas setup BEGIN (DON'T MODIFY!!!) #####
protkdat C:¥Program Files
   (x86)¥cadenas¥partsolutions¥software¥iface¥proewildfire¥win¥protkcreo4_64.
   dat
! ##### cadenas setup END #####
```

2.2.6.1.5.1. 手動セットアップ

config.pro の読み込み先を変更している等で、自動的に追記されない場合もありますのでそのときは上記記述を手動で追記してください。

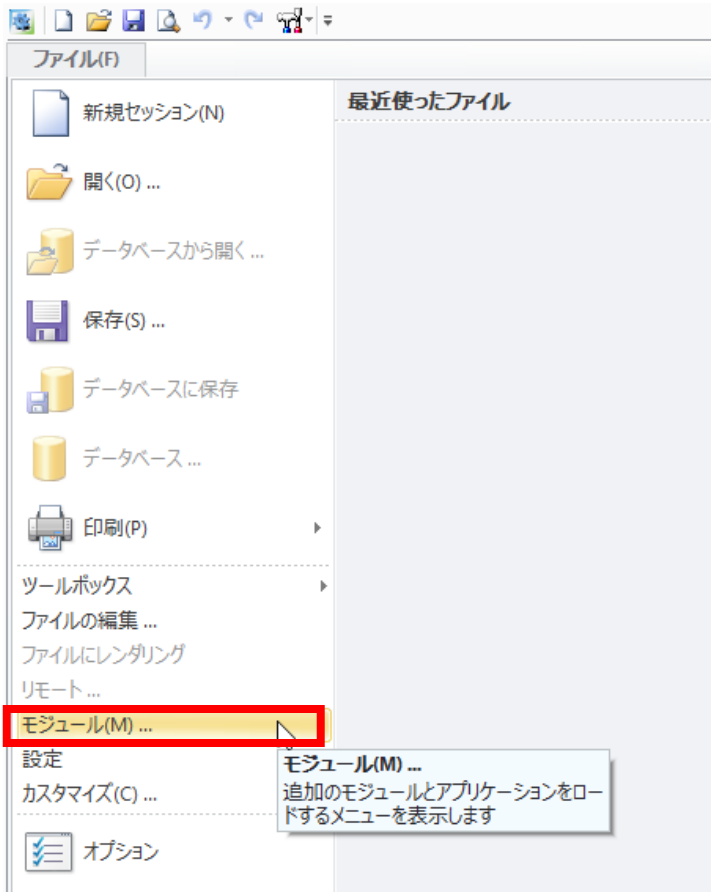
2.2.6.1.6. Creo Elements/Direct Modeling

PARTsolutions メニュー

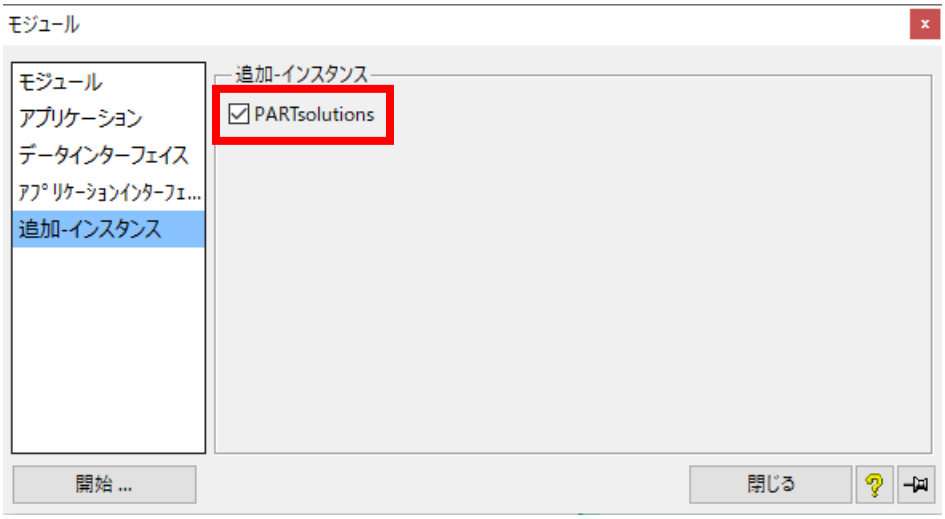
インストール直後は以下の状態になっています。インテグレーション有効です。

起動後「PARTsolutions」メニューが表示されない場合、アドインを有効にする必要があります。以下の操作でアドインを表示させます。

1．メニューの「ファイル」＞「モジュール」を選択

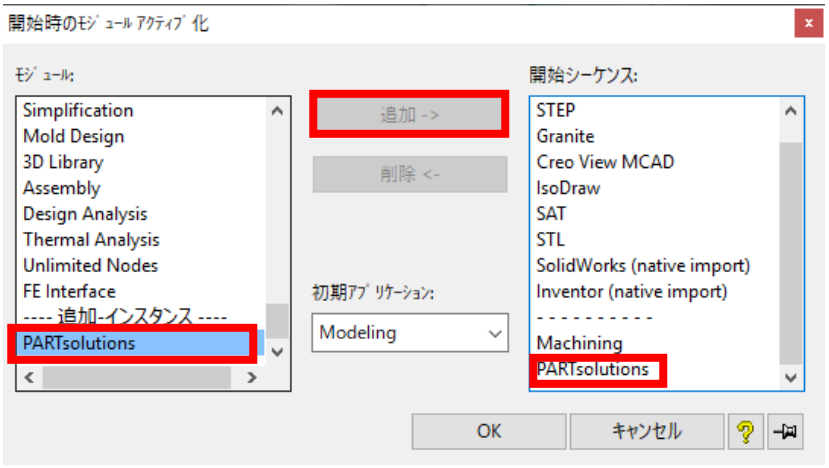


2．「モジュール」ダイアログ内で「追加-インスタンス」＞「PARTsolutions」にチェックを入れます。



このとき PARTsolutions メニューが表示されます。

永続的に PARTsolutions メニューを表示させたい場合は「開始」ボタンをクリックし、「開始シーケンス」に「PARTsolutions」を追加してください。



> NOTE :
> このとき STL モジュールも開始シーケンスに加えてください。

3．「モジュール」ダイアログを閉じます。

2.2.6.1.6.1. 手動セットアップ

モジュールに「PARTsolutions」が表示されない場合、手動でセットアップします。

「%CADENAS%¥iface¥onespacemodeller¥<OSDM version>¥Register.bat」を「管理者として実行」します。

その後「%CADENAS%¥iface¥onespacemodeller¥common」フォルダ内のファイルを、「<Creo Direct インストールディレクトリ>¥personality¥sd_customize¥Addins¥ifosdm<1900 or 2000>」フォルダ内にコピーします。

> NOTE :
> 「<Creo Direct インストールディレクトリ>¥personality¥sd_customize¥Addins¥ifosdm<1900 or 2000>」フォルダが存在しない場合は作成してください。

<1900 or 2000>について、19 系ならば 1900、20.x ならば 2000 となります。

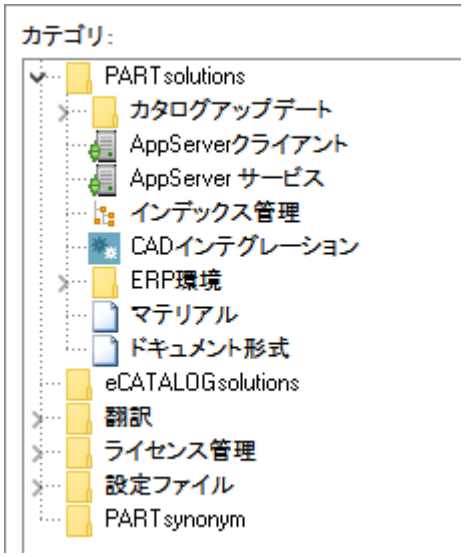
2.2.7. その他の設定

その他必須ではありませんが、設定しておいたほうが便利な設定です。

2.2.7.1.フォントの設定

PARTsolutions では Windows のデフォルトフォントが使われますが、Windows10 の場合デフォルトフォントが「游ゴシック」であり日本語の一部が見づらくなることがあります。その場合任意で変更することができます。

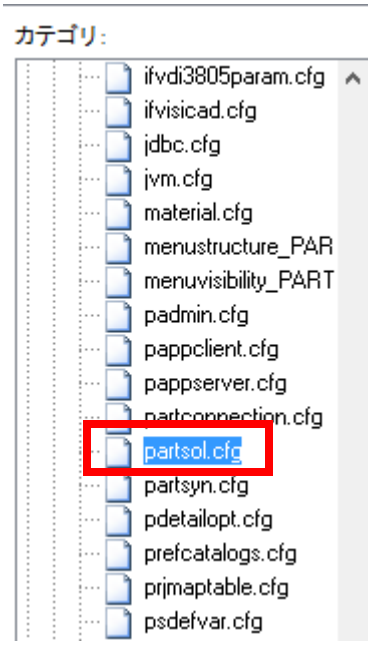
- 「游ゴシック」フォント（PARTadmin）



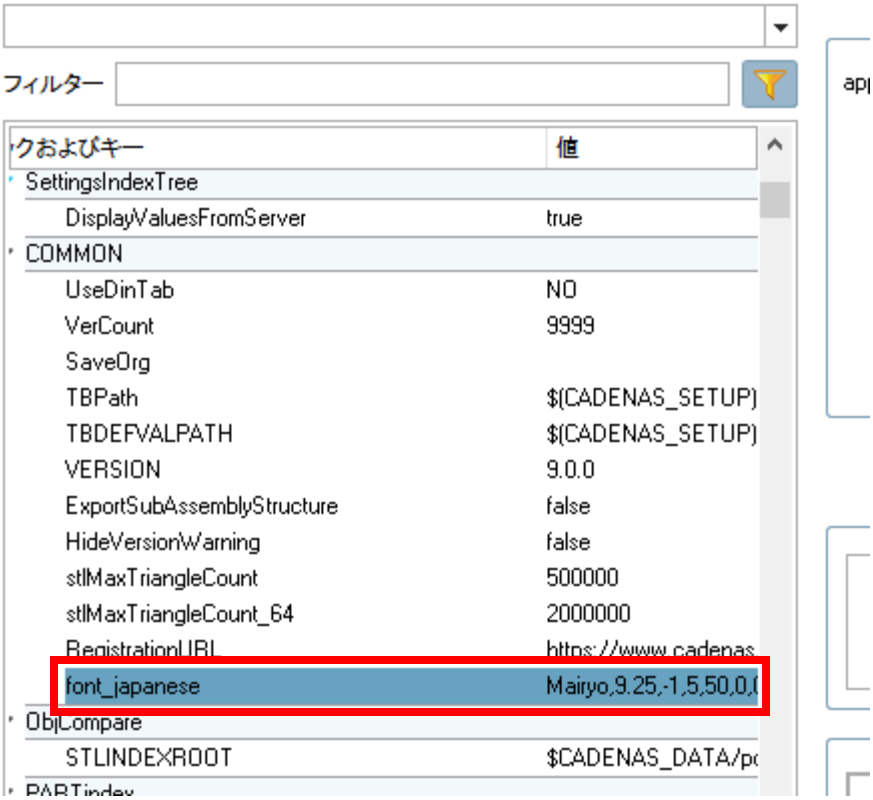
操作

1．PARTadmin を管理者として実行します（「2.2.1 PARTadmin の開始」参照）。

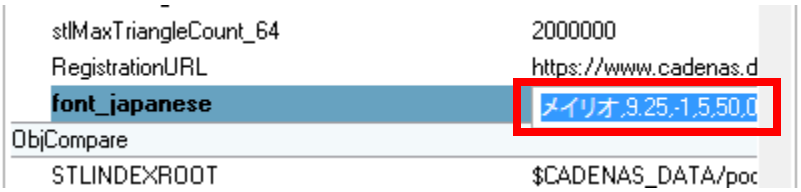
2．「カテゴリ」＞「設定ファイル」＞「$CADENAS_SETUP」＞「partsol.cfg」を選択します。



3．画面右側の「COMMON」ブロック内の「font_japanese」キーの値を変更します。



値をダブルクリックすると入力モードとなるので適宜変更します。

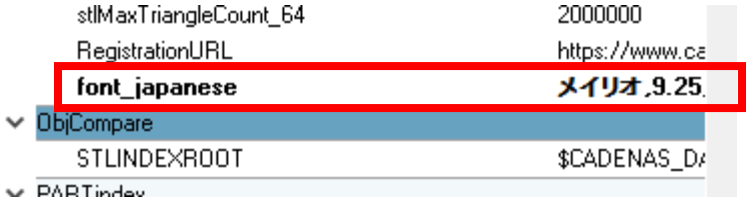


ここでは Windows 7 でデフォルトであった「メイリオ」に変更します。以下の値を入力してください。

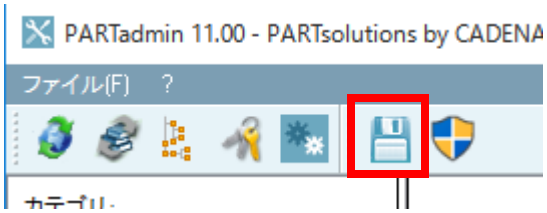
```
メイリオ,9.25,-1,5,50,0,0,0,0,0
```

> NOTE：
> 「メイリオ」より右の数値は変更しないでください。

フォーカスを外すと以下のように太字になります。変更があった箇所が太字になります。



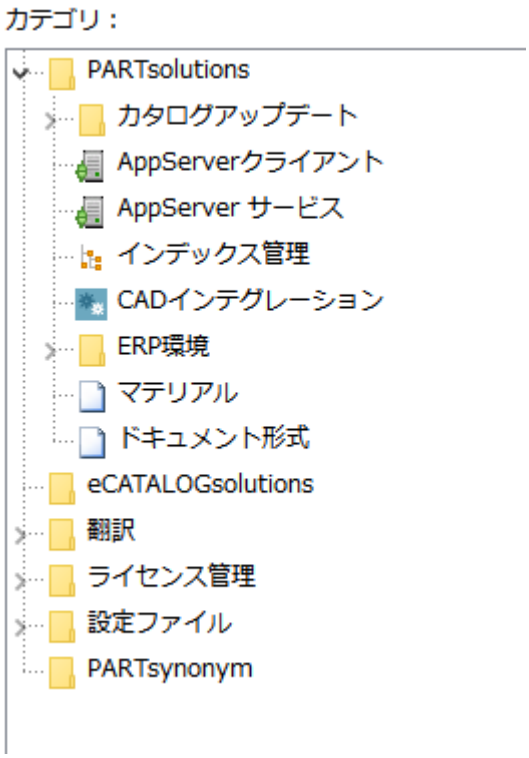
４．PARTadmin を保存します。



このとき太字であった変更箇所は元に戻ります。設定が変更されたことを意味します。

このあと PARTadmin を再起動するとフォントが変更されているのを確認できます。

- 「メイリオ」に変更後



2.3. システム要件

2.3.1. ソフトウェアコンポーネント

通常、ソフトウェアは以下の 5 つのコンポーネントで構成されています。すべてのコンポーネント（セントラル、または、ローカル）が独立してインストールすることができます。

1．ソフトウェア

ロケーションごとに一つの PARTsolutions をインストールします。一つのロケーションには一つのマスターインストレーションがあり、それを他のインストレーションでも繰り返します。このマスターインストレーションにはすべてのアップデートが適用されます。あるロケーションで何らかの問題が発生した場合、メンテナンスがレプリケーションの労力は増えますが、各部門で独立してインストールすることも可能です。

2．カタログ

ロケーションごとに、ある一箇所にすべてのカタログを集中します。方法はソフトウェアと同様です。

3．LinkDB

全ロケーション用に一つの LinkDB。LinkDB は、他のすべてのロケーションからより簡易に到達出来る、ある一つの中央のロケーションにインストールされます。ネットワークパフォーマンスが十分でない場合、LinkDB をすべてのロケーションごとにインストールし、データベースの機能等を使ってそれぞれを複製する方法を採ることもできます。LinkDB はお客様社内で使用されているデータベースから独立しています。もちろん、既存のデータベースを LinkDB 用に使うことも出来ます。MSSQL Server、Oracle、SAPDB、MySQL が利用されます。

NOTE :

LinkDB はオプション製品です。PARTsolutions ERP/PDM インテグレーション利用時に必要となります

4．フィンガープリント

フィンガープリントは通常、カタログの状態で持っています、またカタログ更新時にも自動的に更新されます。

NOTE：
（形状）検索速度を速めるために、クライアント－サーバーインストレーションで PARTapplicationServer を設置するべきです。

5．ライセンスサーバー

ライセンスサーバーは、サーバ上の特定のポートで動作するツールです。すべてのクライアントはこのサーバとなるコンピュータ/ポートへアクセス出来なければなりません。ライセンスサーバーは、どのロケーションでもインストールすることが出来ます。ライセンスファイルが更新された場合は、ライセンスサーバー上に新しいライセンスファイルを適用します。古いライセンスファイルは削除します。

6．その他

通常、ソフトウェアとカタログのローカルインストレーションによる実行が最も良いパフォーマンスを発揮します。LinkDB については、個々のロケーションにインストールした場合、データベースレベルの複雑なコンフィグレーションをそれぞれ行う必要性が発生してしまうので、このような状況を排除するためにも可能な限りネットワークスピードの速いロケーションで集中的に利用可能とすべきです。

サーバーとクライアント、どちらも特別なハードウェア要件はありません。CAD システムが動作するコンピュータならば、PARTsolutions は問題なく動作します。システムとハードウェア要件については、以下の情報を参照してください。

クライアント-サーバーインストレーションの「サーバー」はクライアントへファイルを転送する単純な「ファイルサーバー」です。アプリケーション自体はクライアントにより実行されます。ファイルサイズは次のテーブルから取り出されます。サーバーはアクセスのピーク時間（朝）中でもクライアントから迅速に利用可能なことを考慮し、設置されるべきです。

2.3.2. システム要件

PARTsolutions の正常なオペレーションは以下のリストに挙げられる WINDOWS システムで保証されます。その他のシステムへのインストレーションも可能かもしれませんが、サポートはされません。

どんなシステムが可能？

- ソフトウェアのクライアントオペレーション用（e.g. PARTdataManager）
  - Windows 8（V9.08 SP0 以降）

    NOTE：
    CAD システムのシステム要件に沿ってください。もし各 CAD が Windows 8 をサポートする場合、サポートされます。

  - WIndows 10（V10.00 SP2 以降）

NOTE :
CAD システムのシステム要件に沿ってください。もし各 CAD が Windows 10 をサポートする場合、サポートされます。

- ソフトウェアのサーバーオペレーション用（e.g. クライアント-サーバーインストレーションのサーバ、PARTapplicationServer、License Manager）
  - Windows Server 2012(Windows 8 互換)

    NOTE :
    CAD システムのシステム要件に沿ってください。もし各 CAD が Windows 8 をサポートする場合、サポートされます。

  - Windows Server 2012 R2(Windows 8.1 互換)

    NOTE :
    CAD システムのシステム要件に沿ってください。もし各 CAD が Windows 8.1 をサポートする場合、サポートされます。

  - Windows Server >=2016（Windows 10 互換）

    NOTE :
    CAD システムのシステム要件に沿ってください。もし各 CAD が Windows 10 をサポートする場合、サポートされます。

2.3.3. ハードウェア要件

CPU	通常マルチコアプロセッサ。 サーバ利用の場合同時接続数により多くのコアを必要とします。 25 以下：8 コア 25 より多い：16 コア
物理メモリ	4 GB
ソフトウェア	最大 5GB 程度
規格品とサプライヤカタログ用ディスク(インデックスも含む) インデックスは全スペースの約 1/5 を取ります。この数値はあく	ストレージスペースは、個々の要件に依存します。以下のスペックは単純に見積もった場合です。 ♦ 現在利用可能なカタログが約 800 社分 ♦ 年間 40 社程度増加 ♦ すべてのカタログをインストールする計画の場合、インデックス

まで目安です、なぜなら、インデックスサイズは、製品のタイプや翻訳言語の数等、いくつかの要因に影響されるからです。	のためのスペースに 40GB、及び、カタログのために 200GB 必要です。 ♦ カタログがネットワークドライブの場合、インデックスはローカルにキャッシュされます。
FLM サーバー	100MB 程度
グラフィックカード	最小 64 MB OpenGL-capable;ハードウェアアシスタントを推奨します。画面解像度は最小「1280x1024」を必要とします。
WIN-UNIX 接続	NFS、または、Samba

2.3.4. ネットワーク要件

GROUP	トランザクションのコールに必要な最小サイズ	レプリケーション
ソフトウェアベース	< 再起動時に 20 MB	Allsync/rsync
ソフトウェアインテグレーション	< CAD 用に 5 MB	Allsync/rsync 現在のところ登録されるためのインターフェースがありません。
カタログデータ	< 一つのパーツファミリを呼ぶときに 0.1 MB 程度	
インデックス	< カタログ変更時 1 MB	
ライセンスサーバーサービス	無視できるレベル	レプリケーションマネージャの統合。 バックアップサーバ
パーツファミリを開くごとのカタログスループットデータ	パーツファミリごとに約 200 KB （テーブルサイズや製品の複雑さにより異なる）	

2.3.5. LinkDB

➢ データベースドライバ：

JDBC、JDBC が使えない場合は ODBC ドライバ

➢ データレンジ：

HDD：10000 パーツで約 100MB（ただし、カラム数やカラムのサイズに依存する）

➢ パートファミリを呼ぶごとの LinkDB のフローレイト：

- ♦ レコードごとのバイト数：ロードされるカラムの数×カラムのサイズ
- ♦ LinkDB のフローレイト：レコードごとのバイト数×パートファミリ内のパーツの数
  e.g. 5 カラム×20 characters×500 パーツ = ca. 50kb

  e.g. 10 カラム×20 characters×1500 パーツ = ca. 300kb

2.3.6. 備考

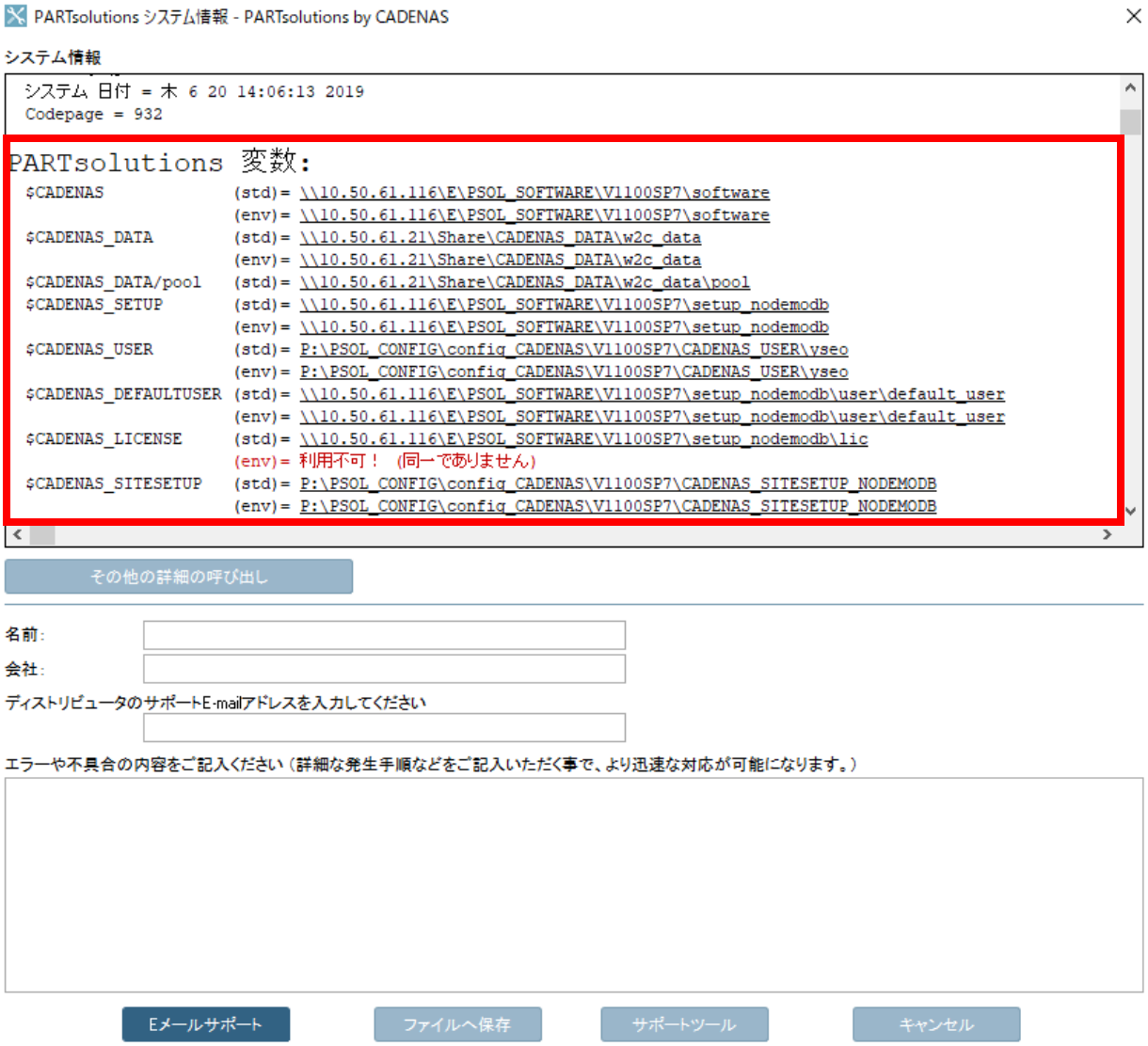
- それぞれの PARTsolutions ソフトウェアインストレーション（新規、更新）ついて、データがネットワークを通じて転送される必要がある場合、ネットワークトラフィックが空いているときに行ってください。
- 更新中に PARTsolutions アプリケーションが開いていないことを確認してください。

2.3.7. 環境変数、レジストリエントリについて

- 利用可能な PARTsolutions 変数

$CADENAS	Software
$CADENAS_DATA	カタログデータ
$CADENAS_LANGUAGE	言語
$CADENAS_SETUP	内部的なスクリプト、cfg ファイル
$CADENAS_SITESETUP	「2.3.7.1$CADENAS_SITESETUP」参照
$CADENAS_USER	
$CADENAS_DEFAULTUSER	=$CADENAS_SETUP¥user¥default_user 例 : もし「$CADENAS_USER」ディレクトリを削除した場合はすべての値はこの DEFAULTUSER ディレクトリから再度コピーされます。
$CADENAS_LICENSE	
$OSNAME	OS の名前
$CADENAS_PROGHELP	プログラムヘルプのディレクリ デフォルト値は「$CADENAS/proghelp」です。
$CADENAS_CLIENT	
$CADENAS_VDAPS	
$TMP	
$TEMP	
$CADENAS_SHARED	=$CADENAS_DATA/shared レポート（分析、PARTconnection 共通ドキュメント）類の保存場所 ドキュメントスキャン時の保存先

PARTsolutions アプリケーション（e.g. PARTdataManager、PARTadmin）を起動して、「ヘルプ」>「システム情報／サポート」を選択、または F7 キーを押下すると「PARTsolutions システム情報」ダイアログが表示され、PARTsolutions 変数の現在値を確認することができます。各リンクをクリックすると、直接そのディレクトリが開きます。しかし管理者権限を持つ必要があります。



2.3.7.1.$CADENAS_SITESETUP

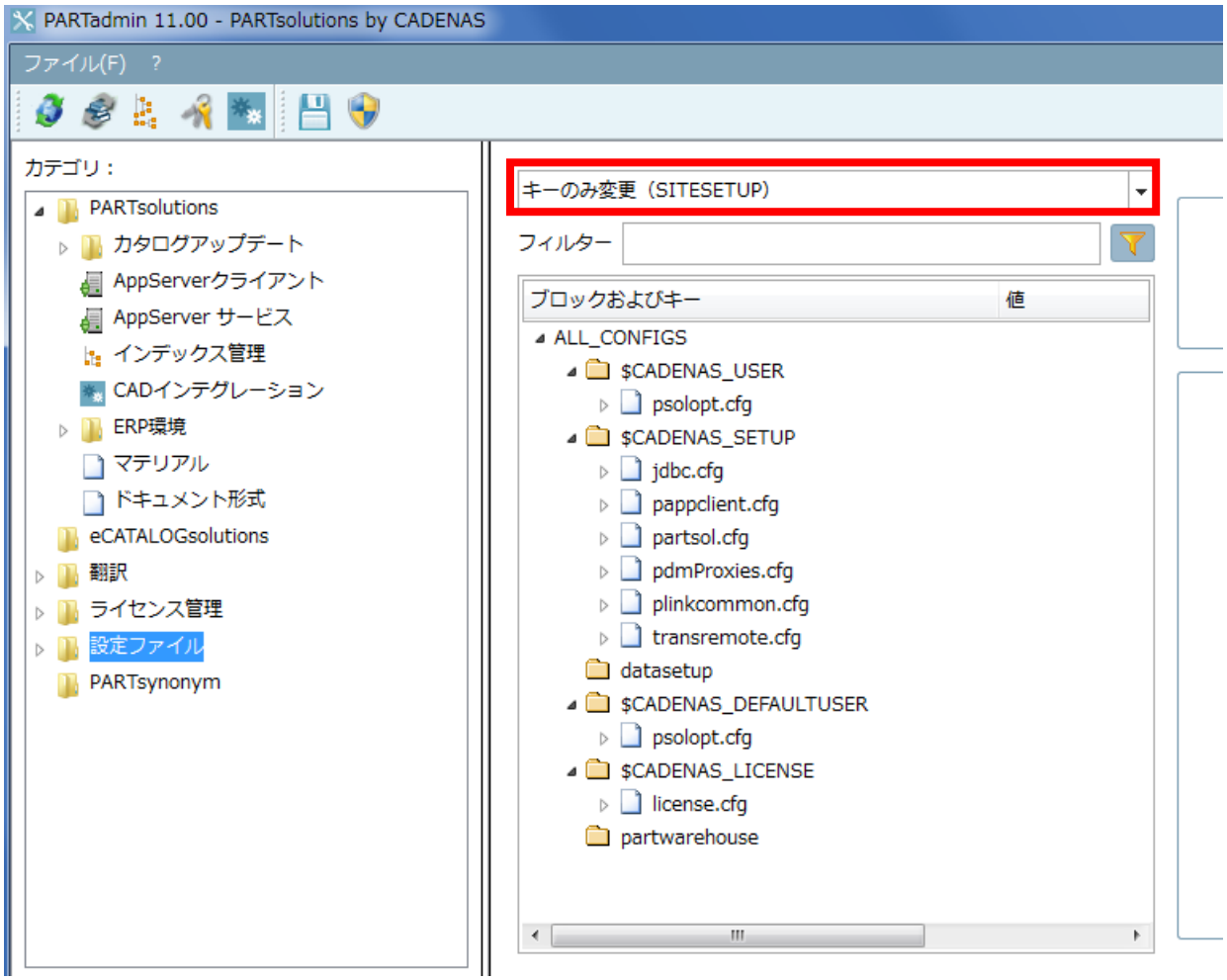
この変数を設定すると、デフォルト設定が変更されるとすべての変更が第 2 の Setup ディレクトリに書き込まれます。 これにより、変更が行われたかどうか、もしあればどのスコープで行われたか明らかです。 Default_User ディレクトリもこの Setup 内にあり、同様に管理されます。

上記機能を有効にするには、環境変数「CADENAS_SITESETUP」を指定します（例：start.env）。 このディレクトリはあらかじめ作成しておく必要があります。 例えば：

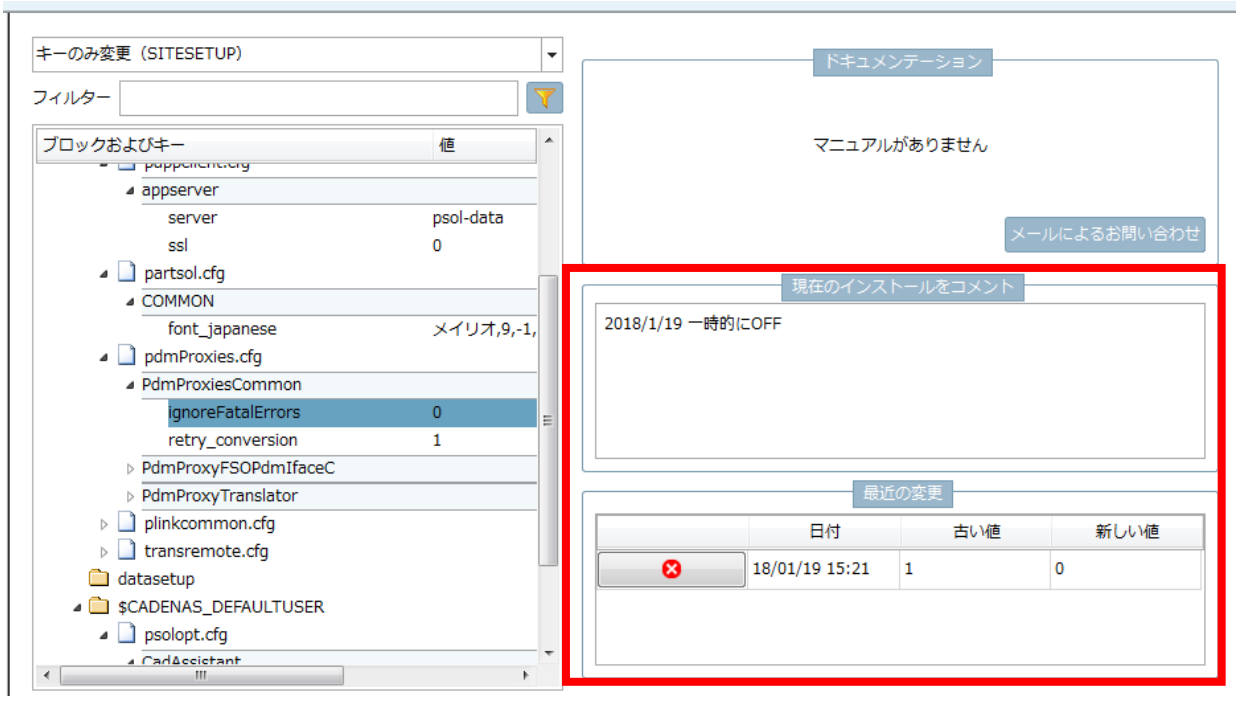
```
CADENAS_SITESETUP=$CADENAS/sitesetup
```

この機能がアクティブのとき、PARTsolutions アプリケーションが SETUP に書き込もうとすると、それぞれの設定ファイルのコピーが「$CADENAS_SITESETUP」に自動的に作成され、そこに変更が保存されます。 デフォルト値に戻すと、それぞれのファイルが「$CADENAS_SITESETUP」から再度削除されます。

PARTadmin ユーザーインターフェイスの「カテゴリ」>「設定ファイル」で、「変更されたキーのみ（SITESETUP）」フィルタを設定できます。 変更されたキーだけが表示されます。



この CADENAS_SITESETUP 利用時は、「現在のインストールをコメント」エリアと「最近の変更」エリアの各機能が有効になります。



- 現在のインストールをコメント

  「現在のインストールをコメント」エリアで、変更のコメントを設定できます（変更の理由など）

  エントリは「$CADENAS_SITESETUP/configEditorUserIo.xml」として保存されます（User ディレクトリの変更は影響ありません）

- 最近の変更

  「最後の変更」エリアでは、選択されたキーの変更値が日付付きでリストされます。

  エントリをクリックすると、削除することができます。 「古い値」または「新しい値」列の値をダブルクリックすると、この値が再び設定されます。

  エントリは「$CADENAS_SITESETUP/configEditorUserIo.xml」として保存されます（User ディレクトリの変更は影響ありません）

2.3.7.2.備考

より古いインストレーションの環境変数、又は、エントリがまだセットされている場合、PARTadmin で正しく動作する言語の調整のため、適切に削除されなければなりません。

- PARTsolutions と PARTadmin の間の言語選択についての関係は、Version 9 で変更されました。これまでは、PARTadmin はいつも「$CADENAS_LANGUAGE」変数に書きました。現在 Version 9 では PARTadmin は「 $CADENAS_USER/partsolu.cfg 」 に 書 き ま す (も し 明 示 的 に 要 求 し 使 用 を 続 け る 場 合 、「$CADENAS_LANGUAGE」変数を使用することが出来ます。その優先順位が以下の点のリストになります)。今現在はこの変更のため、PARTsolutions 管理者権限(及び、OS の管理者権限)が無いユーザーもクライアントコンピュータで言語の設定を行うことが出来ます。

- 以下のリストの優先順位で言語設定に影響を与えます。

a. start.env(デフォルトではありません)

b. 環境変数(デフォルトではありません)

c. レジストリエントリ(デフォルトではありません)

d. $CADENAS_USER/partsolu.cfg

e. OS のセッティング

2.3.7.3.start.env による環境変数のセット

通常の Windows の環境変数にセットする方法の他に、$CADENAS 直下に「start.env」（テキストファイル）ファイルを置くことでも CADENAS 環境変数をセットできます。

以下例です。

```
[ENVIRONS]
CADENAS=%DirOfThisFile%
CADENAS_DATA=%DirOfThisFile%/../../../DATA
CADENAS_SETUP=%DirOfThisFile%/setup
CADENAS_SITESETUP=%DirOfThisFile%/../../../../PSOL_SHARED/SITESETUP
CADENAS_SHARED=%DirOfThisFile%/../../../../PSOL_SHARED/SHARED
CADENAS_DEFAULTUSER=$CADENAS_SETUP/user/default_user
```

```
CADENAS_USER=%DirOfThisFile%/../../../USER/%username%/V1100SP10


[ENVIRONS(COMPUTERNAME=EXV9*)]
var=value


[ENVIRONS(COMPUTERNAME=BEXV9*)]
var=value


[ENVIRONS(LOGONSERVER=*server.de*)]
var=value


[ENVIRONS(LOGONSERVER=server.it*)]
var=value
```

- 「(LOGONSERVER=server.it*)」等は条件付きです。上から下へ読み込まれ最後にマッチしたセクションの設定が有効になります。
- 条件には OS の環境変数を使用できます。
- 「*」は頭、末尾、両サイドで使用できます。

2.3.8. 地域と言語のオプションの変更 – オペレーティングシステム調整

コードページで使われるパートで無い特定のキャラクタセットを必要とする言語を使用したい場合、その調整は地域と言語のオプションで行わなければならず、システム言語はリセットされなければなりません。

キャラクタセットの例です：

- Windows code page 1250: central European languages
- Windows code page 1251: (Slavic) Cyrillic
- Windows code page 936: Chinese language packages

オペレーティングシステムページの必要な設定を行ってください。

3. FLM サーバのインストール

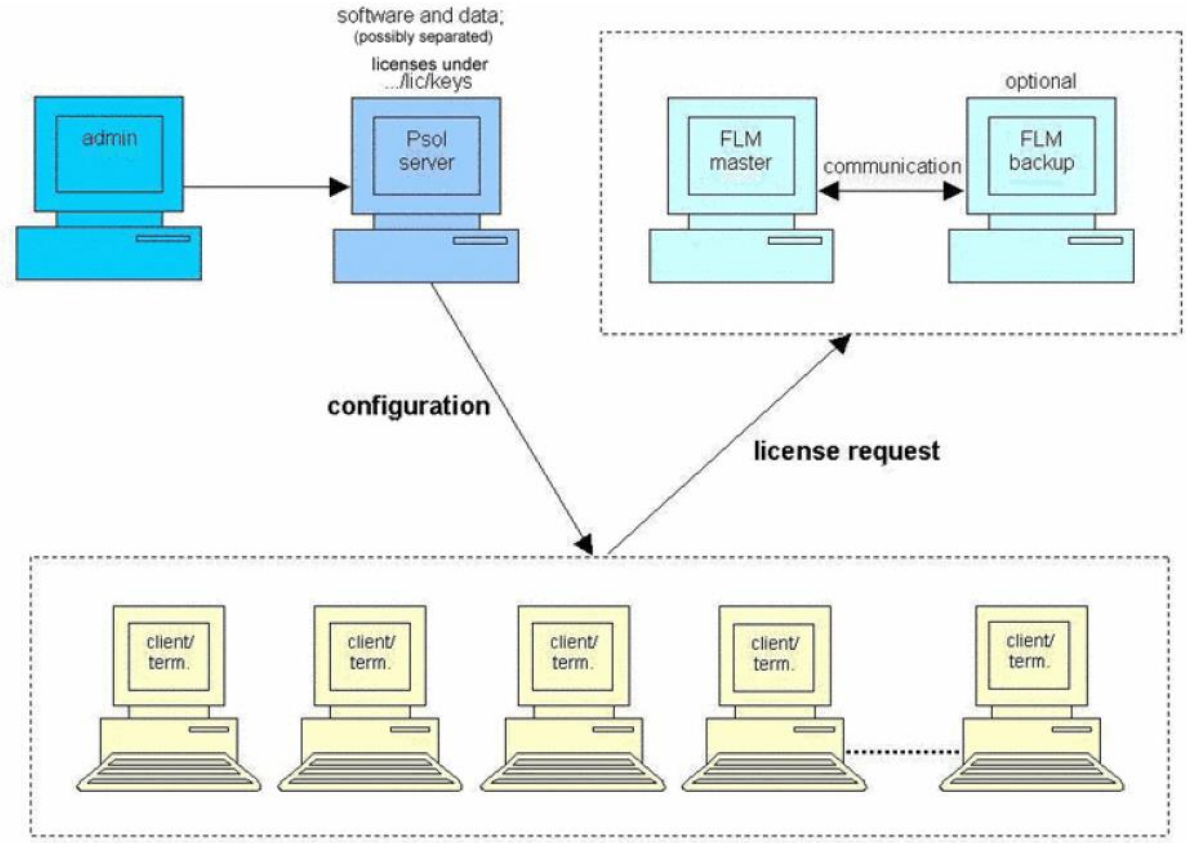
NOTE :
ノードロックライセンスでご契約のお客様の場合、本操作は不要です。

NOTE:
V9FLM サーバと V10FLM サーバは同じサーバ内で動作させることができません。
オプションで、マスターサーバとは別にバックアップサーバをセットすることができます。ただしすべてのマスターサーバとバックアップサーバを同じバージョンである必要があります。
サーバは一つの固定 IP を使用し、複数の IP アドレスを持つ仕様は避けてください。

3.1. FLM インストレーションとは？

フローティングライセンスサーバー（以下「FLM サーバ」）は、ユーザーへ必要なライセンスを動的に配信します。

例えば、もし 150 クライアント/ターミナルあり 50 ライセンスが利用可能な環境があった場合、最大 50 ユーザーが同時に PARTsolutions を利用可能です。そのとき、もし 51 番目のユーザーが使用したい場合、先にライセンスを利用している 50 ユーザーの内の 1 ユーザーがライセンスを解放するまで待たなくてはなりません。



NOTE :
上記の「PSOLServer」と「FLMMaster」は同一の PC である場合もあります。

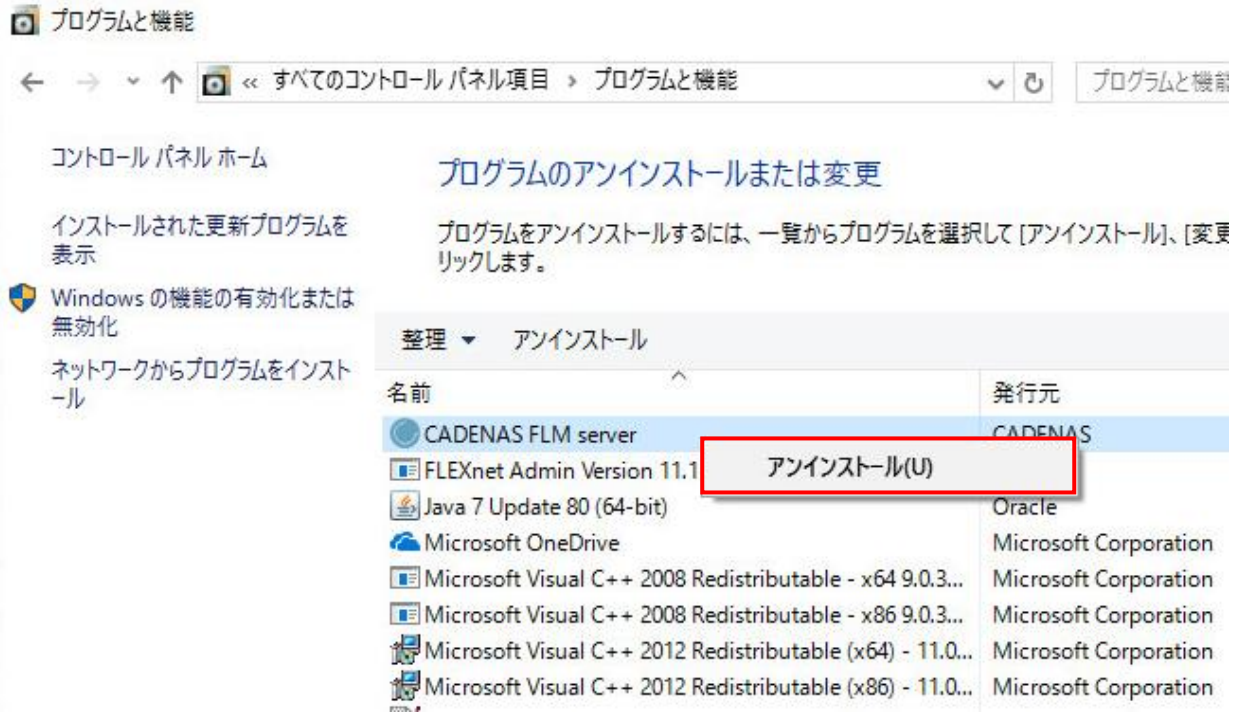
NOTE :
PARTapplicationServer の起動時に機能を設定するため、ライセンス（したがって、使用される可能性のあるライセンスサーバー）は、PARTapplicationServer の起動時に利用可能でなければなりません。それ以降のライセンスの「引き抜き」は不可能であり、提供されていません。

3.2. 要件

FLM サーバの要件は、利用するすべてのコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされ有効であることです。TCP/IP プロトコルの状態を確認するために、ネットワーク接続のプロパティを参照してください。

3.3. 旧バージョンの FLM サーバプログラムをアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から「プログラムのアンインストール」へ移動し、「CADENAS FLM server」を選択、右クリックで「アンインストール」を実行します。



直後すぐにアンインストールが開始されます。

3.4. FLM サーバーのインストール(マスター)

PARTsolutions がインストールされた後、ユーザーは FLM サーバーからクライアントのためのライセンスを取得しなければなりません。

1．FLM サーバー用のコンピュータを用意します。

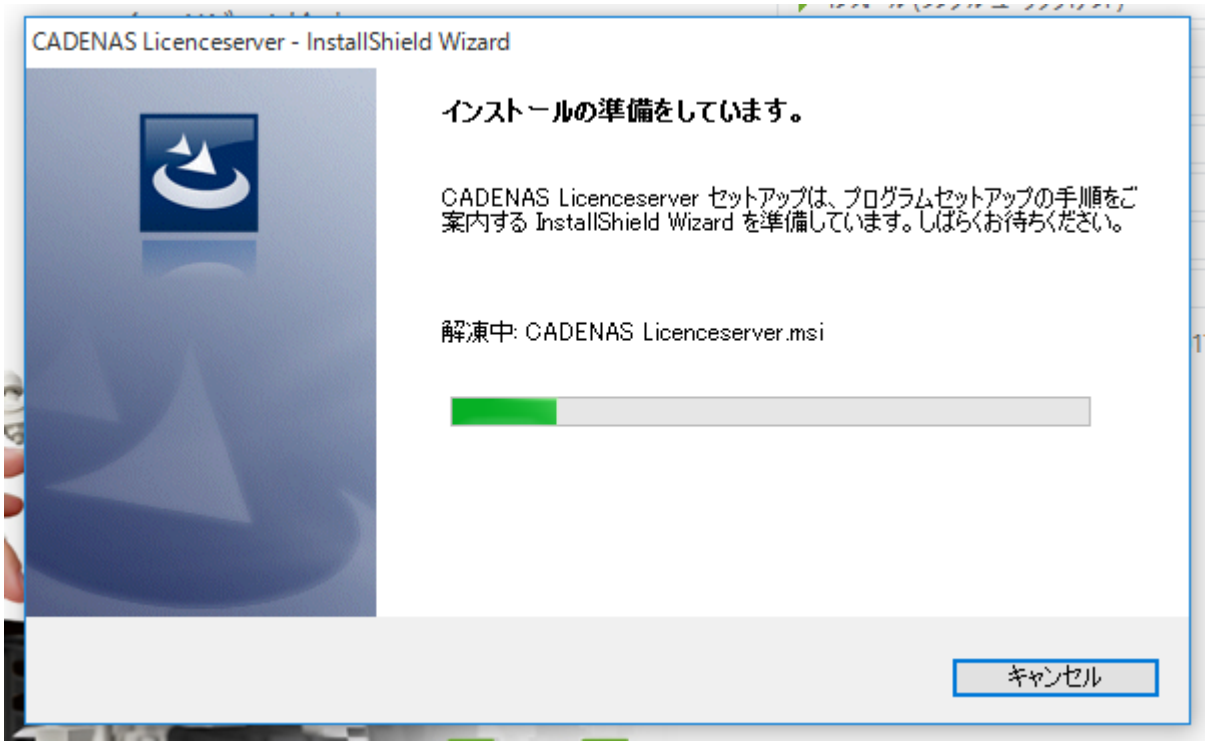
2．ライセンスサーバーとして用意したコンピュータ上で PARTsolutions のインストーラーを起動（操作は「2.1.1 cdstart.exe の実行」を参照）し、「インストール(ライセンスサーバ)」を選択します。

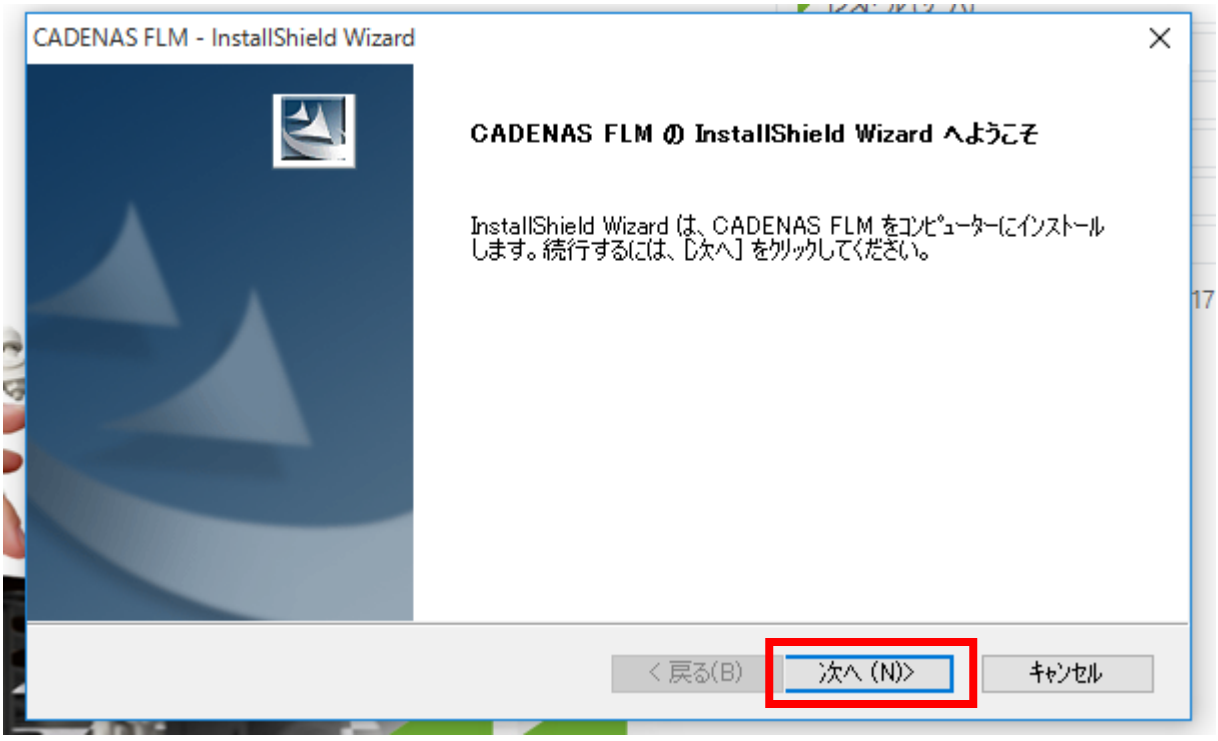
Windows エクスプローラーから行う場合、DVD メディア内の「flmserver.exe」をダブルクリックします。

3．以下はインストレーションのガイドになります。

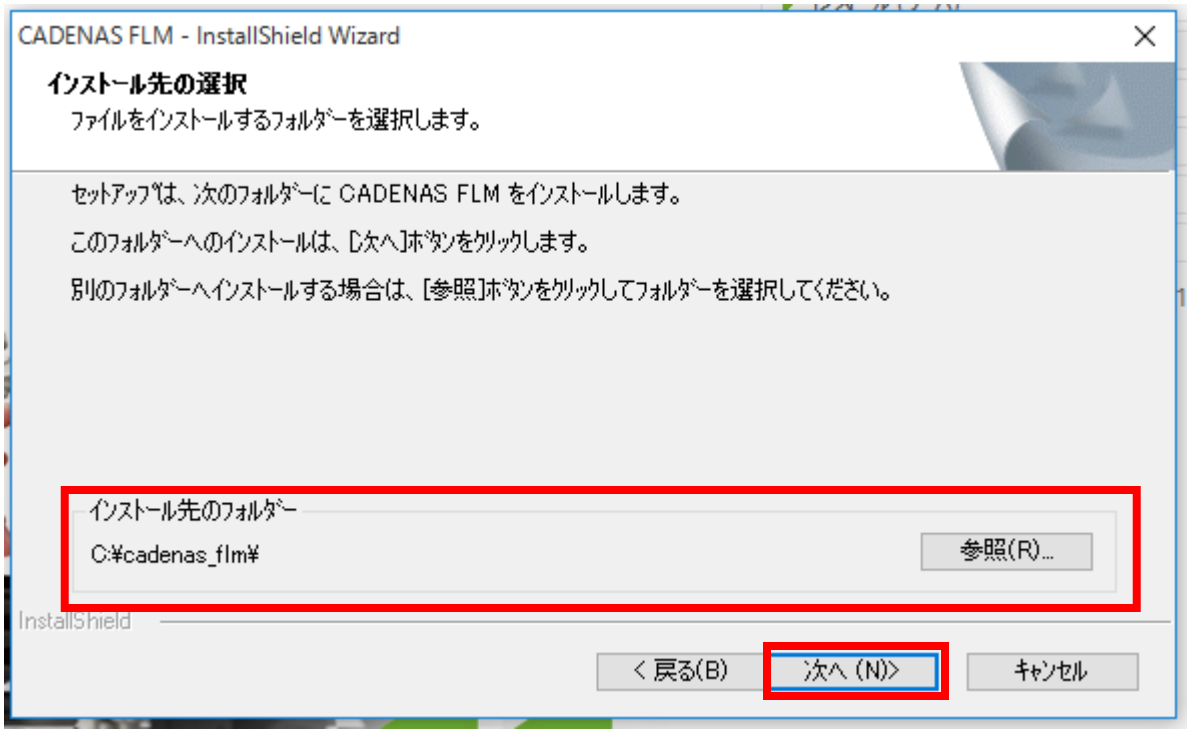
> NOTE:
> インストールを行うには、インストーラーを実行している OS アカウントが、そのコンピュータに多雨する管理者権限を有する必要があります。

まず次の画面が表示されます。

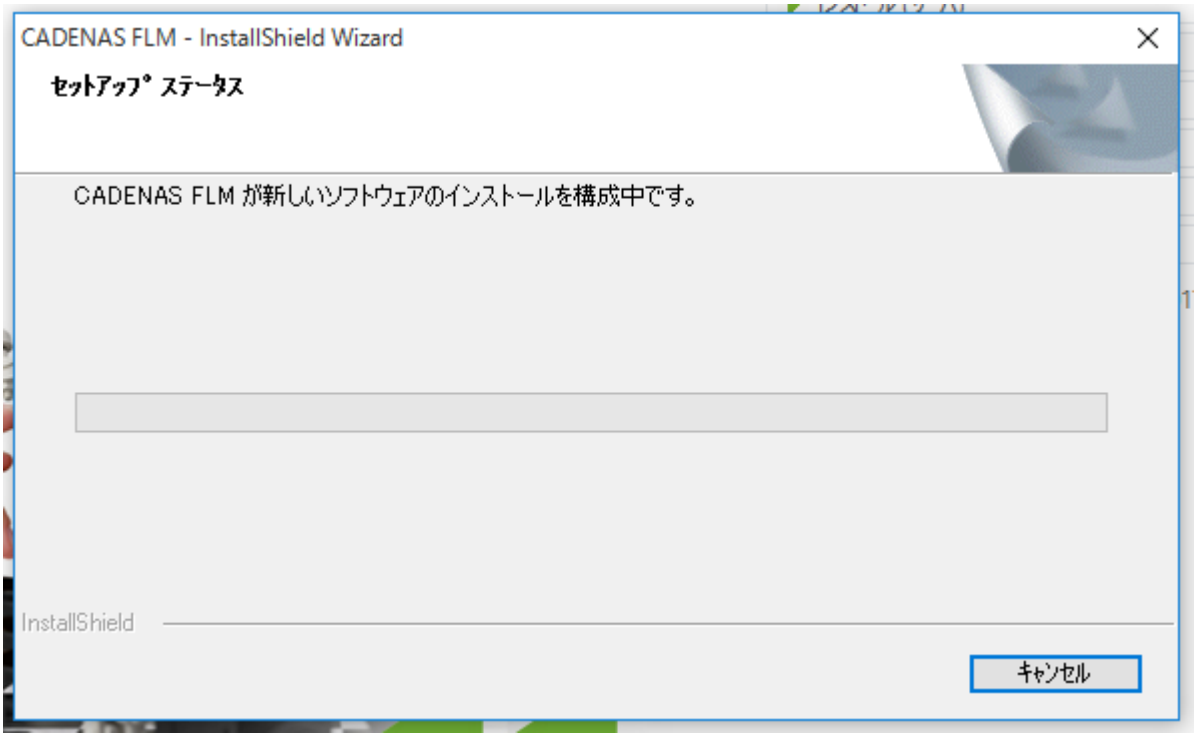

CADENAS Licenceserver - InstallShield Wizard
インストールの準備をしています。
CADENAS Licenceserver セットアップは、プログラムセットアップの手順をご案内する InstallShield Wizard を準備しています。しばらくお待ちください。
解凍中: CADENAS Licenceserver.msi
キャンセル

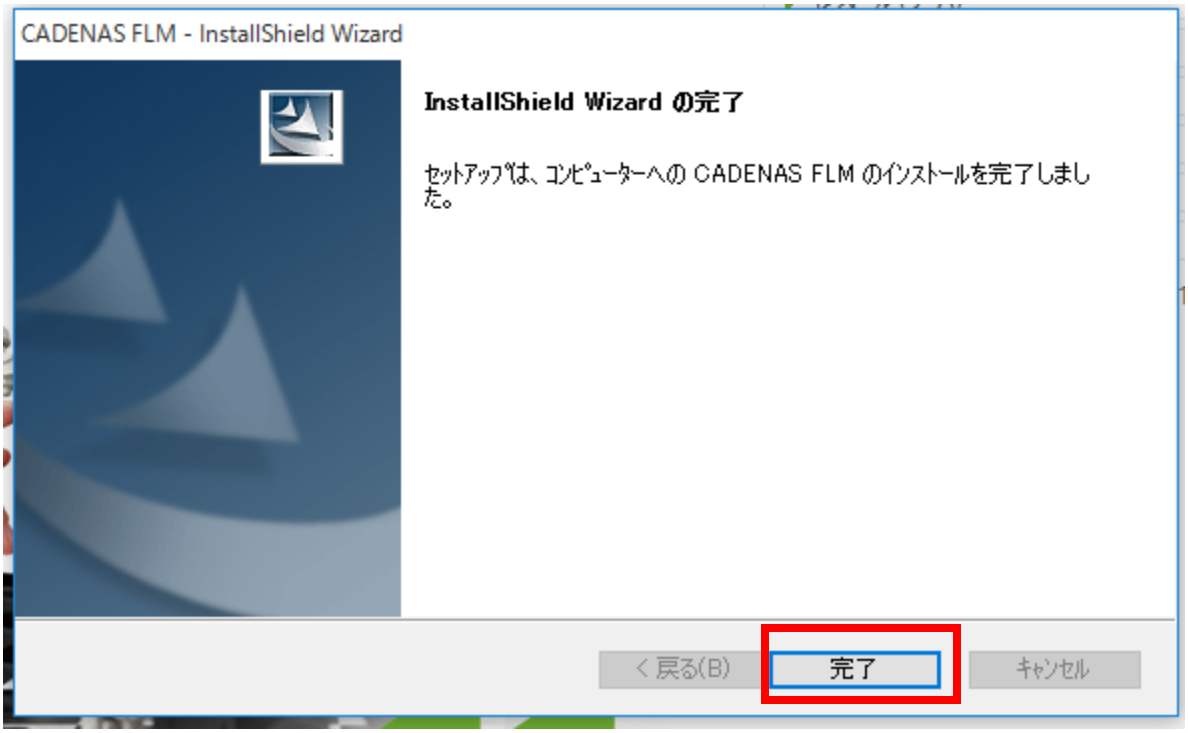

CADENAS FLM - InstallShield Wizard
CADENAS FLM の InstallShield Wizard へようこそ
InstallShield Wizard は、CADENAS FLM をコンピューターにインストールします。続行するには、[次へ] をクリックしてください。
< 戻る(B)
次へ (N)>
キャンセル

「次へ>」を押下します。



ここで FLM サーバーをインストールするロケーションを選択します。選択したら「次へ>」を押下します。この時、インストールが開始されます。





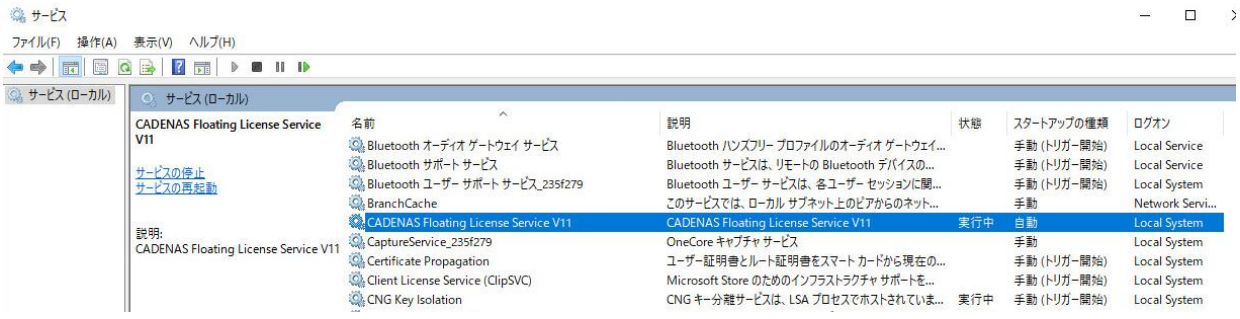
「完了」を押下するとインストール終了です。

チェック：

FLM サーバのインストールが完了したら、必要なサービスが正常に動作するかどうかを確認してください。

WINDOWS のスタートメニューから、「設定/システムコントロール/管理/サービス」のディレクトリを開いてください。

「CADENAS Floating License Service V11」というサービスが存在することを確認できます。このとき「状態=実行中」であることを確認してください。「スタートアップの種類=自動」に設定すればサーバーの再起動時も自動で FLM サーバが起動します。



NOTE:
何らかの原因で自動起動しない場合は「スタートアップの種類=自動（遅延開始）」に設定してください。

3.5. FLM サーバのインストール(バックアップ)

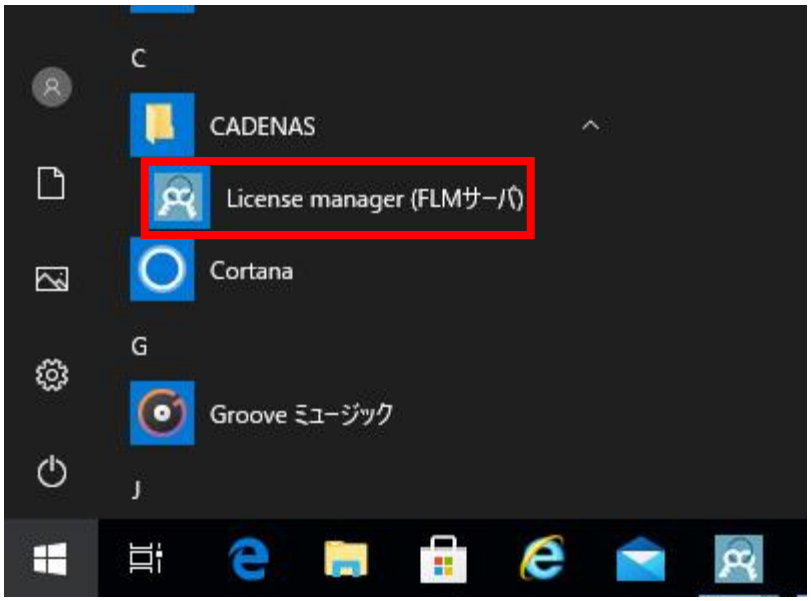
バックアップサーバのインストレーションはオプションですが推奨されます。マスターの FLM サーバーインストレ

ーションと同様の手順で行います。

マスター用とバックアップ用のライセンスファイル自体は同じファイルで提供されます。しかし、その一つのライセンスファイルの中に、マスター用の情報とバックアップ用の情報を含みます。それぞれのサーバーは異なるホスト ID で発行されますので、異なるサーバマシンでサービスを動作させる必要があります。

3.6. PARTadmin を開始

Windows のスタートメニューから「CADENAS」＞「License manager（FLM サーバ）」を選択します。



バックグラウンド情報：

CADENAS FLM サーバのインストールパス（例 : C:¥cadenas_flm）の中に start.env というファイルがあります。

注意してください!

FLM サーバの環境変数は PARTsolutions のインストールと同じ名前を持っていますが、それらは異なるディレクトリを指しています!

```
[ENVIRONS]
CADENAS=%DirOfThisFile%
CADENAS_SETUP=%ALLUSERSPROFILE%/cadenas_flm/partsolutions/setup
CADENAS_DEFAULTUSER=$CADENAS_SETUP/user/default_user
CADENAS_USER=%APPDATA%/cadenas_flm
```

FLM サーバ用のライセンスファイルは以下のディレクトリに保存されます。

```
C:¥ProgramData¥cadenas_flm¥partsolutions¥setup¥lic¥keys
```

自身でライセンスをコピーしたい場合は、正しいパスに注意してください。

対照的に、ノードロックライセンスの保存場所は、PARTsolutions インストールの %cadenas_setup% の下にあります。

3.7. ライセンスファイルの申請および適用

NOTE :
本操作は、FLM サーバとなっているマシン上で実行します。

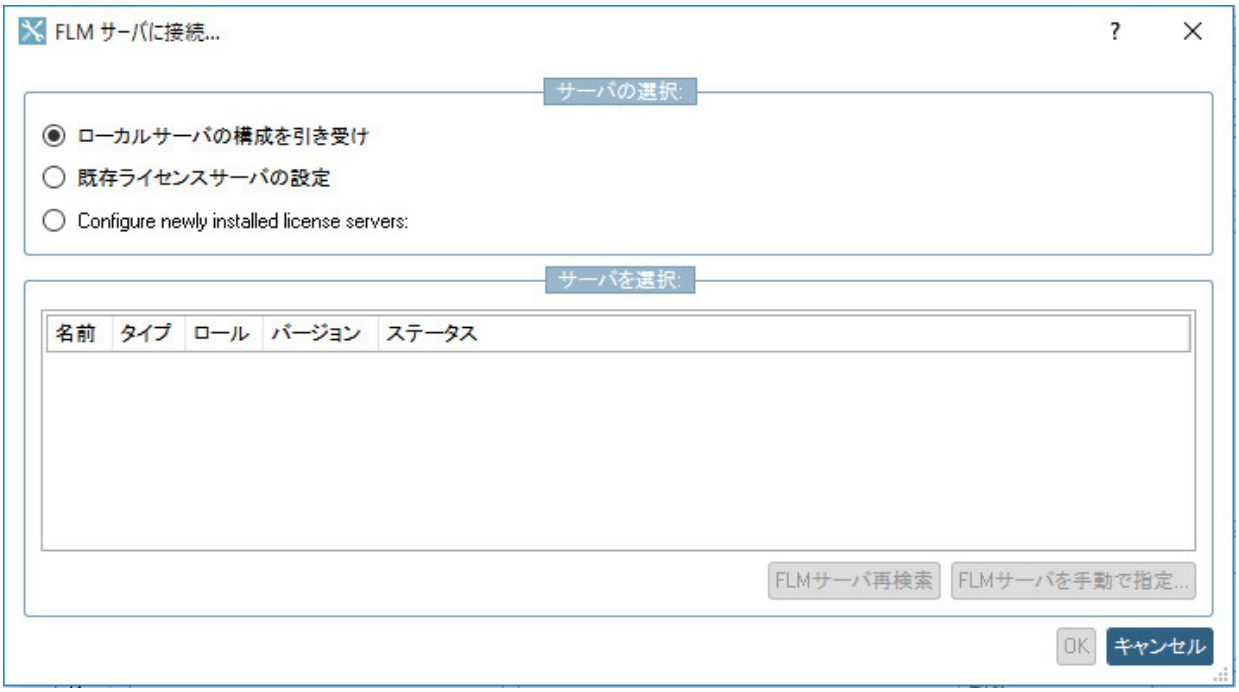
以下はマスター1 台の場合の手順です。

1．ライセンスマネージャーを起動

「3.6PARTadmin を開始」を参照してください。

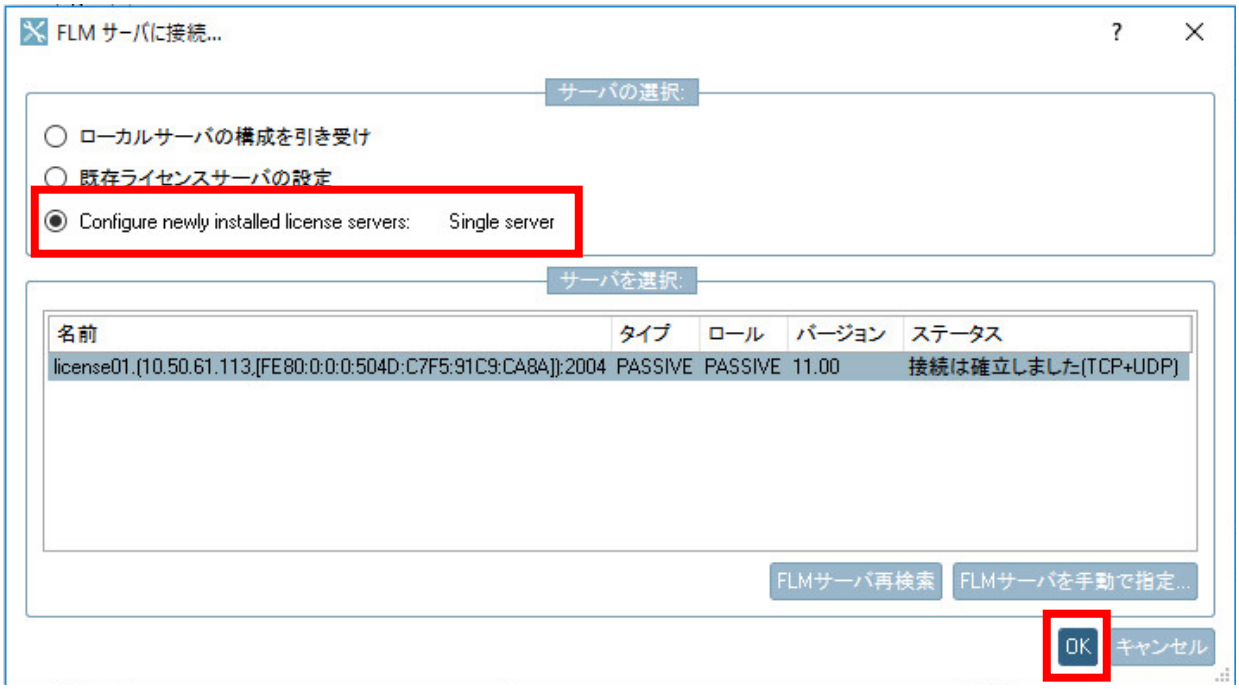
2．「カテゴリ：」で「ライセンス管理」を選択し、「一般」タブを選択、画面下部の「Start license server management...」ボタンを押下します。

この時、「FLM サーバに接続…」ダイアログが出現します。



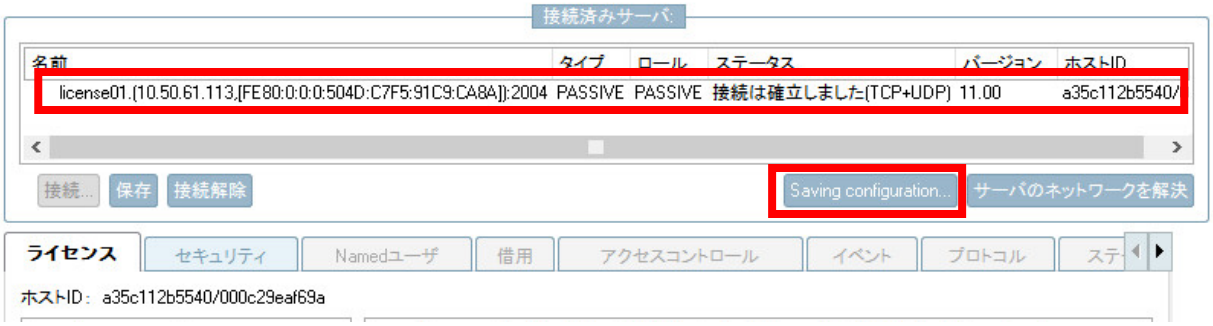
3．同ダイアログ上で「Configure newly installed license servers」を選択すると、ダイアログ下部に LAN 上の FLM サービスが起動しているマシンの一覧が表示されます。

この時、「タイプ」と「ロール」は、「PASSIVE」と表示されます。表示されたサーバーのうち、マスターとなるサーバーを選択し「OK」ボタンをクリックします。

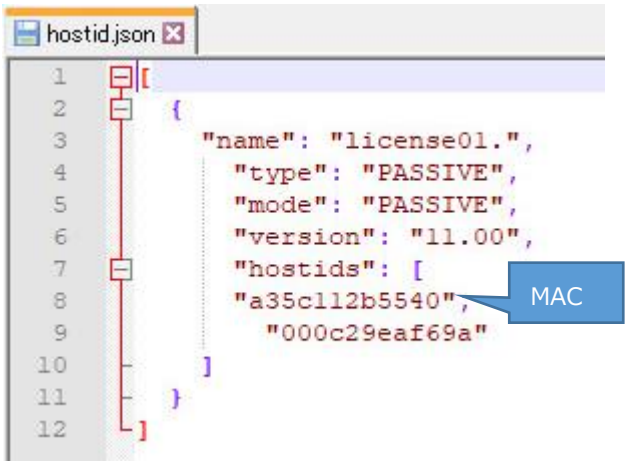


NOTE：
ライセンスサーバーのインストール後、最初の本操作の場合、上記のサーバーはまだ役割を与えられていないので、この場合「PASSIVE」と表示されます。

この時、画面上部の「接続済みサーバ」エリアに接続が完了したサーバーが表示されます。



「Save configuration」ボタンをクリックすると、ホスト ID の情報が記載された JSON（*.json）ファイルを保存できます。このファイルを添付し弊社「support@cadenas.co.jp」へ送付してください。このとき「ライセンス申請」等のわかりやすいタイトル、および、貴社名、氏名等を記載ください。



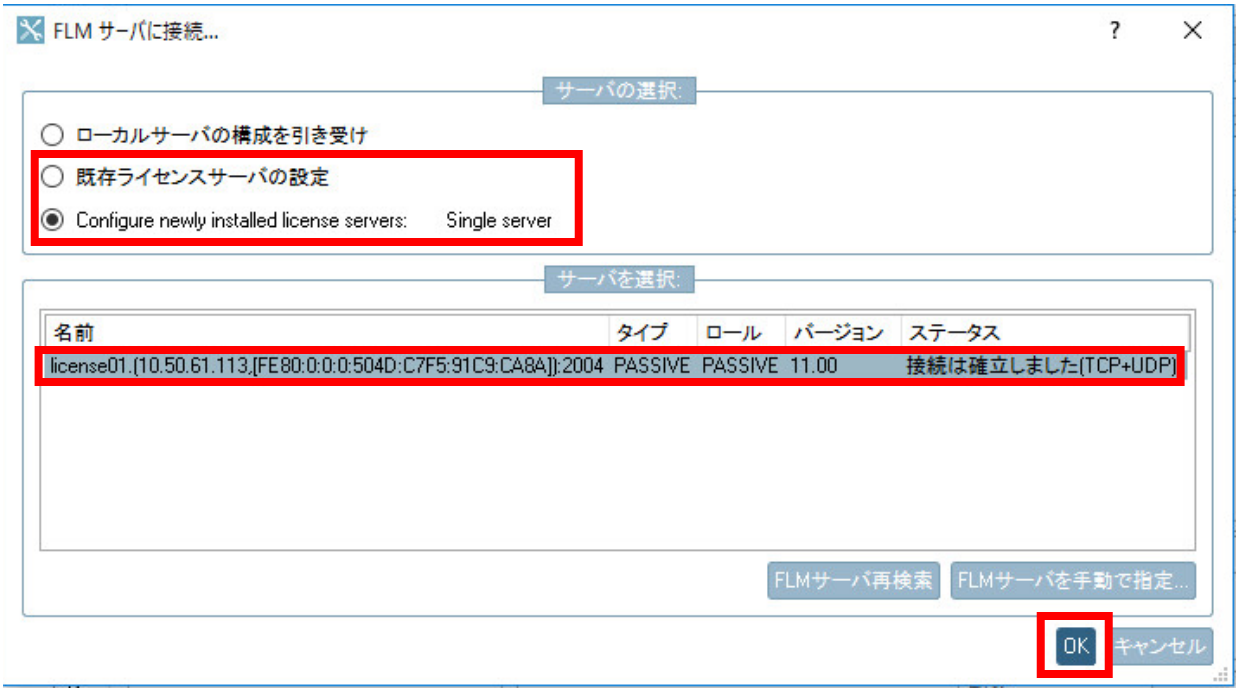
4．「保存」をクリックし一度保存します。

5．「接続解除」をクリックし一度接続を解除します。このとき「接続済みサーバ」エリアは空になります。

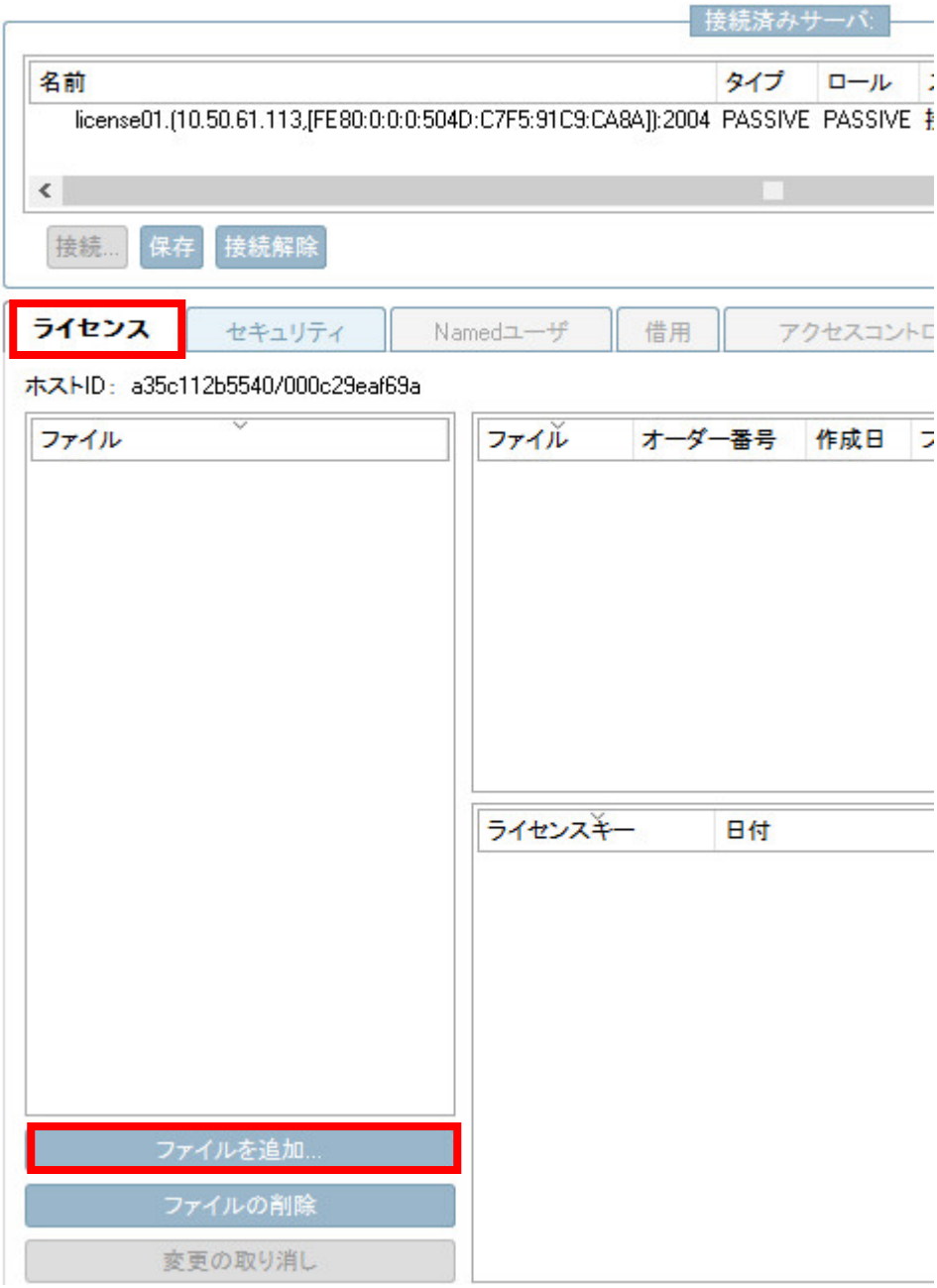
> NOTE:
> 以降はライセンスファイル入手後の操作です。

6．弊社から入手したライセンスファイル（*.cnsldb）を適用するため「接続」ボタンをクリックします。

「サーバの選択」で「既存ライセンスサーバ」を選択します、表示されない場合は「Configure newly installed license servers」を選択します。サーバを選択し、「OK」をクリックします。



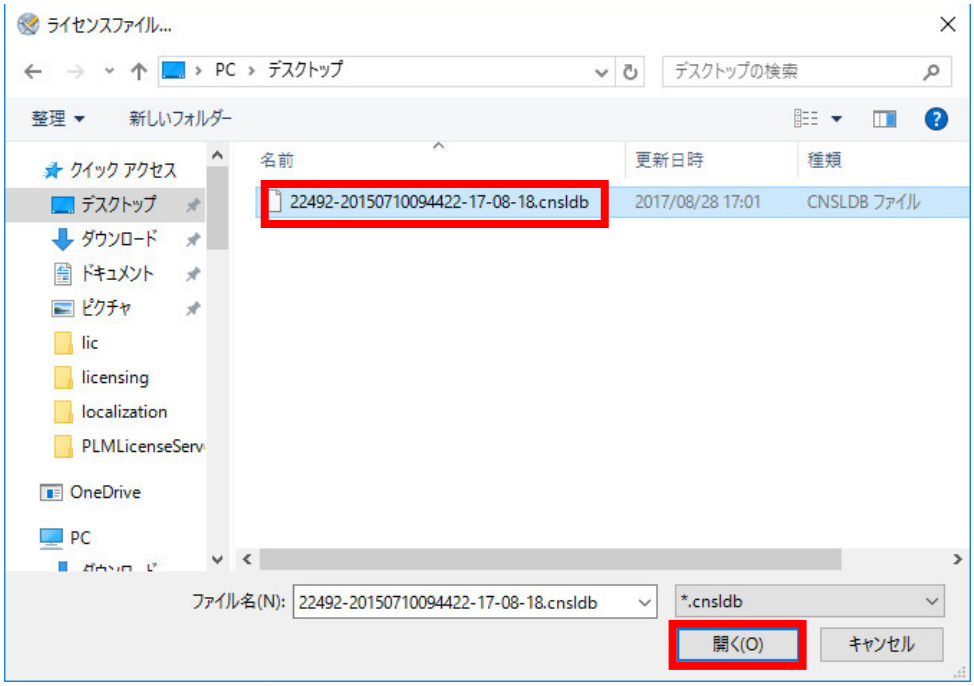
7．「ライセンス」タブを選択し、「ファイルを追加」ボタンをクリックします。



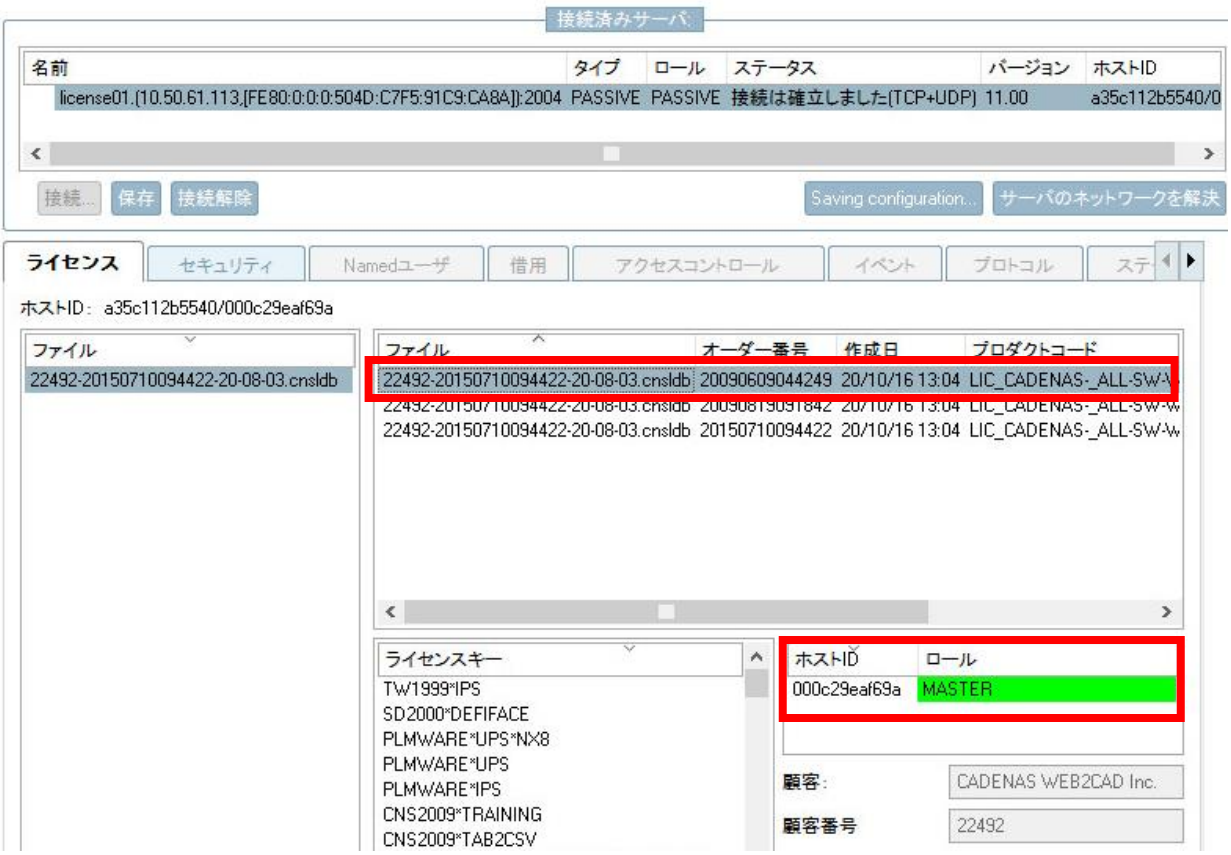
この時、「ライセンスファイル…」ダイアログが表示されます。

8．Windows Explorer から、追加する「*.cndldb」ファイル(cnsldb = cadneas license database)を選択します。Version8.0.x 用のライセンスファイルは「*.cli」です。

選択したら「開く」ボタンをクリックします。



9．上部の「ファイル」を選択したとき、画面右下の赤枠で囲った箇所で、「MASTER」が緑になっていることを確認します。



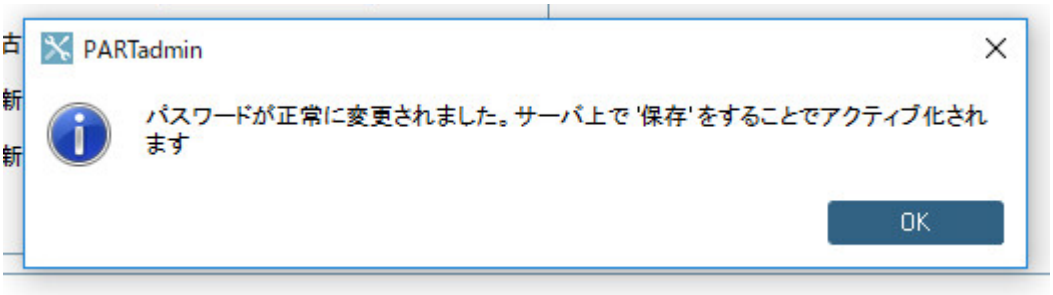
１０．　「セキュリティ」タブを選択します。

パスワードは強制的に設定する必要があります。このためには、サーバのパスワードを有効にするオプションを有効にしてください。(パスワードの割り当ては、ホストを検索する前に行うこともできます)

パスワードを入力し「パスワードを変更」ボタンを押下します。

NOTE :
ライセンスを管理している人は、必ずしもライセンスサーバーへの管理者アクセスが必要ではありません。最初に割り当てられた後は、パスワードを知っていれば十分です。

以下のダイアログが表示されます。



１１．　「接続済みサーバ」リスト内の「保存」ボタンをクリックします。

このときパスワードを入力します。

ライセンスファイルが自動的に適切な場所へ保存されます。「タイプ」と「ロール」が変わり、マスターの場合は「MASTER/MASTER」（バックアップの場合は「BACKUP/BACKUP」）となります。

本操作により、マスターがマスターとして（バックアップがバックアップとして）役割が与えられ、システム上に認識されたことになります。

バックグラウンド情報：

CADENAS FLM サーバのインストールパス（例：C:¥cadenas_flm）の中に start.env というファイルがあります。

注意してください!

FLM サーバの環境変数は PARTsolutions のインストールと同じ名前を持っていますが、それらは異なるディレクトリを指しています!

```
[ENVIRONS]
CADENAS=%DirOfThisFile%
CADENAS_SETUP=%ALLUSERSPROFILE%/cadenas_flm/partsolutions/setup
CADENAS_DEFAULTUSER=$CADENAS_SETUP/user/default_user
CADENAS_USER=%APPDATA%/cadenas_flm
```

FLM サーバ用のライセンスファイルは以下のディレクトリに保存されます。

```
C:¥ProgramData¥cadenas_flm¥partsolutions¥setup¥lic¥keys
```

自身でライセンスをコピーしたい場合は、正しいパスに注意してください。

対照的に、ノードロックライセンスの保存場所は、PARTsolutions インストールの %cadenas_setup% の下にあります。

以上でライセンスサーバーへのライセンス認証は終了となります。

4. PARTapplicationServer のインストール

NOTE:
通常のシングルワークステーションインストールでは不要です。コンサルティング案件の特別なインストールの際に必要となる場合があるので記載しています。

4.1. 基礎情報

- 64bit システムを推奨します。
- PARTapplicationServer との接続にはポート 9020 および 9021 を使用します（https を使用した通信のための証は別途必要です。詳細は「4.3 マルチサイトインストール概要」を参照してください。
- %temp%は十分な容量を確保する必要があります。テキスト検索インデックス生成中そのインデックスがバッファされます。そのサイズはインストールされているカタログのサイズやロールの数に依存します。 最低 100GB-200GB を推奨します。
- PARTapplicationServer（PAPPSERVER）はサービスとして開始されます。そのサービスは CADENAS ディレクトリにアクセス可能である必要があります。詳細は「4.2 サービスとして PAPPSERVER をインストール」を参照してください。

4.2. サービスとして PAPPSERVER をインストール

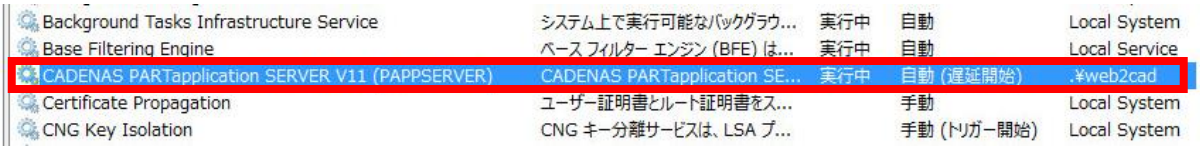
ここでコマンドプロンプトを使用してインストールする方法を紹介します。

1．コマンドプロンプトを管理者として実行します。

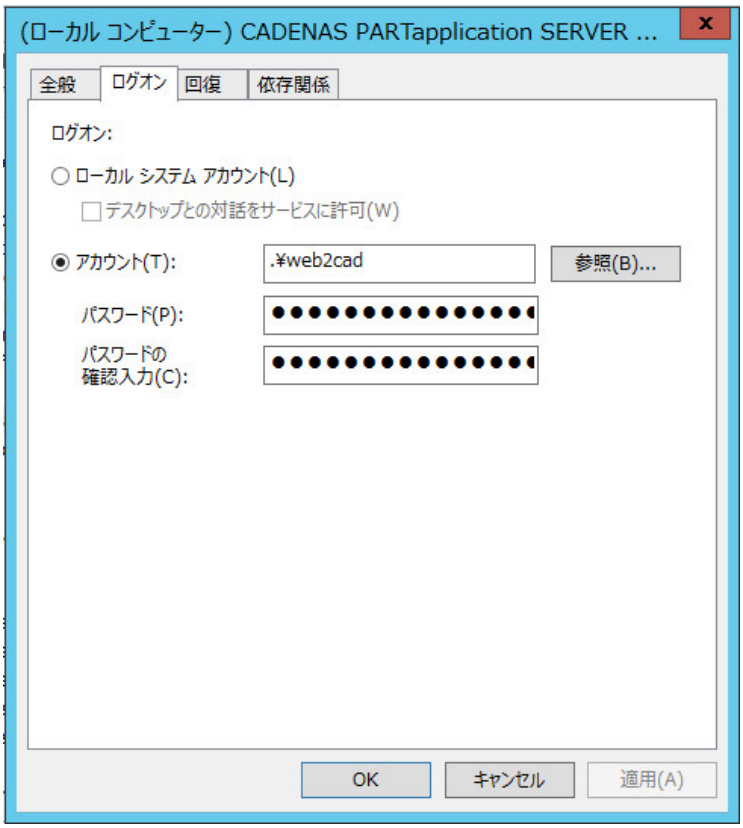
2．以下のコマンドを実行します。

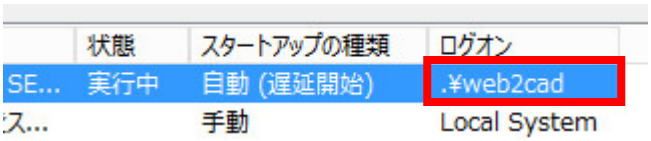
```
%CADENAS%¥bin¥x86¥64¥pappserver.exe -i
```

3．実行後、以下のように Windows のサービス一覧に追加されます。



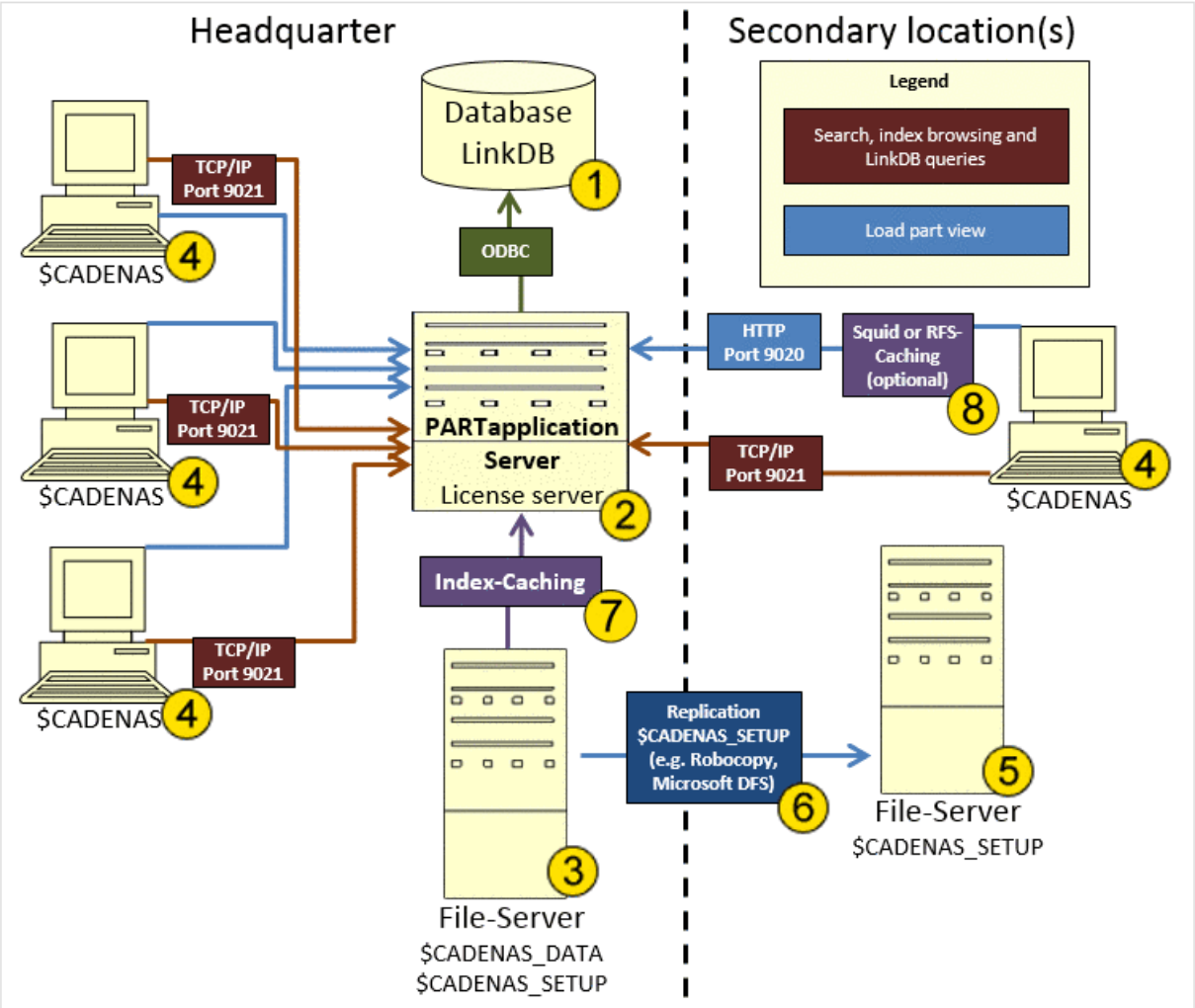
4．「ログオン」をシステムではなく CADENAS ディレクトリにフルコントロール権限のあるアカウントに変更します。





4.3. マルチサイトインストール概要

マルチサイト環境の概要です。



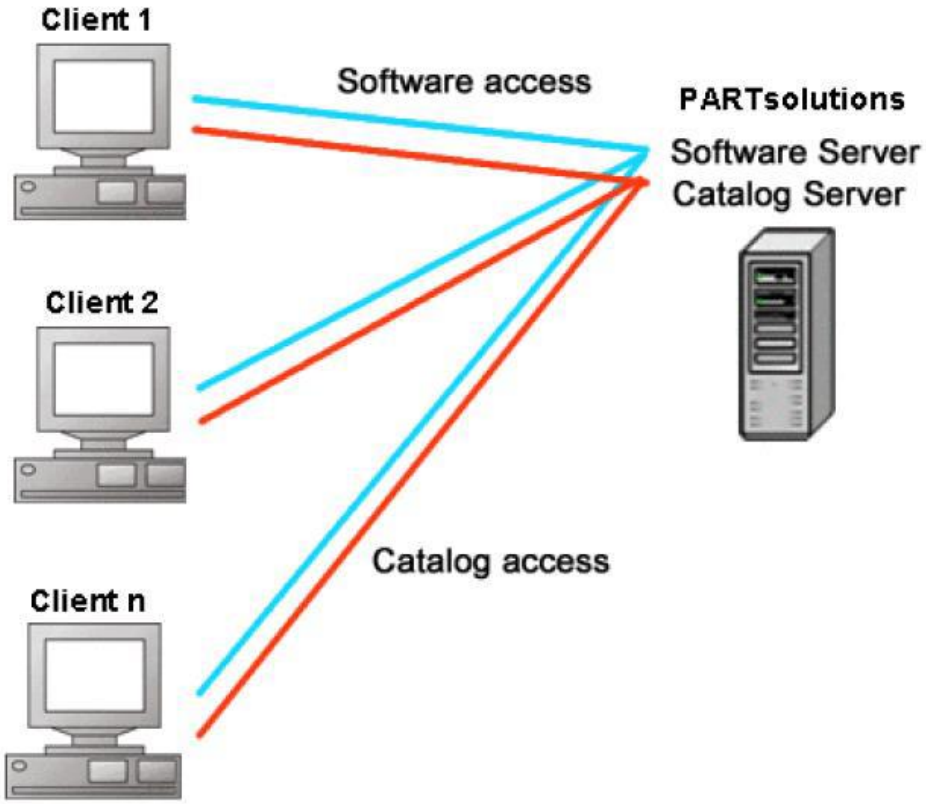
1	LinkDB PARTsolutions Link データベース（LINKDB）は通常既存のシステムで動作しているデータベースに追加する形でセットされます。 r
2	PARTapplicationServer PARTapplicationServer は専用サーバーか仮想マシンを推奨します。CADENAS ソフトウェアは管理者権限を伴いインストールされます。サーバー上の他の既存ソフトウェアに何らかの影響を与えるリストを避けるためです。 さらにパフォーマンスも重要です：大規模なクエリが頻発するとサーバーがブロックされる可能性もなります。 通常すべてのロケーション用に一つの PARTapplicationServer で十分です。すべてのクライアントは、中央の$CADENAS_DATA ファイルサーバーから検索ヒットの詳細データを取得します。 同一サーバーに、CADENAS ライセンスサーバーをインストールすることは可能です。 詳細は「3FLM サーバのインストール」を参照してください。

③	File-Server Head Quarter PARTsolutions カタログ（$CADENAs_DATA） Setup ディレクトリ（$CADENAS_SETUP） これらのためも共有フォルダは既存のもので十分です。ファイルサーバーに追加するソフトウェアはありません。 ただし、カタログの管理には管理者権限が必要です。一般利用者は読み取り権限が必要です。
④	$CADENAS（各クライアント用、PARTsolutions software とインターフェース） Software のデプロイ。 複雑な構成のインストレーション環境ではこれまでのクライアント － サーバーインストレーションは推奨しません。ある管理用クライアントにセットアップしそれらを robocopy のようなデプロイツールを使って配信します。
⑤	File-Server Secondary Location Setup ディレクトリ（$CADENAS_SETUP）
⑥	$CADENAs_SETUP のレプリケーション $CADENAS_SETUP はヘッドクオーターからセカンダリロケーションへ容易にコピーできます（robocopy などを使って）
⑦	Index ファイルのキャッシュ PARTapplicationServer を効率的に動作させるために、CADENAS_DATA の index ファイルをキャッシュすることを推奨します。
⑧	RFS or SQUID Caching（必要に応じて）

5. クライアント-サーバーインストレーション

インストール・ルーチンは、インストールの過程を丁寧に案内してくれます。

ただし、以下の情報は必ずご確認ください。



クライアント-サーバーインストレーションは、PARTsolutions ソフトウェアとカタログをネットワーク上のサーバコンピュータ（ファイルサーバ）に配置する形のインストレーションです。

各クライアントはその時、サーバ上の PARTsolutions ソフトウェア群の中から適切な PARTsolutions プログラムが利用可能となるだけになります。

このインストレーションは次の 2 ステップから成り立ちます。

サーバーインストレーション

PARTsolutuons ソフトウェアパッケージとカタログのインストレーション

クライアントインストレーション

各クライアントが利用する PARTsolutions パッケージのインストレーション

5.1. サーバーインストレーション

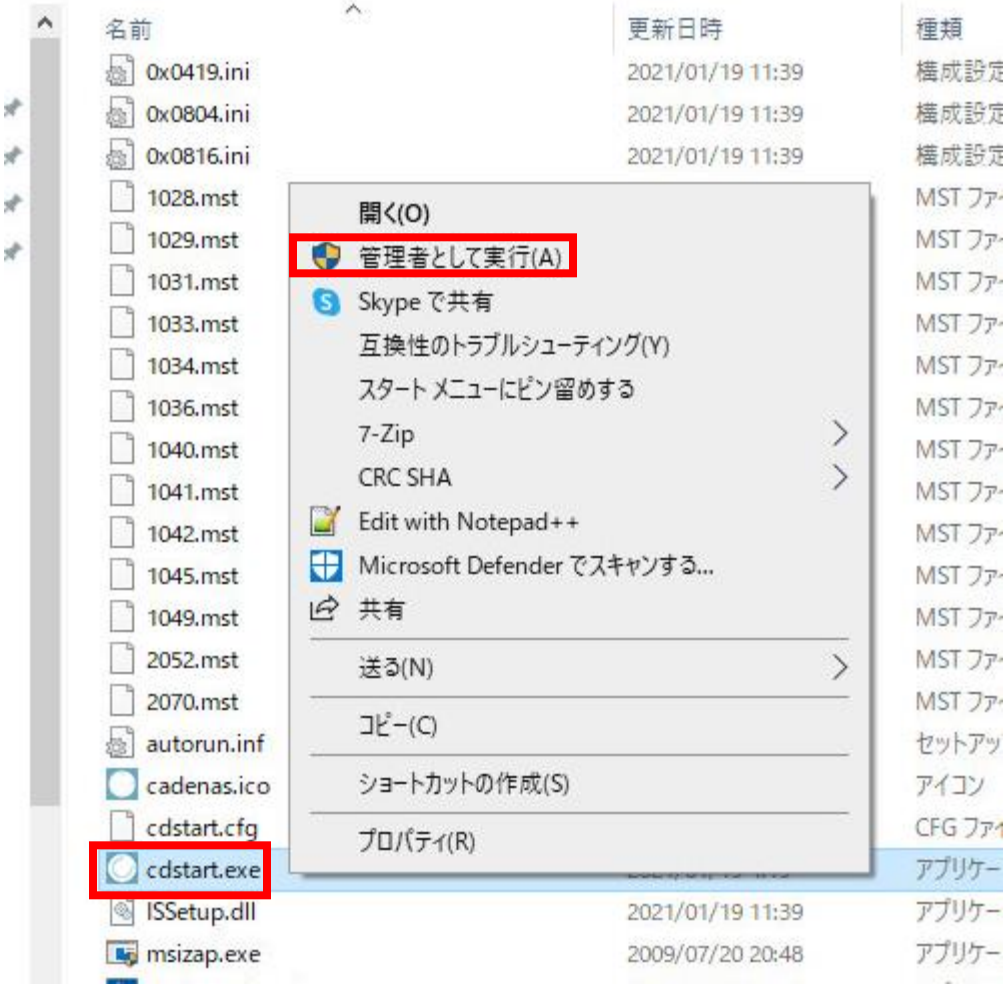
NOTE :
サーバーとなるマシンでのみ実行します。
最初に旧バージョンをアンインストールします。「1.5V9、V10 または V11 の旧 SP のアンインストール

を実行」を参照してください。

サーバーのインストールを開始するには、以下のオプションがあります。

操作 A

1．インストーラー内の「cdstart.exe」を実行します。



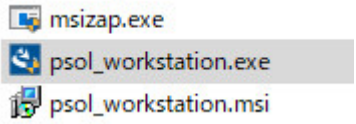
2．スタート画面で希望の言語を選択し、「インストール（サーバ）」をクリックします。

セットアップは次の手順で進みます。

- 5.1.2 設定用のオープニングダイアログ
- 5.1.3 ライセンス契約
- 5.1.6 リリースディレクトリの選択 / 新規共有の設定
- etc

操作 B

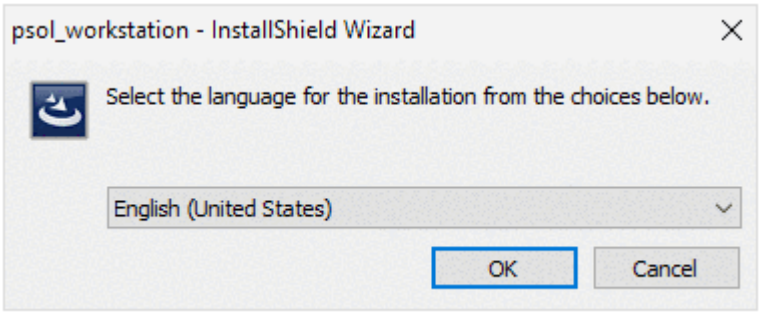
インストーラー内の「psol_workstation.exe」を実行します。



セットアップは次の手順で進みます。

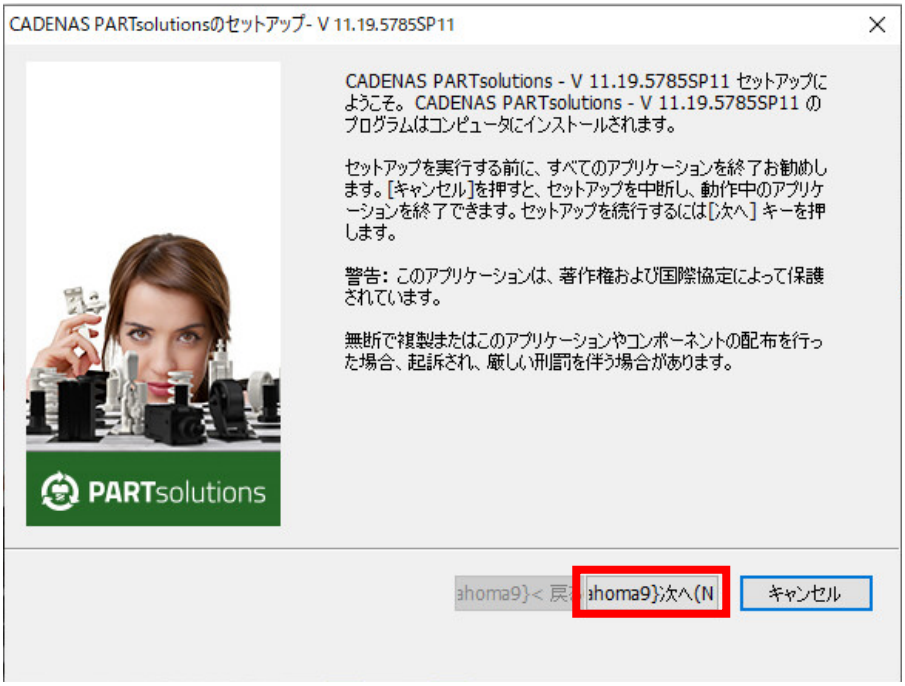
- 5.1.1 言語選択
- 5.1.2 設定用のオープニングダイアログ
- 5.1.3 ライセンス契約
- 5.1.4 マルチ・ワークステーション・インストールの選択
- 5.1.5 サーバーインストレーション
- 5.1.6 リリースディレクトリの選択 / 新規共有の設定
- etc

5.1.1. 言語選択



リストフィールドから希望の言語を選択し、OK で確定します。

5.1.2. 設定用のオープニングダイアログ



CADENAS PARTsolutions のセットアップへようこそ。

NOTE :
この重要な情報をお読みください。

セットアップを開始する前に、すべての Windows プログラムを終了することを強くお勧めします。

セットアップを終了するには「キャンセル」をクリックし、開いているプログラムをすべて閉じます。その後、セットアップの順序で「次へ」を選択して続行してください。

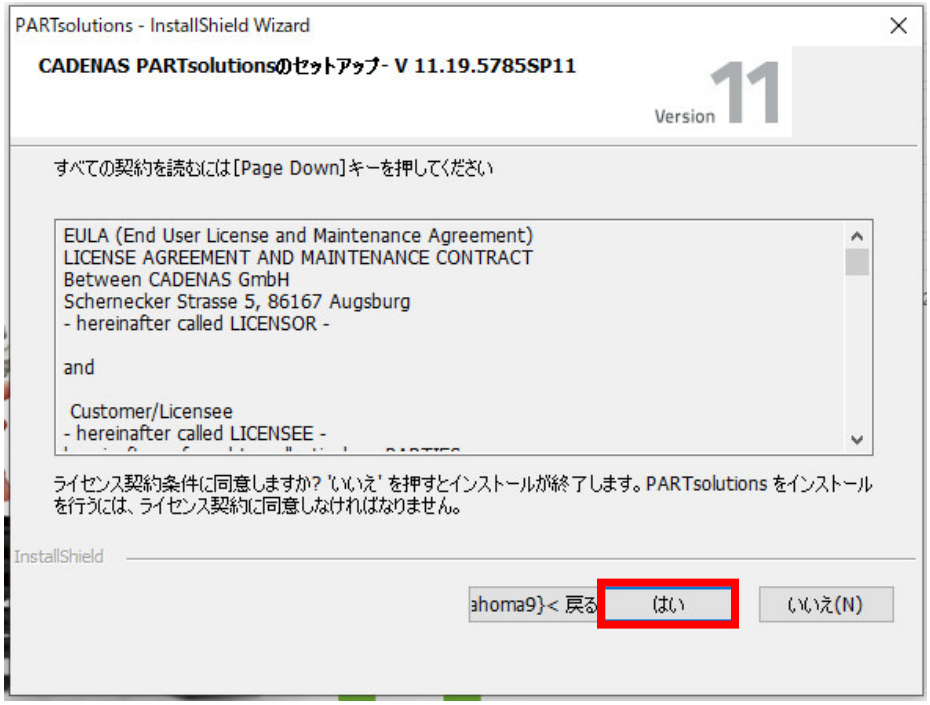
警告：このアプリケーションは、著作権および国際協定によって保護されています。

このアプリケーションまたはその構成要素を違法に複製したり、承認されていない形で配布したりする

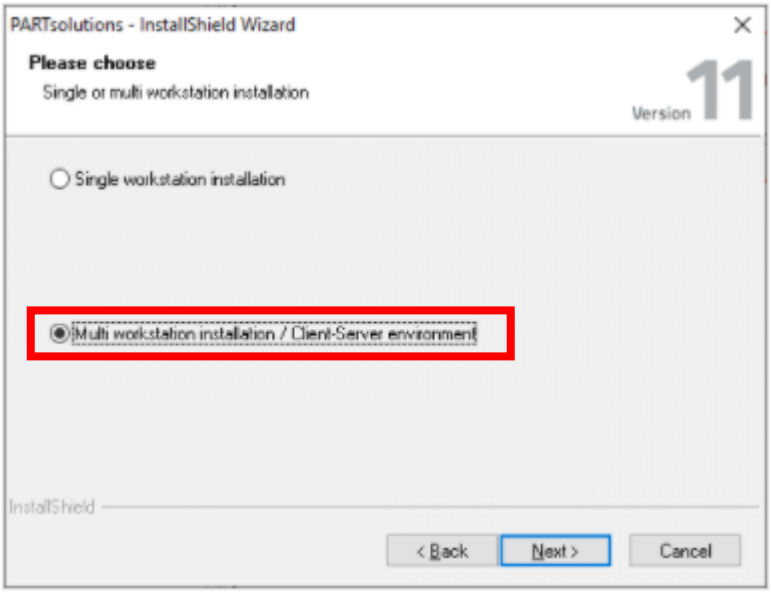
と、裁判沙汰になり、多額の罰金が科せられることがあります。

5.1.3. ライセンス契約

「はい」をクリックし次へ。



5.1.4. マルチ・ワークステーション・インストールの選択

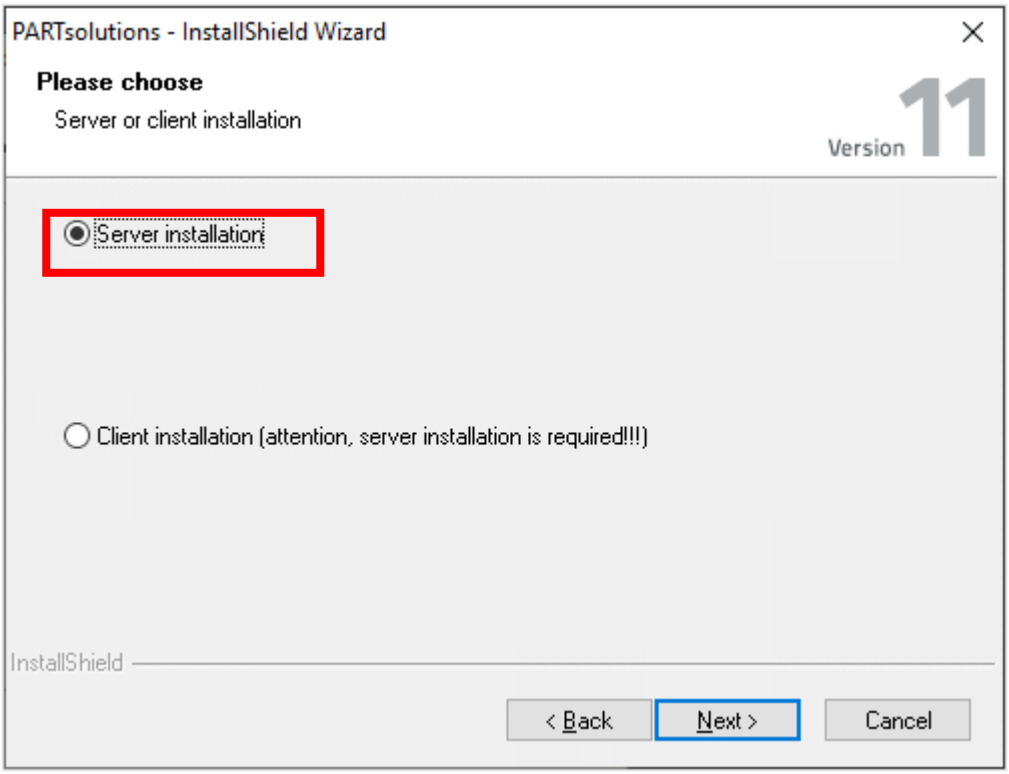


NOTE :
「**エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。**」の操作でインストーラーを開始した場合このウィンドウは表示されません。

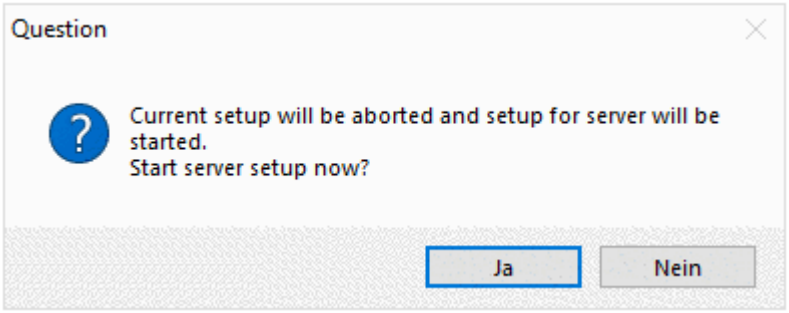
5.1.5. サーバーインストレーション

まず、サーバー側のインストールを完了させる必要があります。

サーバーインストールオプションをクリックします。

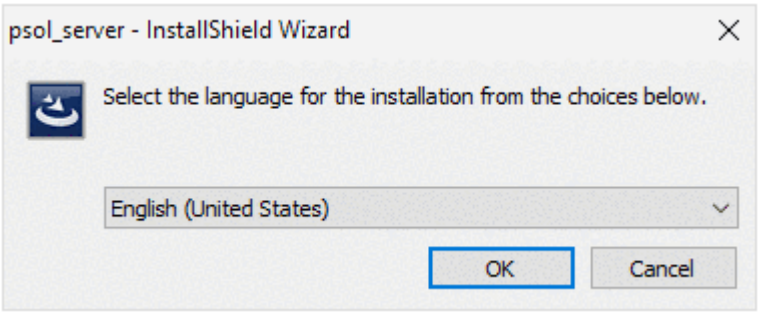


Next で確認すると、次のような質問が表示されます。

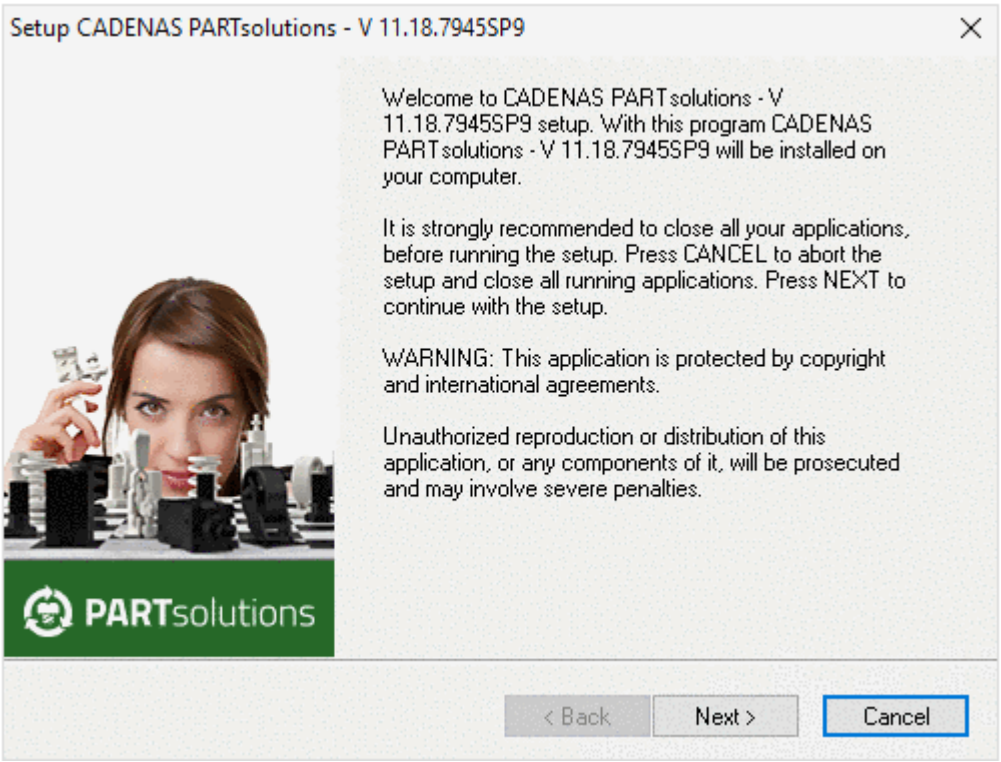


「Yes」をクリックします。

言語選択が開きます。



「OK」で確定すると、「Welcome」ダイアログが表示されます。

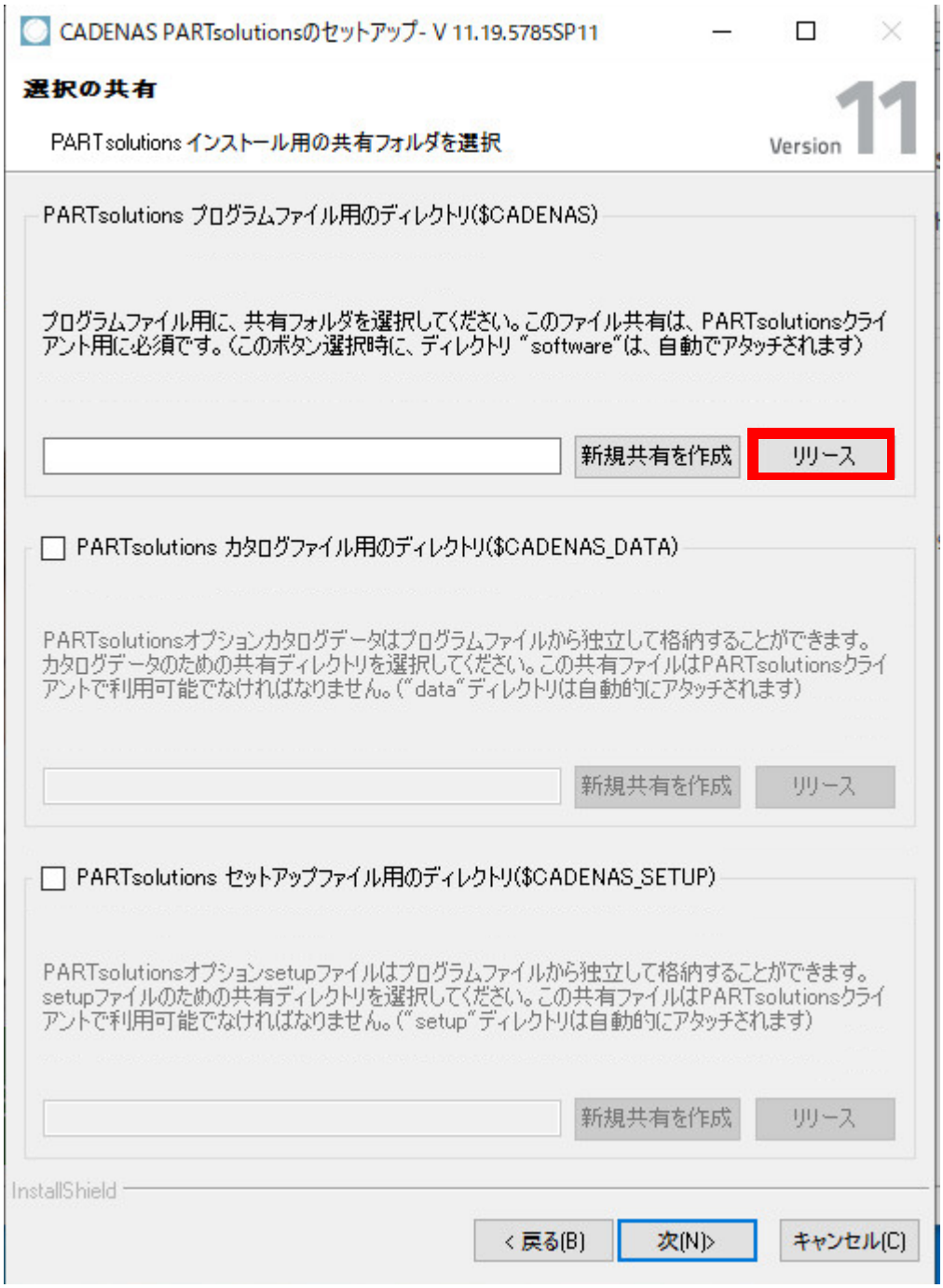


5.1.6. リリースディレクトリの選択 / 新規共有の設定

既存の共有ディレクトリを使用するか、新しい共有ディレクトリを作成・使用するまたは完全に新規にセットアップすることができます。

既存のディレクトリを使用する

「リリース」をクリックし、サーバーのディレクトリを決定します。

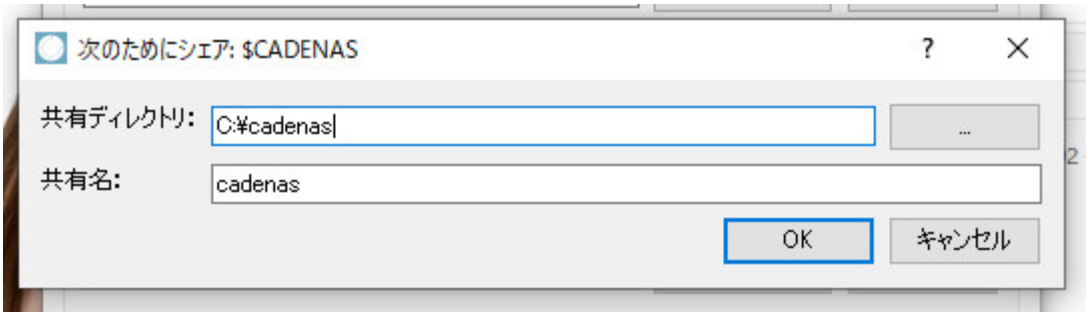


新しいディレクトリを使用するまたは完全に新規にセットアップする

「新規共有を作成」をクリック

> NOTE :
> 共有の設定はインストールプログラムでのみ行い、ファイルシステムには手動で設定しないでください。

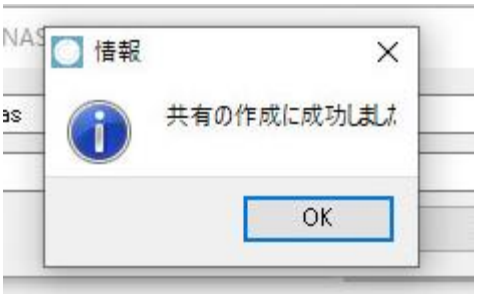
共有ディレクトリを定義するダイアログが表示されます。



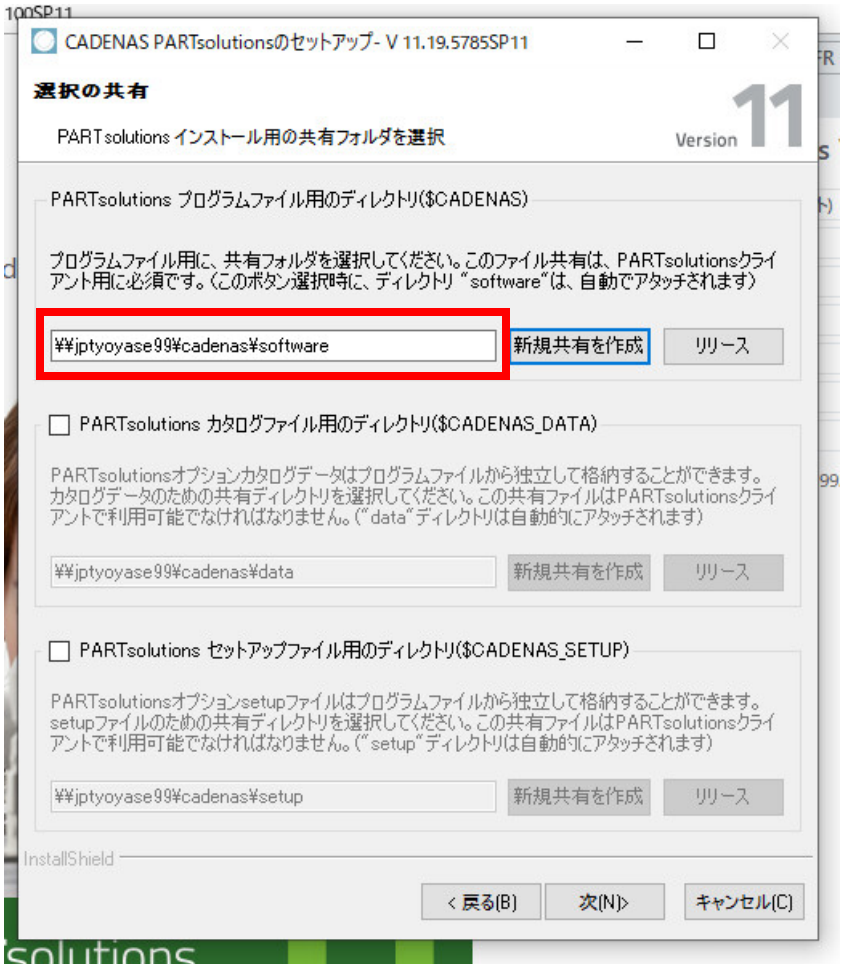
「 ...」ボタンをクリックして、共有ディレクトリを定義し、「共有名」に希望の名前を入力します。

> NOTE :
> 共有は、インストール先のコンピューター上でのみ作成することができます。そうしないと、下のようなエラーメッセージが表示されます。
>
> 「シェアを作成できませんでした。」

共有の作成に成功すると、確認のメッセージが表示されます。



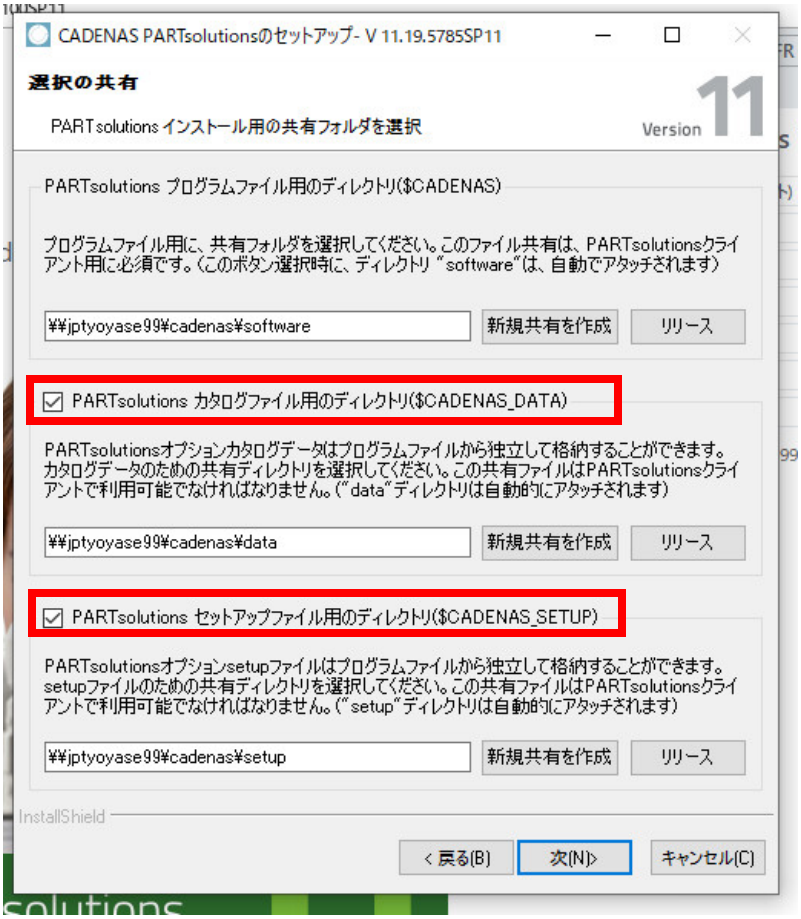
これで共有フォルダパスが入力されました。



PARTsolutions のプログラムデータ、カタログデータ、セットアップディレクトリすべてを同じ共有を使用する場合は、これで終了です。

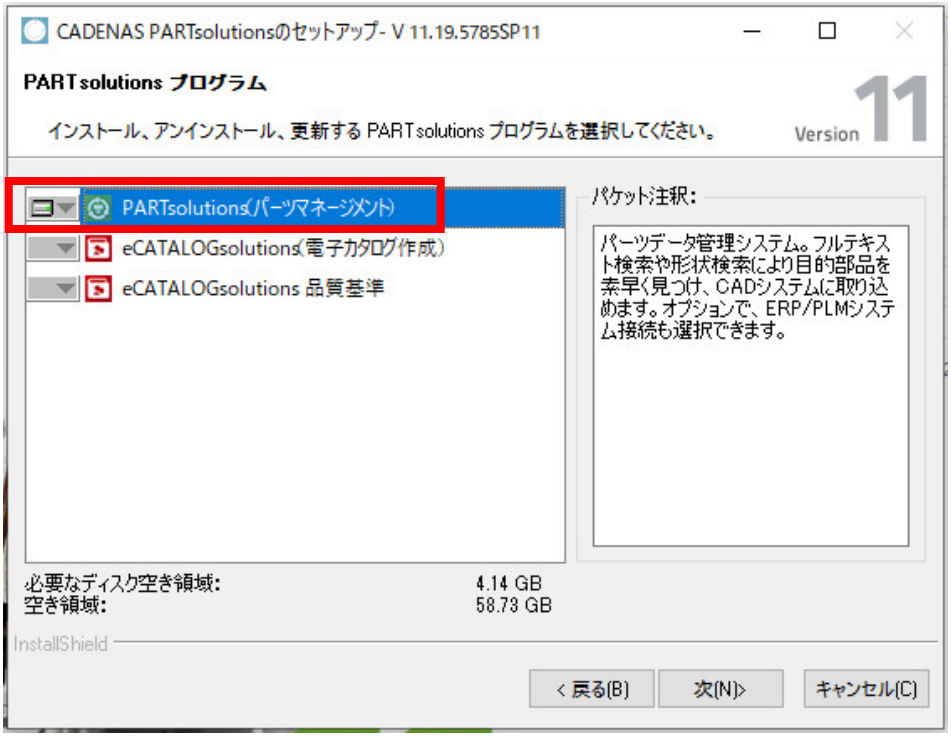
それ以外の場合は、それぞれのチェックボックスを有効にすることで、$CADENAS_DATA と$CADENAS_SETUP に独自の共有を設定することができます。

NOTE :
$CADENAS_DATA を以前からのフォルダを使用する場合はここで設定してください。
$CADENAS_SETUP は通常変える必要ありません。

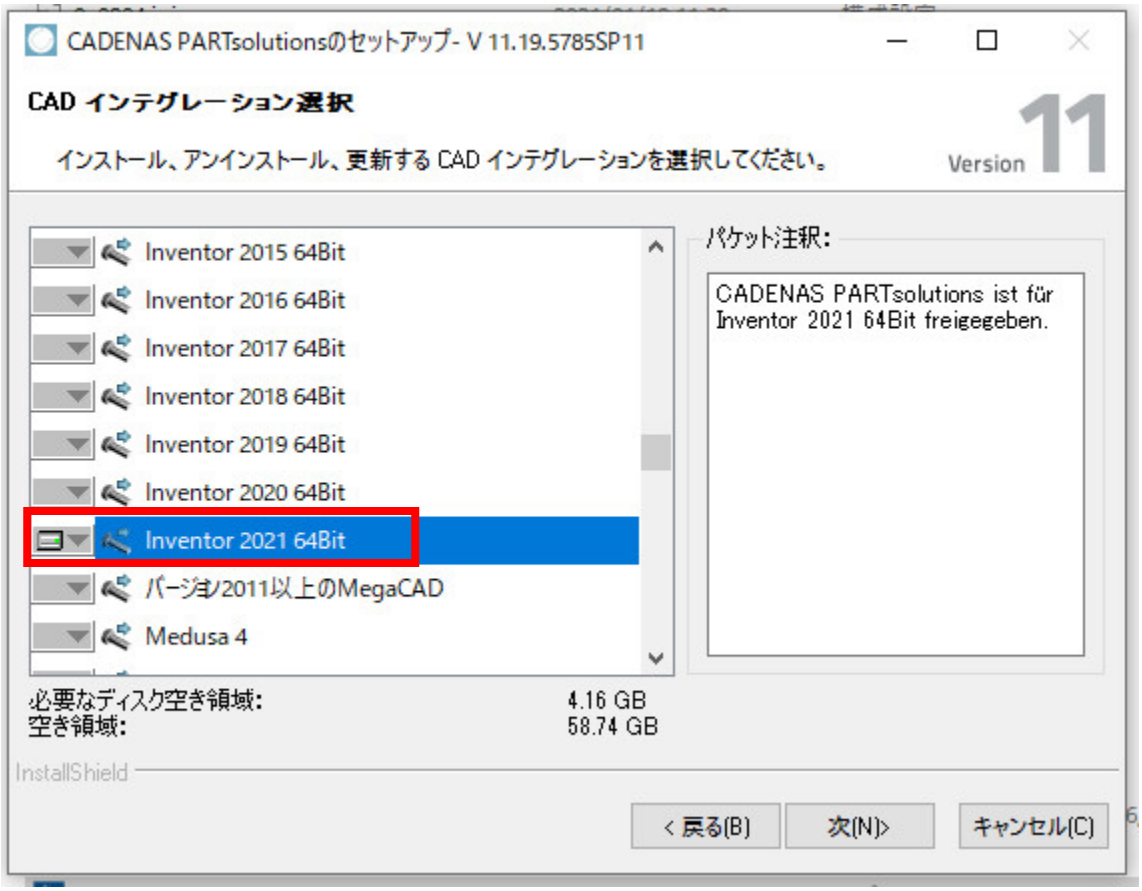


5.1.7. プログラムパッケージ選択

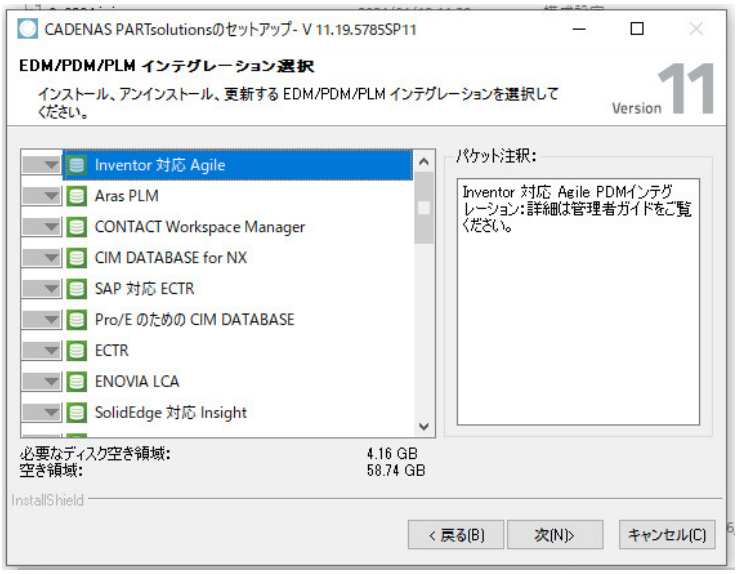
パッケージを選択、図の通り選択して「次へ」をクリック

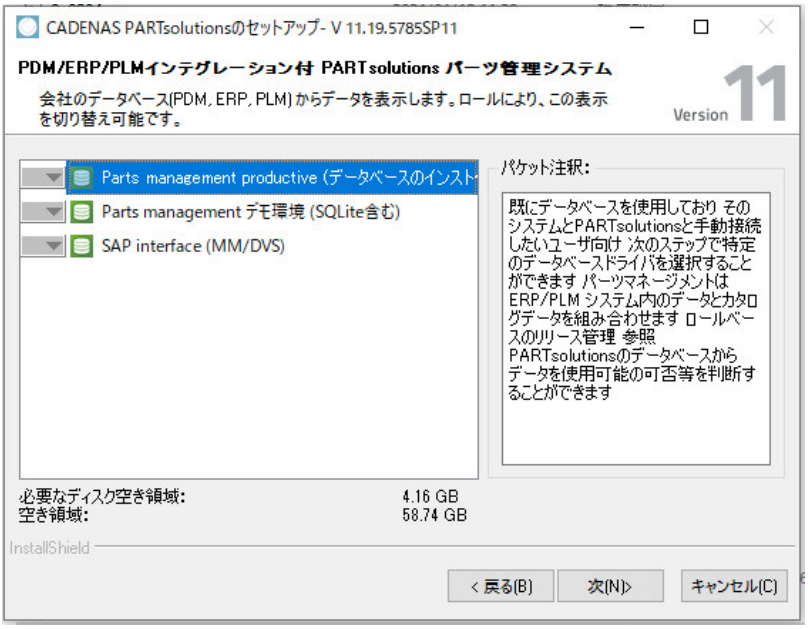


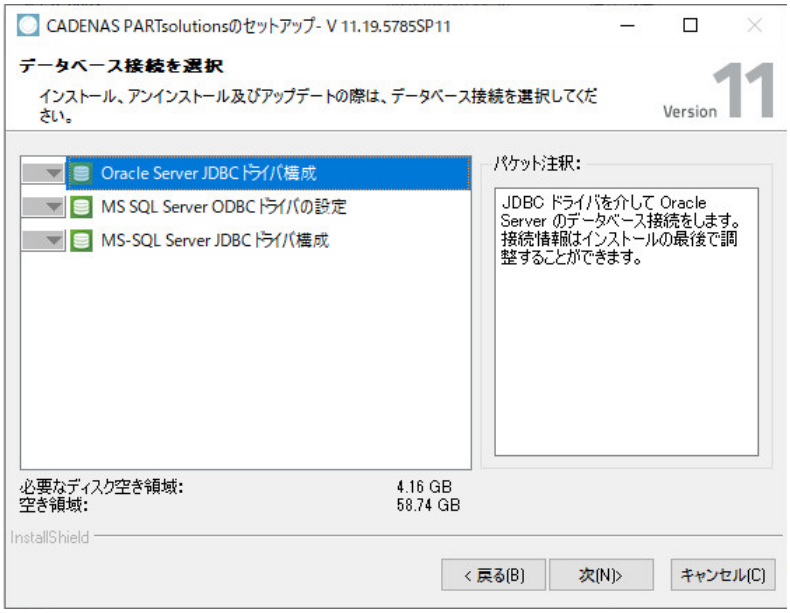
CAD インターフェース。自身で使用する CAD を選択します。



以下の 3 か所は何もチェックを付けずに順次「次」をクリックします。

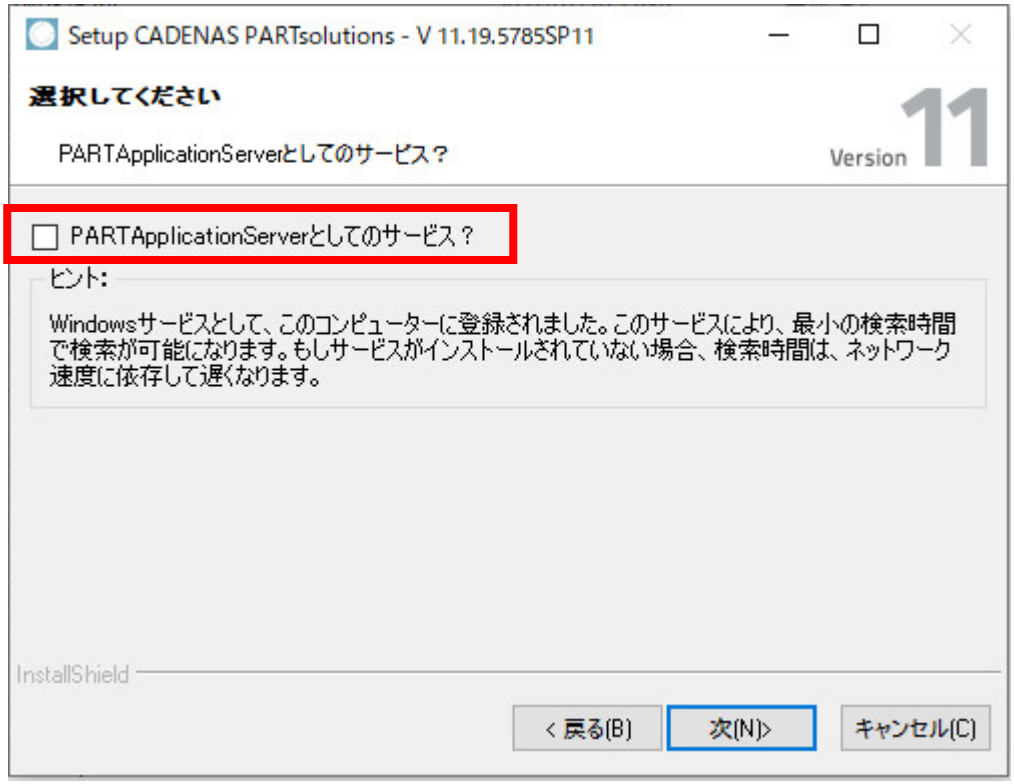






5.1.8. PARTapplicationServer のサービスとしての設定

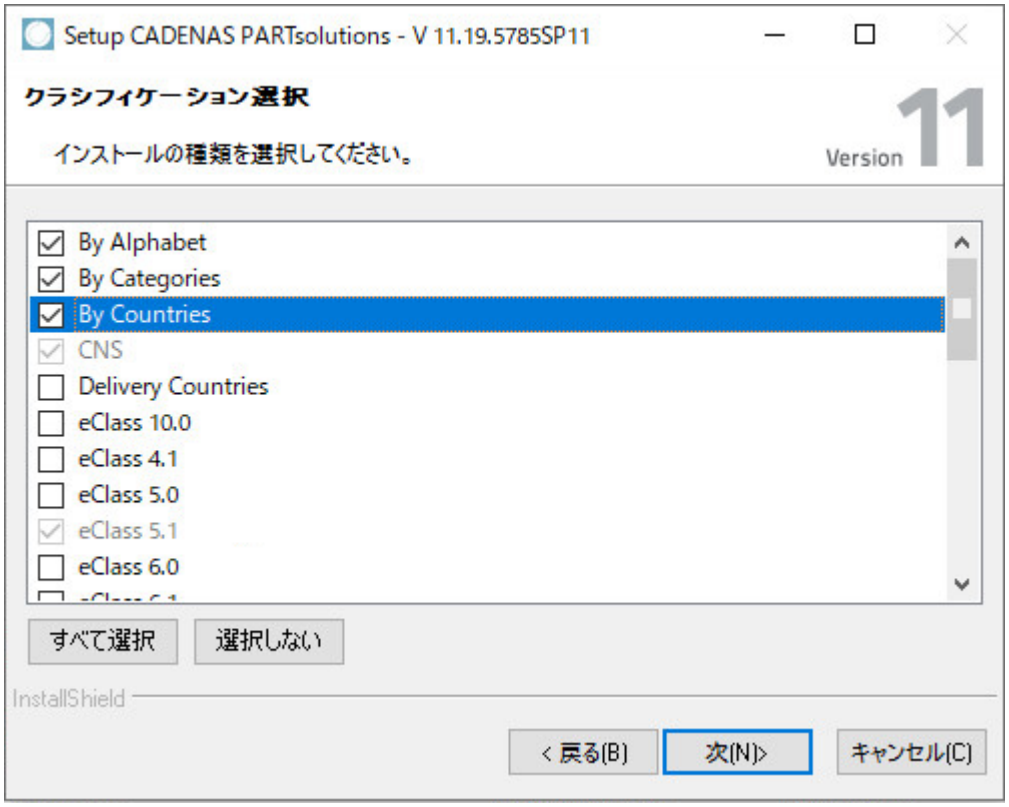
ここもチェックを外して「次」をクリックします。



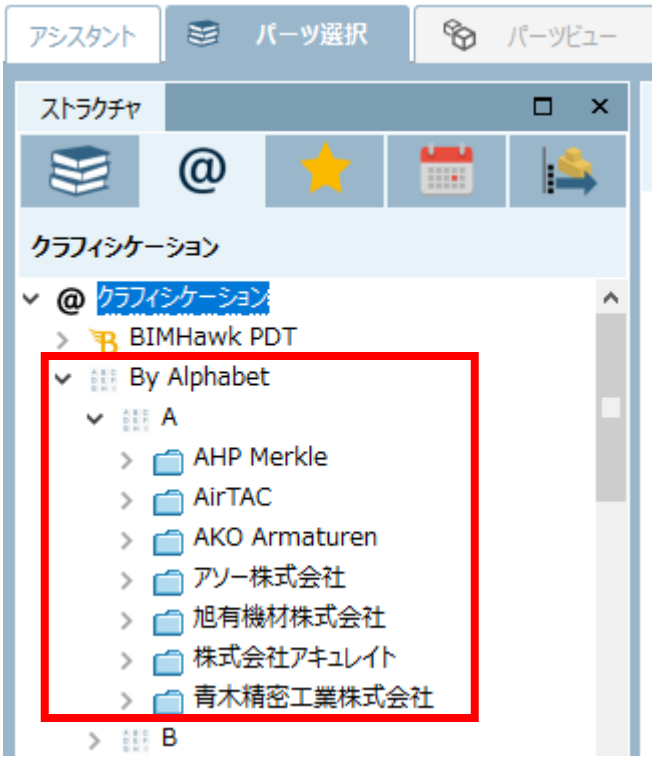
5.1.9. クラシフィケーションの選択

eClass 等を使用しないのであれば原則不要なので「選択しない」をクリックし、選択を外します。

必要に応じて上の 3 種類は選択しても問題ありません。



例えば「By Alphabet」をインストールすると、以下のように「クラシフィケーション」タブからカタログをアルファベット順に整理された状態で参照できます。

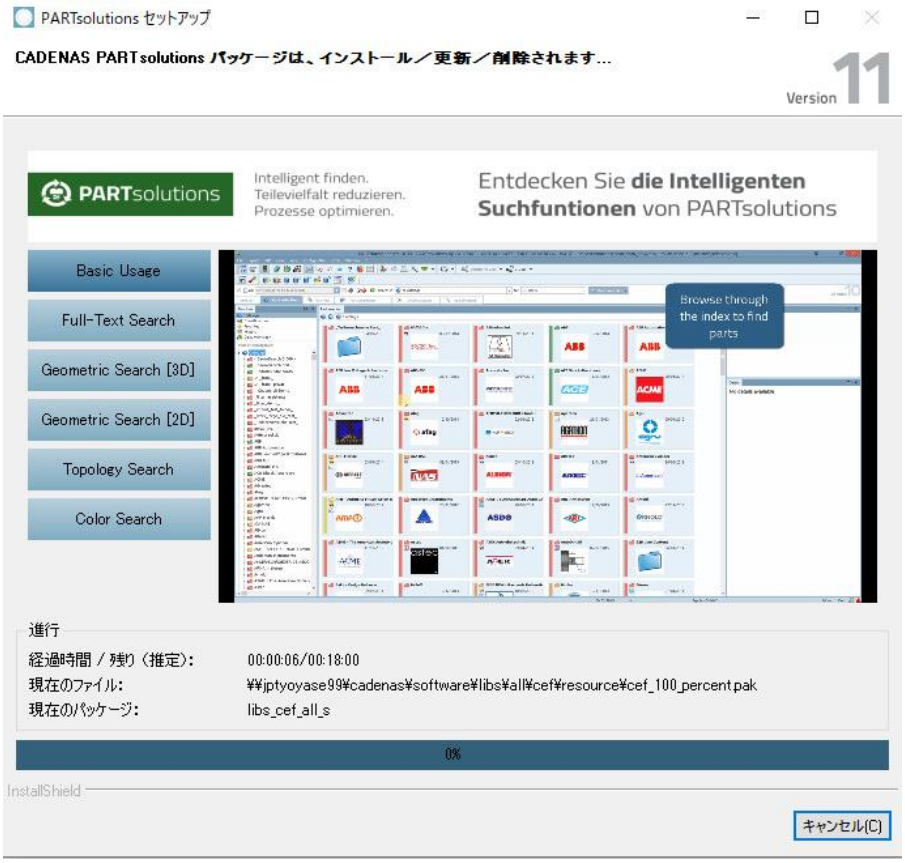


5.1.10. ファイルのコピー開始（実際のインストール作業）

最後にファイルのコピーを開始します。

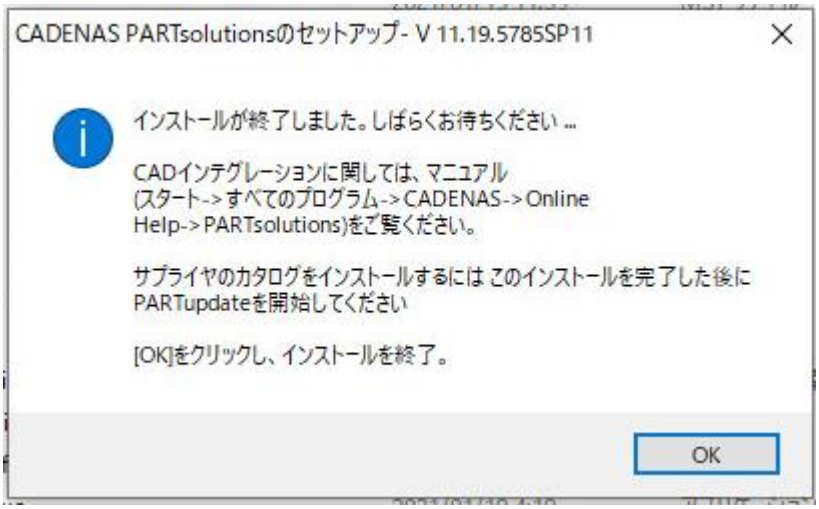
「現在の設定」では、ソフトウェアやカタログデータのインストールパスを確認することができます。

問題なければ「次へ」をクリックします。直後に開始されます。

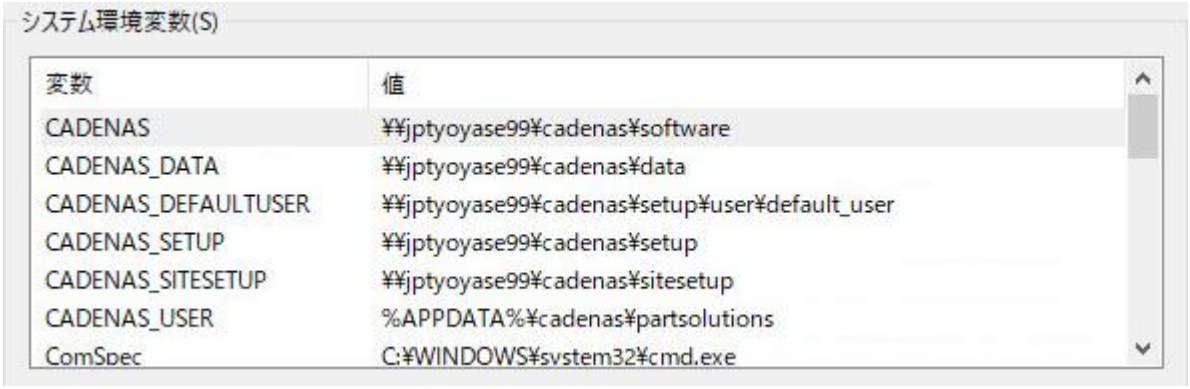


5.1.11. インストール終了時

終了すると以下のメッセージが表示されます。



このとき「CADENAS～」といういくつかの CADENAS 環境変数（「2.3.7 環境変数、レジストリエントリについて」参照）が登録されます。



「OK」をクリックします。

「$CADENAS_SITESETUP」は「$CADENAS_SETUP」と同じ階層に設定されます。「1.3CADENAS_SITESETUP のバックアップ（V10、V11 のみ）」でバックアップしたファイルをここにコピーするか、「$CADENAS_SITESETUP」の値を正しいパスに変更してください。

「$CADENAS_DATA」も、「5.1.6 リリースディレクトリの選択 / 新規共有の設定」のステップで設定し忘れた場合、ここで設定しなおしてください。

なおここで共有する「$CADENAS_SITESETUP」「$CADENAS_DATA」等の CADENAS 環境変数を変更した場合、終了後「.../software/install/instvalues.ini」を編集し、変更した CADENAS 環境変数に値を合わせてください。

合わせないと「5.2 クライアントインストレーション」でクライアントが正しいパスを参照できなくエラーになります。

```
[INSTPATHS_WIN]
BACKUP=\\jptyoyase99\cadenas\software\backup
CADENAS=\\jptyoyase99\cadenas\software
CADENAS_DATA=\\jptyoyase99\cadenas\data
CADENAS_DEFAULTUSER=\\jptyoyase99\cadenas\setup\user\default_user
CADENAS_SETUP=\\jptyoyase99\cadenas\setup2
CADENAS_SITESETUP=\\jptyoyase99\cadenas\sitesetup
CADENAS_USER=%APPDATA%\cadenas\partsolutions
GUID={4FD976E4-8069-45EA-811F-2ACF2E64FBAC}
INSTALL=\\jptyoyase99\cadenas\software\install
INSTALL_FILE_COUNT=\\jptyoyase99\cadenas\software\install\filecount.txt
INSTALL_PACKET=\\jptyoyase99\cadenas\software\install\packages
INSTALL_RIGHTS=\\jptyoyase99\cadenas\software\install\rights.sh
OSNAME=x86
PROGRAMFILES=C:\Program Files (x86)
SOURCE=F:\packages
SYSTEM=C:\WINDOWS\SysWOW64
StartMenu=C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
TEMP=C:\Users\web2cad\AppData\Local\Temp
VERSION=11.19.5785SP11
WINDIR=C:\WINDOWS
_BASIX_NORM_=0
```

5.1.12. 終了

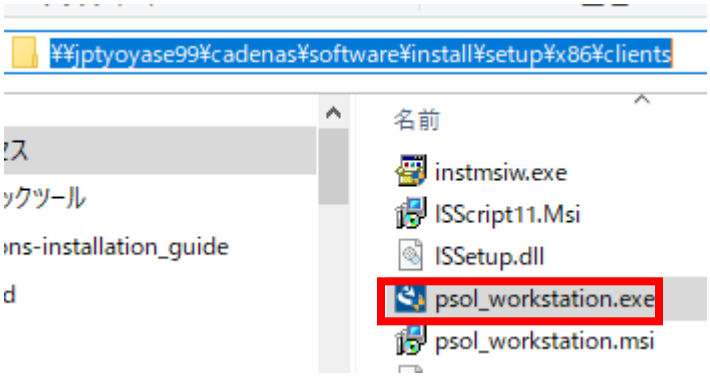
「完了」をクリックすると終了です。再起動オプションが選択されているとこの後 PC は再起動されます。

5.2. クライアントインストレーション

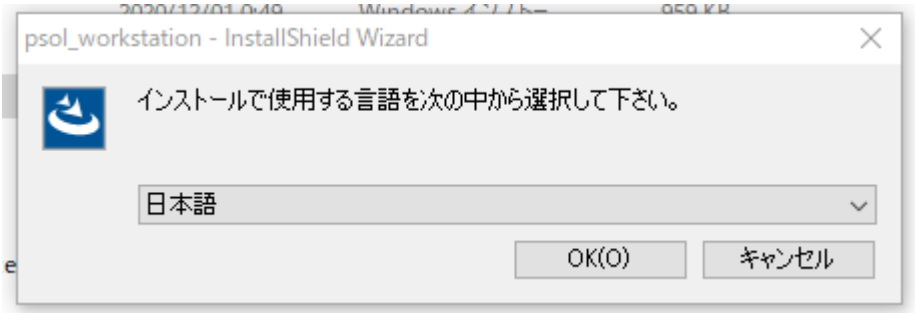
重要：
本章の作業はすべて「5.1 サーバーインストレーション」の作業が完全に終了している必要があります。

5.2.1. psol_workstation.exe の実行

サーバー上の「.../software/install/setup/x86/clients/psol_workstation.exe」を実行します。

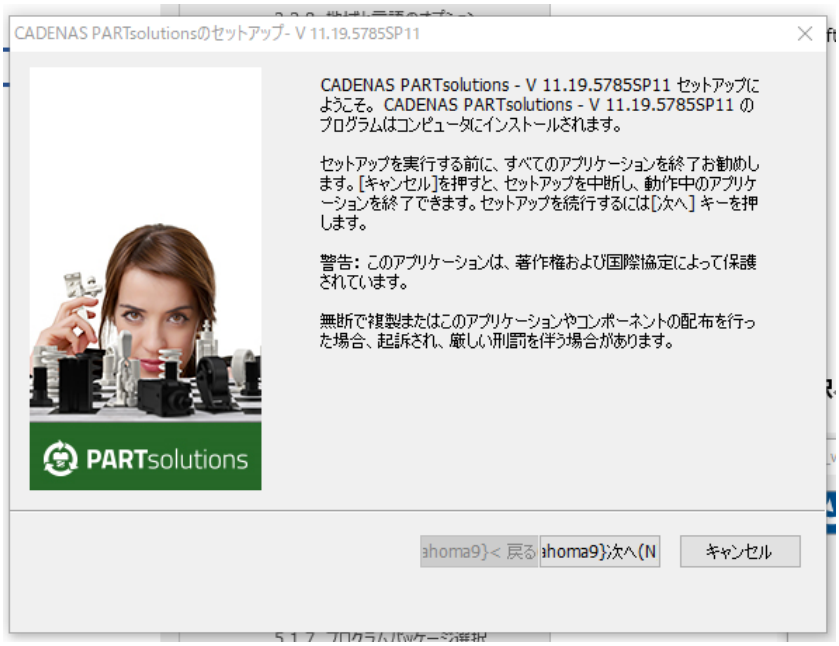


5.2.2. 言語選択

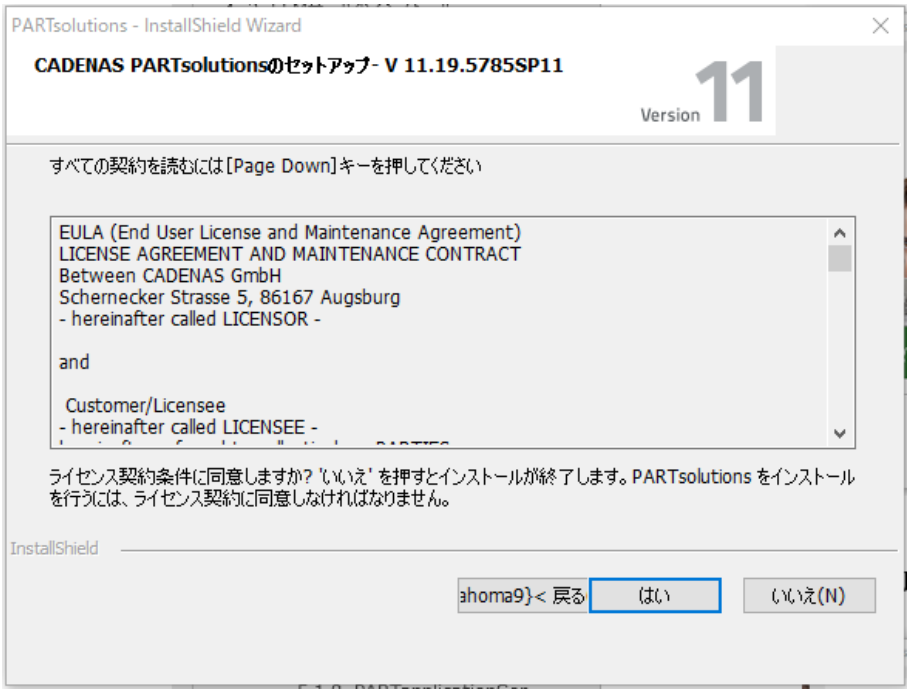


5.2.3. 設定用のウェルカムダイアログ

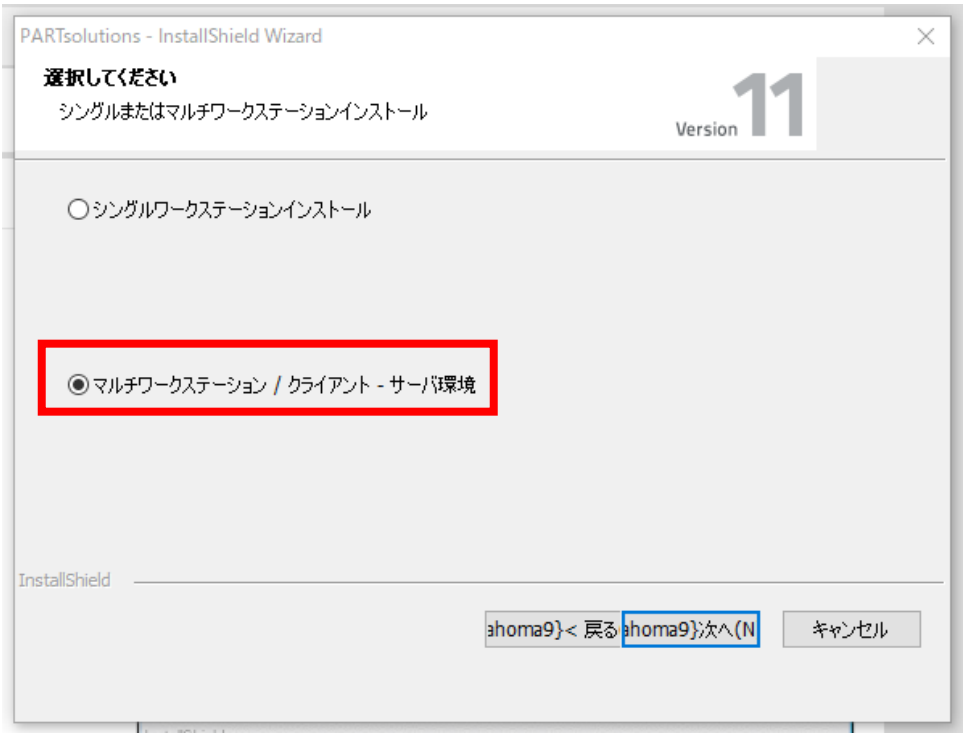
よくお読みください。



5.2.4. ライセンス契約

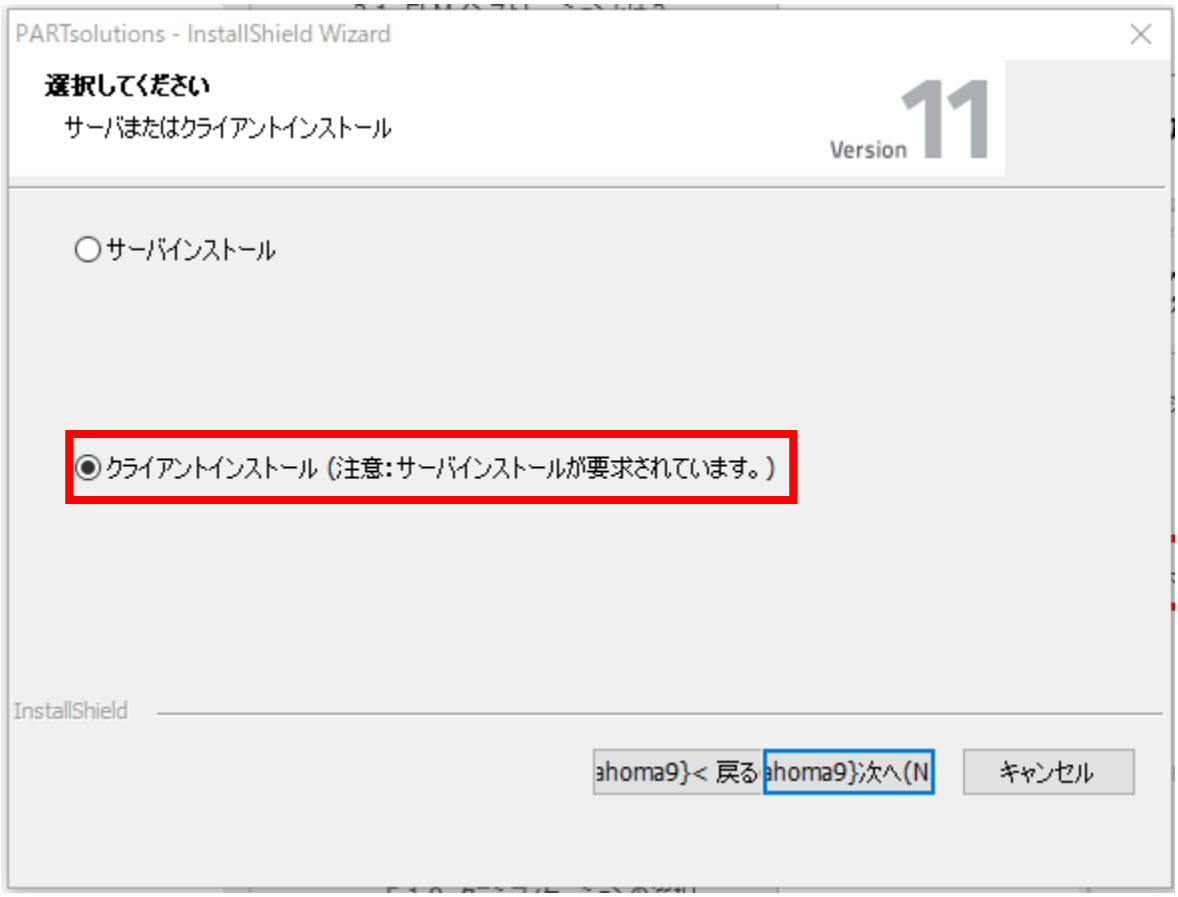


5.2.5. マルチワークステーションインストール



下の「マルチワークステーション/クライアント・サーバ環境」を選択し「次へ」をクリックします。

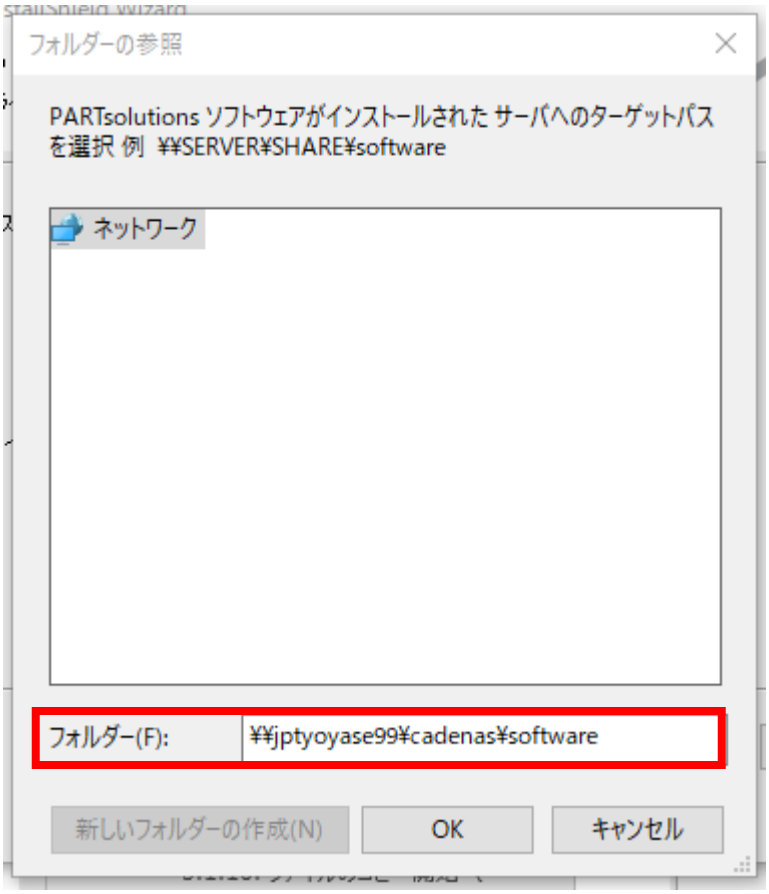
5.2.6. クライアントインストレーション／ソフトウェアパスの設定



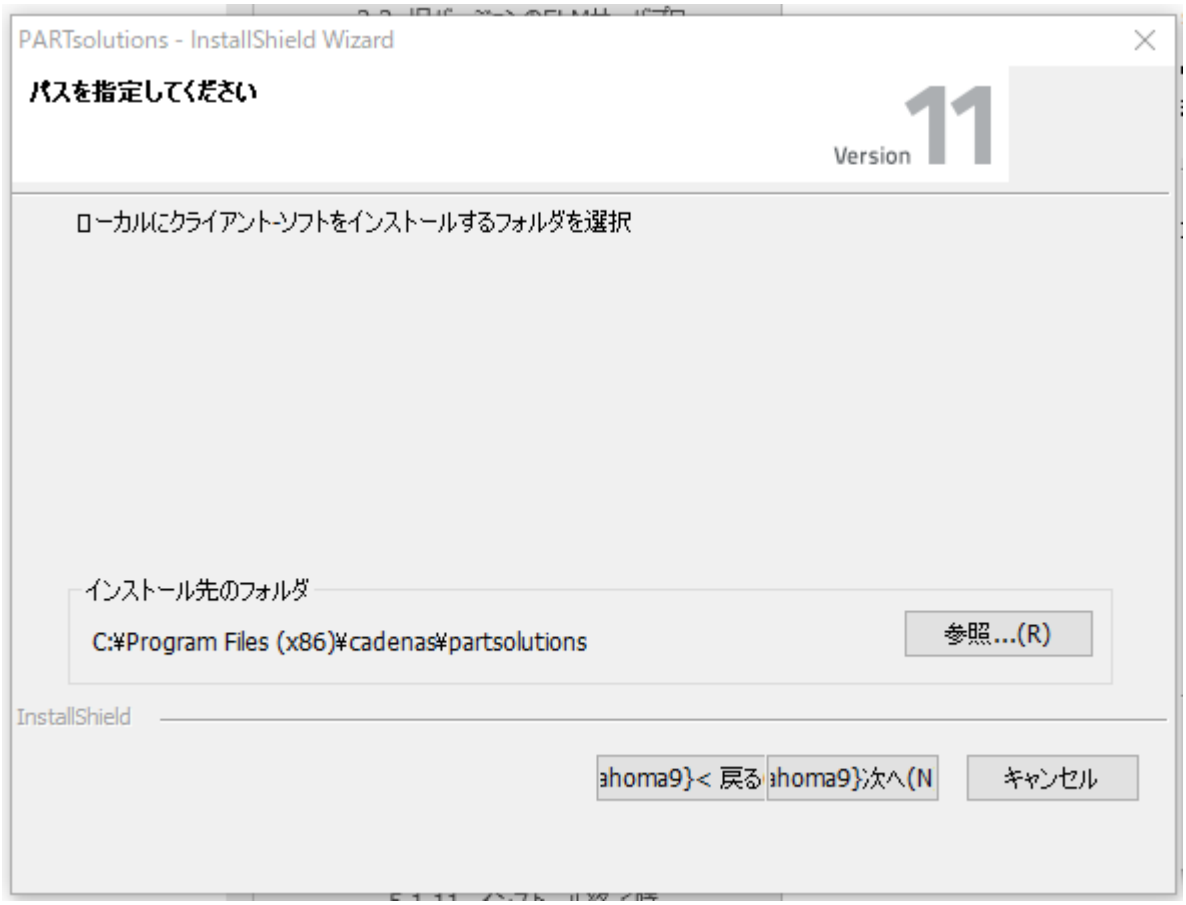
下の「クライアントインスト―ル」を選択します。

「次へ」をクリックすると、以下のフォルダ選択ダイアログが表示されます。

サーバー上のフォルダを選択、表示されない場合は手入力してください。


InstallShield Wizard
フォルダーの参照
PARTsolutions ソフトウェアがインストールされた サーバへのターゲットパスを選択 例 ¥¥SERVER¥SHARE¥software
ネットワーク
フォルダー(F):
¥¥jptyoyase99¥cadenas¥software
新しいフォルダーの作成(N)
OK
キャンセル

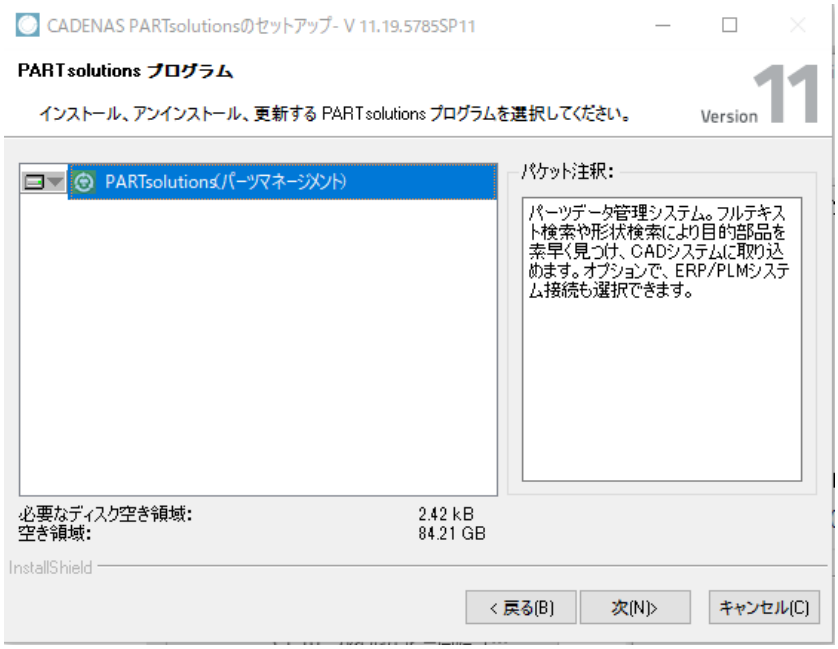
5.2.7. ローカルディレクトリの定義

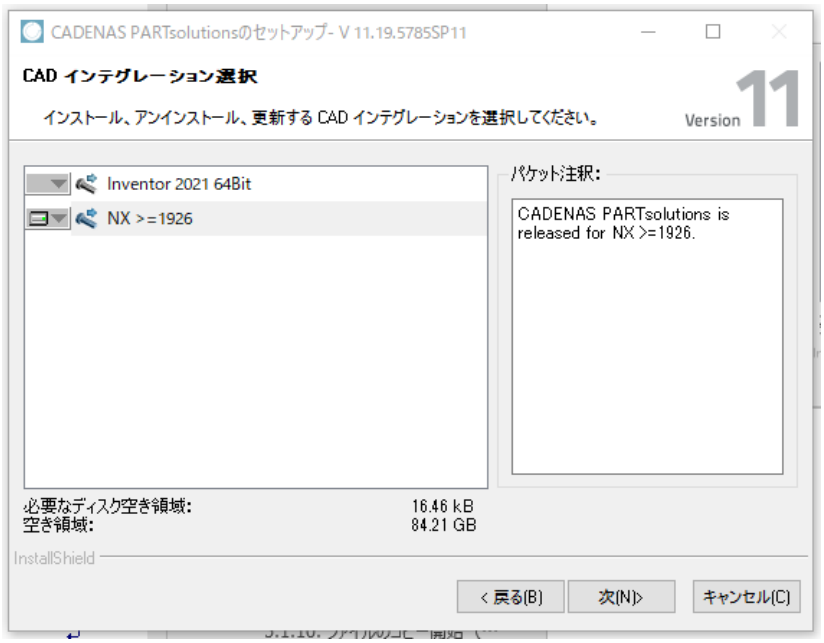


クライアントのインストールに関連するデータ/ファイルは、ローカルパスに保存されている必要があります。このパスは「参照」で調整できます。

5.2.8. パッケージ選択

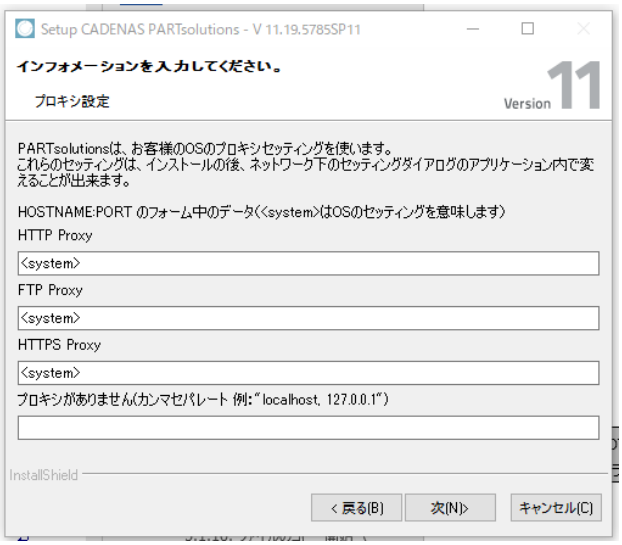
「5.1 サーバーインストレーション」でインストールされたパッケージが表示されるので、順次下の画像にしたがって選択し「次」へ進んでください。





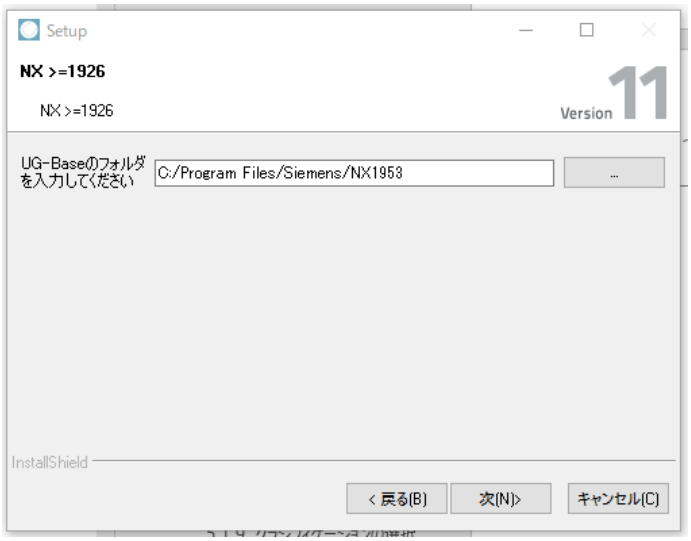
NOTE :
クライアントで使用する CAD のみチェックを入れます。

5.2.8.1.プロキシ設定



PARTsolutions は、OS のプロキシ設定を使用します。これらの設定は、アプリケーションのインストール後に、「ネットワーク」の設定ダイアログで設定することができます。HOSTNAME:PORT の形式のデータ（<system>はシステム設定を意味します。

5.2.9. その他の設定



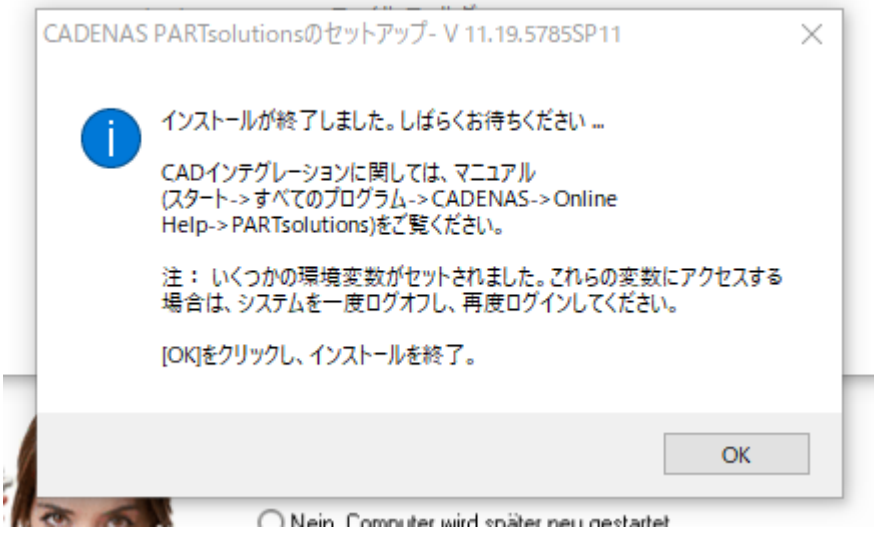
NOTE :
CAD によって異なります。表示されない場合もあります。

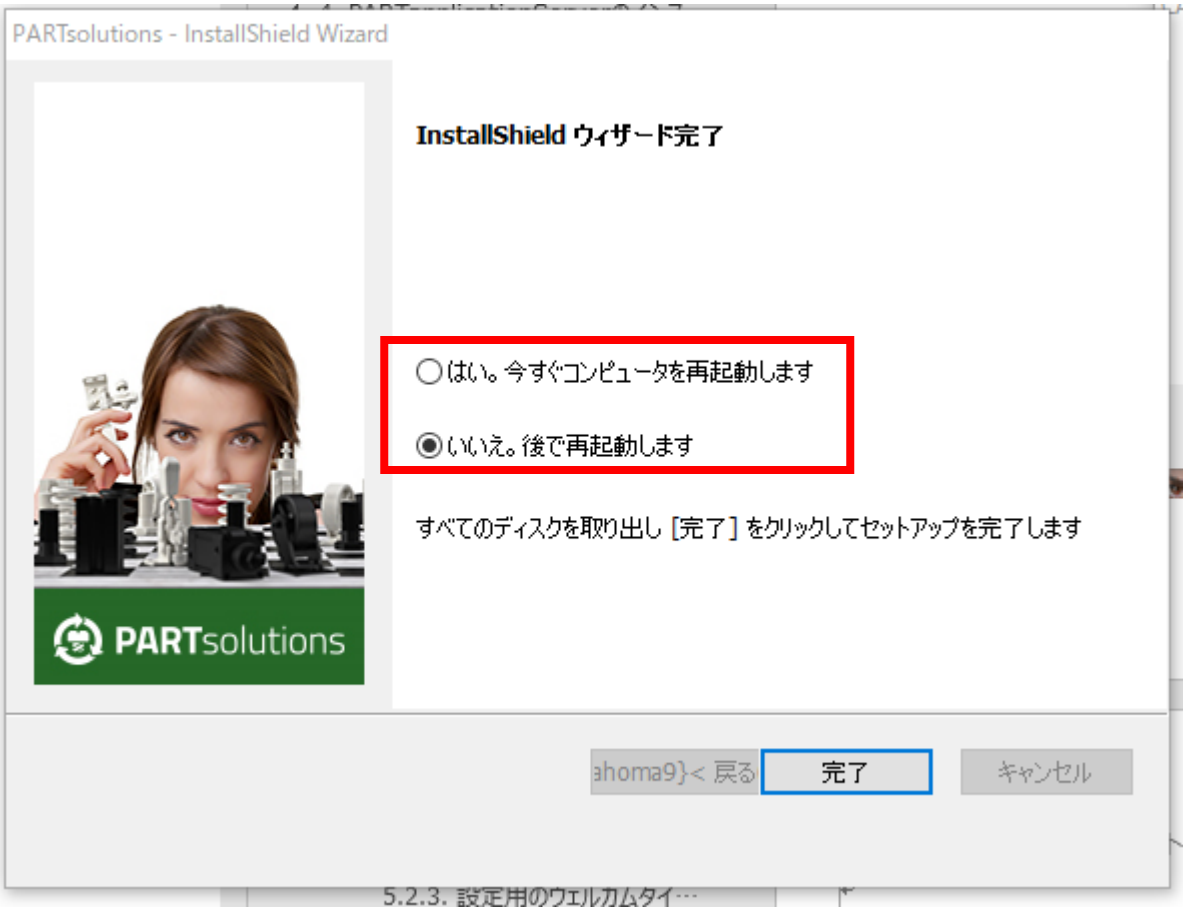
5.2.10. コピー開始

クライアントから見た「$CADENAS」「$CADENAS_DATA」「$CADENAS_SETUP」が表示されます。

問題なければ「次へ」をクリックで、インストールが開始されます。

5.2.11. インストール終了





プログラムを使用するためには、コンピュータを再起動する必要があります。

どちらかを選択し、「完了」で確定します。

5.2.12. プログラム開始

Windows のスタートメニューに追加されます。